

取扱説明書

Levelflex FMP51

Modbus

ガイドレーダーレベル計





A0023555

目次

1	本説明書について	5			
1.1	本文の目的	5			
1.2	シンボル	5			
1.2.1	安全シンボル	5			
1.2.2	電気シンボル	5			
1.2.3	工具シンボル	5			
1.2.4	特定の情報や図に関するシンボル	6			
1.3	略語リスト	6			
1.4	関連資料	7			
1.5	登録商標	8			
2	安全上の基本注意事項	9			
2.1	要員の要件	9			
2.2	指定用途	9			
2.3	労働安全	9			
2.4	操作上の安全性	10			
2.5	製品の安全性	10			
2.5.1	CE マーク	10			
2.5.2	EAC 適合性	10			
3	製品説明	11			
3.1	製品構成	11			
3.1.1	Levelflex FMP51/FMP52/FMP54/ FMP55	11			
3.1.2	電子部ハウジング	12			
4	受入検査および製品識別表示	13			
4.1	納品内容確認	13			
4.2	製品識別表示	13			
4.2.1	銘板	13			
4.2.2	製造者所在地	13			
5	保管、輸送	14			
5.1	保管温度	14			
5.2	測定点への輸送	14			
6	設置	15			
6.1	取付要件	15			
6.1.1	適切な取付位置	15			
6.1.2	制限された条件下での取付け	16			
6.1.3	プローブの機械的負荷に関する注 意事項	17			
6.1.4	コアキシャルプローブの横方向か らの許容応力（曲げ強度）	19			
6.1.5	プロセス接続に関する情報	19			
6.1.6	プローブの固定	21			
6.1.7	特別な設置状況	23			
6.2	機器の取付け	31			
6.2.1	ツールリスト	31			
6.2.2	プローブの切断	31			
6.2.3	機器の取付け	33			
6.2.4	「センサ、分離型」バージョンの取 付け	34			
6.2.5	変換器ハウジングの回転	36			
6.2.6	表示部の回転	36			
6.3	設置状況の確認	37			
7	電気接続	38			
7.1	接続要件	38			
7.1.1	端子の割当て	38			
7.1.2	ケーブル仕様	38			
7.1.3	機器プラグ	38			
7.1.4	電源電圧	38			
7.1.5	過電圧保護	39			
7.2	機器の接続	39			
7.2.1	カバーを開ける	39			
7.2.2	接続	40			
7.2.3	差込式スプリング端子	40			
7.2.4	端子接続部のカバーを閉じる	41			
7.3	配線状況の確認	41			
8	操作オプション	42			
8.1	操作オプションの概要	42			
8.1.1	現場表示器を使用した操作メニ ューへのアクセス	42			
8.1.2	操作ツールによる操作メニューへ のアクセス	43			
8.2	操作メニューの構成と機能	44			
8.2.1	操作メニューの構成	44			
8.2.2	ユーザーの役割と関連するアクセ ス権	45			
8.2.3	データアクセス - セキュリティ	45			
8.3	表示部および操作モジュール	49			
8.3.1	表示形式	49			
8.3.2	操作部	51			
8.3.3	数字とテキストの入力	52			
8.3.4	コンテキストメニューを開く	54			
8.3.5	表示部および操作モジュール上の 反射波形表示	55			
9	ウィザードを使用した設定	56			
10	操作メニューを使用した設定	57			
10.1	機能チェック	57			
10.2	操作言語の設定	57			
10.3	レベル測定の設定	58			
10.4	界面測定の設定	60			
10.5	基準エコーカーブの記録	62			
10.6	現場表示器の設定	63			
10.6.1	レベル測定用の現場表示器の工場 設定	63			
10.6.2	界面測定用の現場表示器の工場 設定	63			
10.6.3	現場表示器の調整	63			

10.7	Modbus 通信の設定	64	15	操作メニュー	90
10.7.1	バスパラメータ	64	15.1	操作メニューの概要 (表示モジュール)	90
10.7.2	機器パラメータ	64	15.2	操作メニューの概要 (操作ツール)	97
10.7.3	プロセスパラメータ	64	15.3	「設定」メニュー	103
10.8	設定管理	65	15.3.1	「マッピング」ウィザード	116
10.9	不正アクセスからの設定の保護	66	15.3.2	「高度な設定」サブメニュー	117
11	診断およびトラブルシューティング	67	15.4	「診断」メニュー	165
11.1	一般トラブルシューティング	67	15.4.1	「診断リスト」サブメニュー	168
11.1.1	一般エラー	67	15.4.2	「イベントログブック」サブメニュー	169
11.1.2	パラメータ設定エラー	67	15.4.3	「機器情報」サブメニュー	170
11.2	現場表示器の診断情報	69	15.4.4	「測定値」サブメニュー	173
11.2.1	診断メッセージ	69	15.4.5	「データのログ」サブメニュー	176
11.2.2	対処法の呼び出し	71	15.4.6	「シミュレーション」サブメニュー	179
11.3	操作ツール上の診断イベント	71	15.4.7	「機器チェック」サブメニュー	183
11.4	診断リスト	73	15.5	Modbus レジスタの割り当て	185
11.5	イベントログブック	73	15.5.1	レジスタテーブル	185
11.5.1	イベント履歴	73	15.5.2	診断バイトの形式	186
11.5.2	イベントログブックのフィルタ処理	74	15.5.3	ステータスバイトの形式	187
11.5.3	情報イベントの概要	74	索引	188	
11.6	ファームウェアの履歴	75			
12	メンテナンス	76			
12.1	外部洗浄	76			
12.2	一般的な洗浄方法	76			
13	修理	77			
13.1	一般情報	77			
13.1.1	修理コンセプト	77			
13.1.2	防爆認定機器の修理	77			
13.1.3	電子モジュールの交換	77			
13.1.4	機器の交換	77			
13.2	スペアパーツ	78			
13.3	返却	78			
13.4	廃棄	78			
14	アクセサリ	79			
14.1	機器固有のアクセサリ	79			
14.1.1	日除けカバー	79			
14.1.2	電子部ハウジングの取付ブラケット	80			
14.1.3	取付キット (絶縁)	81			
14.1.4	センタリングスター	82			
14.1.5	センタリングウェイト	84			
14.1.6	リモートディスプレイ FHX50	86			
14.1.7	過電圧保護	87			
14.1.8	HART 機器用の Bluetooth モジュール BT10	88			
14.2	通信関連のアクセサリ	89			
14.3	サービス関連のアクセサリ	89			
14.4	システムコンポーネント	89			
14.4.1	Memograph M RSG45	89			

1 本説明書について

1.1 本文の目的

本取扱説明書には、機器のライフサイクルの各段階（製品識別表示、納品内容確認、保管、設置、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 シンボル

1.2.1 安全シンボル



危険

危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。



警告

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。



注意

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷または中程度のけがを負う恐れがあります。



注記

潜在的に有害な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、製品や周囲のものを破損する恐れがあります。

1.2.2 電気シンボル

シンボル	意味
	直流電流
	交流電流
	直流/交流電流
	接地端子 オペレータを保護するために、接地システムを使用して接地された接地端子
	保護接地 (PE) その他の接続を行う前に接地端子の接地接続が必要です。 接地端子は機器の内側と外側にあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 内側の接地端子：保護接地と電源を接続します。 ■ 外側の接地端子：機器とプラントの接地システムを接続します。

1.2.3 工具シンボル



プラスドライバ



マイナスドライバ



Torx ドライバ



六角レンチ



スパナ

1.2.4 特定の情報や図に関するシンボル

✔ 使用可

許可された手順、プロセス、動作

✔✔ 推奨

推奨の手順、プロセス、動作

✘ 使用不可

禁止された手順、プロセス、動作

i ヒント

追加情報を示します。



資料参照



図参照



注意すべき注記または個々のステップ

1, 2, 3

一連のステップ



操作・設定の結果



目視確認



操作ツールによる操作



書き込み保護パラメータ

1, 2, 3, ...

項目番号

A, B, C, ...

図

⚠ → i 安全上の注意事項

関連する取扱説明書に記載された安全上の注意事項に注意してください。

🔌 接続ケーブルの温度耐性

接続ケーブルの温度耐性の最小値を指定します。

1.3 略語リスト

BA

資料『取扱説明書』

KA

資料『簡易取扱説明書』

TI

資料『技術仕様書』

SD

資料『個別説明書』

XA

資料『安全上の注意事項』

PN

定格圧力

MWP

最高動作圧力

MWP は銘板に記載されています。

ToF

Time of Flight（飛行伝播時間）

 ϵ_r (Dk)

比誘電率

PLC

プログラマブルロジックコントローラ（PLC）

CDI

サービスインターフェース

操作ツール

「操作ツール」という用語は、以下の操作ソフトウェアの代わりに使用されます。

SmartBlue（アプリ）：Android または iOS 搭載のスマートフォンまたはタブレット端末を用いた操作

RTU

リモート伝送ユニット（Remote Transmit Unit）

BD

不感知距離：BD の範囲内では信号が解析されません。

PLC

プログラマブルロジックコントローラ（PLC）


CDI

サービスインターフェース

PFS

パルス周波数ステータス（スイッチ出力）


1.4 関連資料

 関連する技術資料の概要については、以下を参照してください。

- デバイスビューワー（www.endress.com/deviceviewer）：銘板のシリアル番号を入力します。
- Endress+Hauser Operations アプリ：銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

ご注文の機器バージョンに応じて、以下の関連資料が用意されています。

資料タイプ	資料の目的および内容
技術仕様書 (TI)	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書 (KA)	初回の測定を迅速に行うための手引き 簡易取扱説明書には、受入検査から初期調整までに必要なすべての情報が記載されています。
取扱説明書 (BA)	参考資料 取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、受入検査、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

資料タイプ	資料の目的および内容
機能説明書 (GP)	使用するパラメータの参考資料 この資料には、各パラメータの詳細な説明が記載されています。本説明書は、全ライフサイクルにわたって本機器を使用し、特定の設定を行う人のために用意されたものです。
安全上の注意事項 (XA)	各種認定に応じて、危険場所で電気機器を使用するための安全上の注意事項も機器に付属します。安全上の注意事項は取扱説明書の付随資料です。  機器に対応する安全上の注意事項 (XA) の情報が銘板に明記されています。
機器固有の補足資料 (SD/FY)	関連する補足資料に記載される指示を常に厳守してください。補足資料は、機器資料に付随するものです。

1.5 登録商標

Modbus®

SCHNEIDER AUTOMATION, INC の登録商標です。

Bluetooth®

Bluetooth® の文字商標とロゴは Bluetooth SIG, Inc. の登録商標であり、Endress+Hauser は許可を受けてこのマークを使用しています。その他の商標や商品名は、その所有者に帰属します。

Apple®

Apple、Apple ロゴ、iPhone、iPod touch は、米国その他各国で登録された Apple Inc. の商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

Android®

Android、Google Play、Google Play ロゴは Google Inc. の登録商標です。

KALREZ®、VITON®

DuPont Performance Elastomers L.L.C., Wilmington, DE USA の登録商標です。

TEFLON®

E.I. DuPont de Nemours & Co., Wilmington, USA の登録商標です。

TRI-CLAMP®

Ladish & Co., Inc., Kenosha, USA の登録商標です。

NORD-LOCK®

Nord-Lock International AB の登録商標です。

FISHER®

Fisher Controls International LLC, Marshalltown, USA の登録商標です。

MASONEILAN®

Dresser, Inc., Addison, USA の登録商標です。

2 安全上の基本注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること。
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること。
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること。
- ▶ 作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、ならびに証明書（用途に応じて異なります）の説明を読み、内容を理解しておくこと。
- ▶ 指示に従い、基本条件を遵守すること。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること。
- ▶ 本資料の説明に従うこと。

2.2 指定用途

アプリケーションおよび測定物

本書で説明する計測機器は、液体のレベル測定と界面測定にのみ使用することを目的としたものです。ご注文の機器バージョンに応じて、本計測機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。

「技術データ」に明記されたりミット値および取扱説明書やその他の関連文書に記載された条件を遵守した場合に、計測機器を以下の測定にのみ使用できます。

- ▶ プロセス変数（測定値）：レベルおよび/または界面高さ
- ▶ プロセス変数（計算可能）：任意形状の容器内の体積または質量（リニアライゼーション機能によりレベルから計算）

稼働時間中、計測機器が適切な条件下にあるよう、次の点に注意してください。

- ▶ 本計測機器は、接液部材質の耐食性を十分に確保できる測定物の測定にのみ使用してください。
- ▶ 「技術データ」のりミット値に従ってください。

不適切な用途

不適切なあるいは指定用途以外での使用に起因する損傷については、製造者は責任を負いません。

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な液体および洗浄液に関して、Endress+Hauser では接液部材質の耐食性確認のサポートを提供いたしますが、保証や責任は負いかねます。

残存リスク

電子回路部での発熱に加えてプロセスからの伝熱により、電子回路部ハウジングとその中に格納されているアセンブリ（表示モジュール、メイン電子モジュール、I/O 電子モジュールなど）の温度が 80 °C (176 °F) まで上昇する可能性があります。運転中に、センサが測定物の温度に近い温度に達する可能性があります。

表面に接触すると火傷を負う危険があります。

- ▶ 流体温度が高い場合は、接触しないように保護対策を講じて、やけどを防止してください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各国の規制に従って、必要な個人用保護具を着用してください。

分離型ロッドプローブを使用すると、ロッドの個々の部品間の接合部に測定物が入り込むことがあります。接合部を緩めると、この測定物が流出する可能性があります。危険な（例：腐食性または毒性）測定物の場合、けがにつながる可能性があります。

- ▶ ロッドプローブの個々の部品間の接合部を緩めるときは、測定物に応じて適切な保護具を着用してください。

2.4 操作上の安全性

けがに注意！

- ▶ 適切な技術的条件下でエラーや故障がない場合にのみ、機器を操作してください。
- ▶ 事業者には、機器が正常に機能する状態を確保する責任があります。

機器の改造

無許可での機器の改造は、予測不可能な危険が生じる可能性があるため禁止されています。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、明確に許可された場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各国の規定を遵守してください。
- ▶ 弊社純正スペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

危険場所

危険場所（例：防爆、圧力容器安全）で機器を使用する場合に、要員やプラントが危険にさらされないよう、以下の点にご注意ください。

- ▶ 注文した機器が危険場所仕様になっていることを銘板で確認してください。
- ▶ 本書に付随する別冊の補足資料の記載事項にご注意ください。

2.5 製品の安全性

本計測機器は、最新の安全要件に適合するように GEP（Good Engineering Practice）に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。本機器は一般的な安全基準および法的要件を満たしています。

注記

湿潤環境下で機器を開けると保護等級が無効になります。

- ▶ 湿潤環境下で機器を開けると、銘板に示された保護等級の有効性が失われます。これは、機器の安全な操作を妨げる可能性もあります。

2.5.1 CE マーク

本計測システムは、適用される EU 指令の法的要件を満たしています。これについては、適用される規格とともに EU 適合宣言に明記されています。

Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、CE マークを付けることにより保証いたします。

2.5.2 EAC 適合性

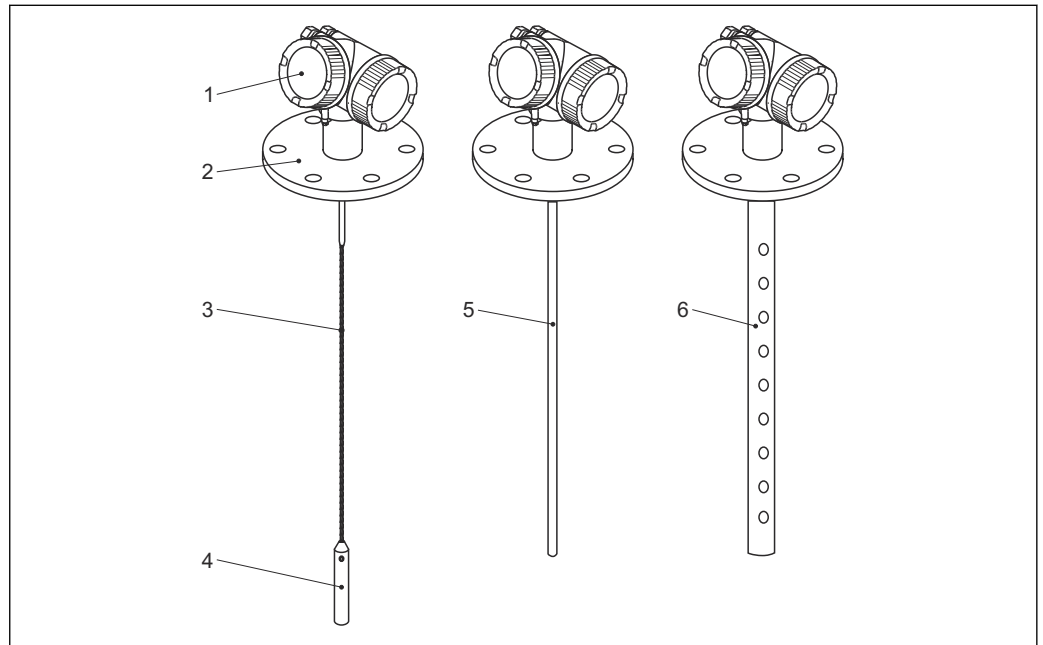
本計測システムは、適用される EAC ガイドラインの法的要件を満たしています。これらの要求事項は、適用される規格とともに EAC 適合宣言に明記されています。

Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、EAC マークを付けることにより保証いたします。

3 製品説明

3.1 製品構成

3.1.1 Levelflex FMP51/FMP52/FMP54/FMP55

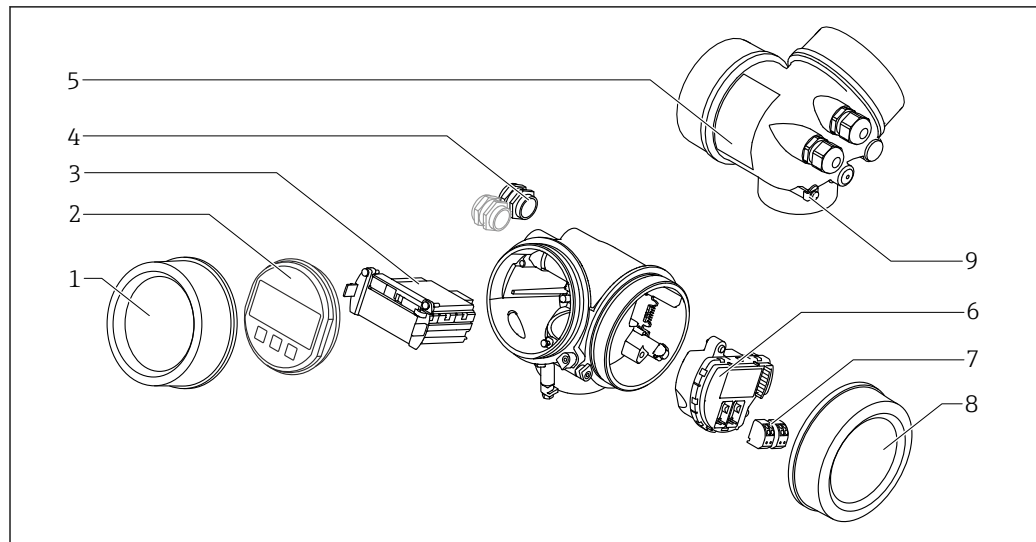


A0012399

図 1 Levelflex の構造

- 1 電子部ハウジング
- 2 プロセス接続部 (例として: フランジ)
- 3 ローププローブ
- 4 プローブ終端ウェイト
- 5 ロッドプローブ
- 6 コアキシャルプローブ

3.1.2 電子部ハウジング



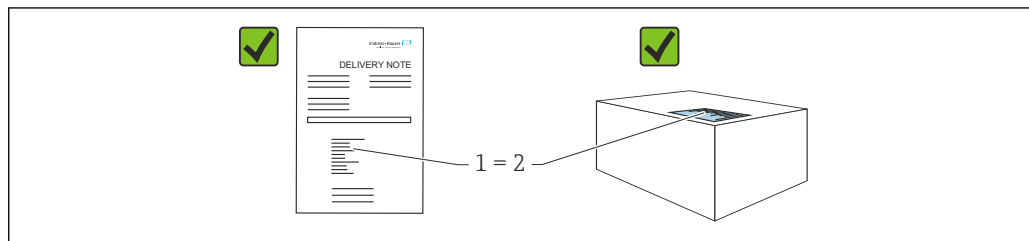
A0012422

図 2 電子回路部ハウジングの構成

- 1 表示部のカバー
- 2 表示モジュール
- 3 メイン電子モジュール
- 4 ケーブルグランド (機器のバージョンに応じて1または2)
- 5 銘板
- 6 I/O 電子モジュール
- 7 端子 (ばね荷重端子、取外可能)
- 8 端子部カバー
- 9 接地端子

4 受入検査および製品識別表示

4.1 納品内容確認



A0016870

納品内容確認に際して、以下の点をチェックしてください。

- 発送書類のオーダーコード (1) と製品ステッカーのオーダーコード (2) が一致するか？
- 納入品に損傷がないか？
- 銘板のデータがご注文の仕様および発送書類と一致しているか？
- ドキュメントはあるか？
- 必要に応じて（銘板を参照）：安全上の注意事項（XA）が提供されているか？

i 1つでも条件が満たされていない場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

4.2 製品識別表示

機器を識別するには以下の方法があります。

- 銘板の仕様
- 納品書に記載された拡張オーダーコード（機器仕様コードの明細付き）
- ▶ デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - ↳ 機器に関するすべての情報が表示されます。
- ▶ Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を手動入力するか、銘板の2Dマトリクスコードをスキャンしてください。
 - ↳ 機器に関するすべての情報が表示されます。

4.2.1 銘板

法律で定められた記載情報および機器の関連情報は銘板に明記されています。以下に例を示します。

- 製造者識別
- オーダー番号、拡張オーダーコード、シリアル番号
- 技術データ、保護等級
- ファームウェアバージョン、ハードウェアバージョン
- 認定関連情報、安全上の注意事項（XA）参照
- データマトリクスコード（機器に関する情報）

4.2.2 製造者所在地

Endress+Hauser SE+Co. KG
Hauptstraße 1
79689 Maulburg, Germany

製造場所：銘板を参照してください。

5 保管、輸送

5.1 保管温度

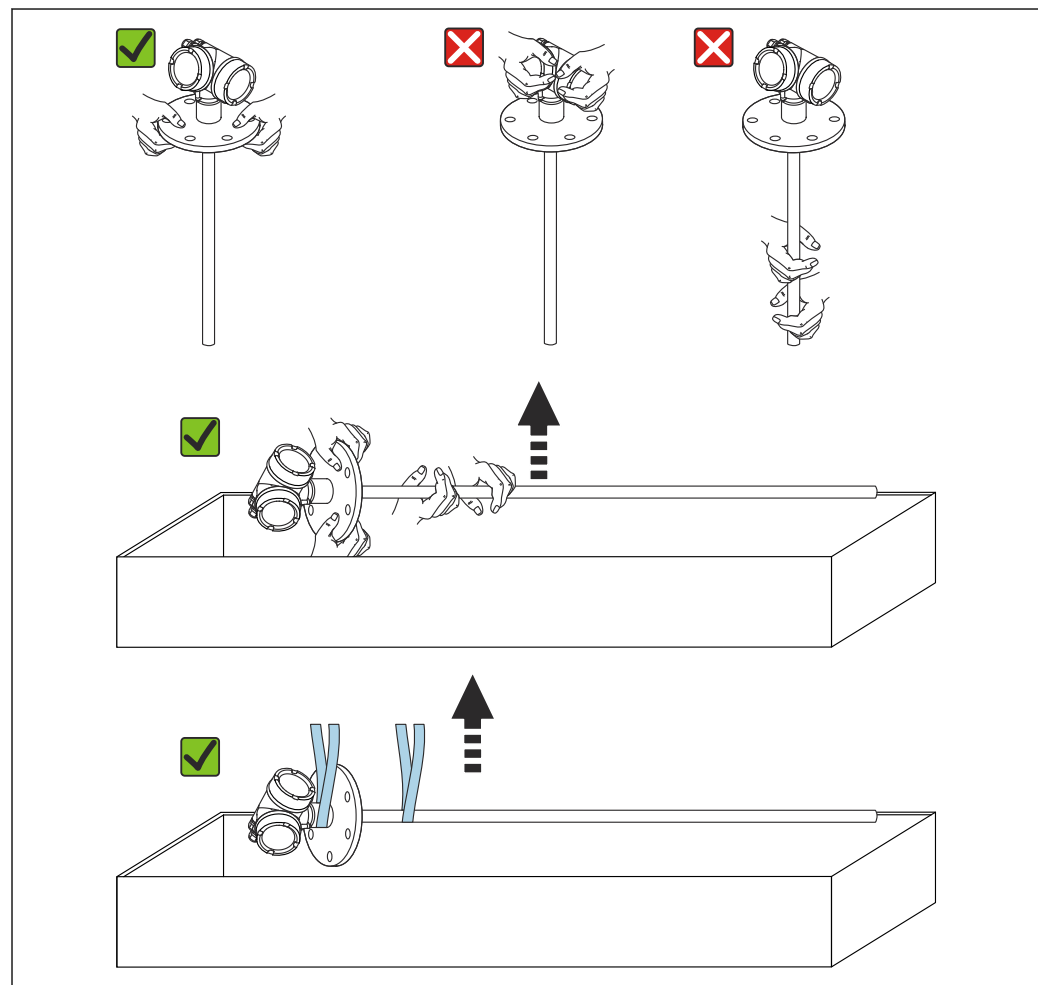
- 許容保管温度：-40～+80 °C (-40～+176 °F)
- 納入時の梱包材をご利用ください。
- FMP51 および FMP54 のオプション：-50～+80 °C (-58～+176 °F)
この範囲は、オーダーコード 580 「試験、証明」でオプション JN 「変換器の周囲温度」 -50 °C (-58 °F) を選択した場合に有効となります。温度が恒久的に -40 °C (-40 °F) 以下になる場合、故障率が高まることが予想されます。

5.2 測定点への輸送

⚠ 警告

ハウジングまたはプローブが損傷する、あるいは、折れる恐れがあります。
けがに注意！

- ▶ 計測機器を測定点に搬送する場合は、納入時の梱包材を使用するか、プロセス接続部を持ってください。
- ▶ 吊上装置（吊り帯、アイボルトなど）は必ずプロセス接続部に固定し、絶対に電子部ハウジングまたはプローブで持ち上げないでください。機器が意図せずに傾いたり、滑ったりしないよう、機器の重心に注意してください。
- ▶ 18 kg (39.6 lbs) 以上の機器については、安全上の注意事項および輸送条件に従ってください (IEC 61010)。



A0013920

6 設置

6.1 取付要件

6.1.1 適切な取付位置

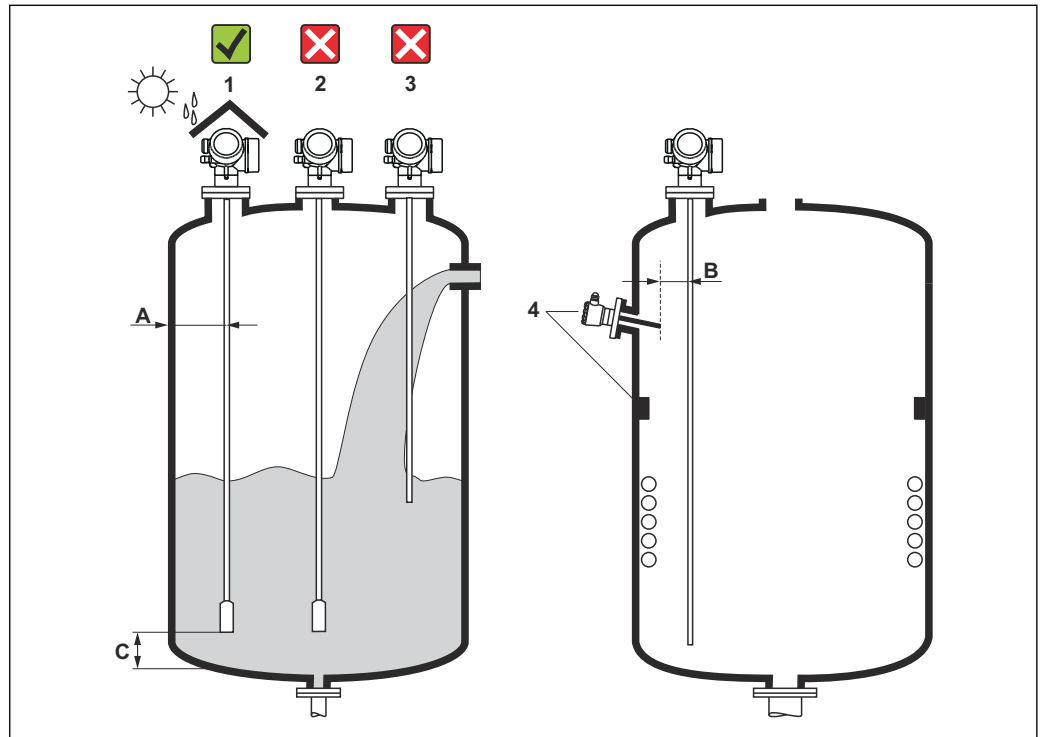


図 3 取付け位置

取付間隔に関する要件

- タンク壁とロッド/ローププローブとの距離 (A) :
 - 平らな金属壁の場合 : 50 mm (2 in) 以上
 - プラスチック壁の場合 : タンク外側の金属部品から 300 mm (12 in) 以上
 - コンクリート壁の場合 : 500 mm (20 in) 以上。そうでない場合は、測定範囲が減少する可能性があります。
- ロッドプローブと内部設置物 (3) との距離 (B) : 300 mm (12 in) 以上
- 複数の Levelflex を使用する場合 :
 - センサ軸間の最小距離は 100 mm (3.94 in) です。
- プローブ終端とタンクの底からの距離 (C) :
 - ローププローブ : 150 mm (6 in) 以上
 - ロッドプローブ : 10 mm (0.4 in) 以上
 - コアキシャルプローブ : 10 mm (0.4 in) 以上

i コアキシャルプローブは、壁や内部設置物から任意の距離に取り付けることができます。

その他の取付要件

- 屋外に設置する場合は、厳しい気象条件から機器を保護するために日除けカバー (1) を使用できます。
- 金属タンクに設置する場合は、不要反射が強くなるため、プローブはタンク中心 (2) に取り付けないことを推奨します。
どうしても中心の取付位置が避けられない場合は、機器の設定後に不要反射の抑制 (マッピング) を実施してください。
- 投入時に幕が形成される位置 (3) にはプローブを取り付けしないでください。
- 設置時や運転中にローププローブが折れ曲がらないように (例: 測定物がサイロ壁に向かって移動した結果)、適切な取付位置を選定してください。

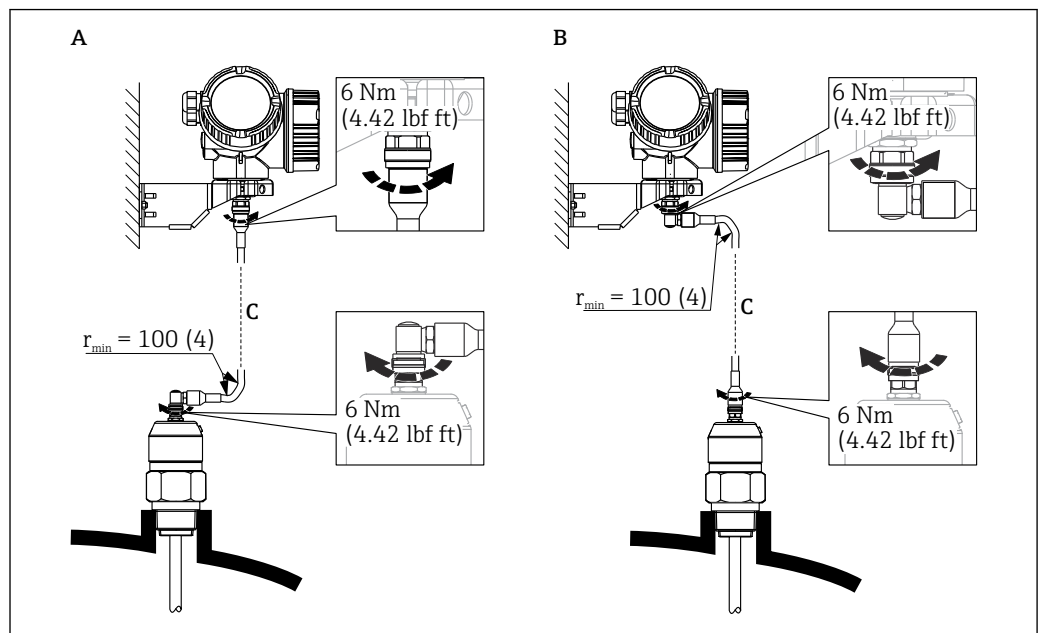
i 吊り下げ式のローププローブの場合 (プローブ終端が底に固定されていない)、ローププローブと内部設置物の距離は、測定物が動くことで変化する可能性があるため、300 mm (12 in) 以下にできません。測定物の比誘電率 $\epsilon_r = 1.8$ 以上であれば、プローブのウェイトとタンクの円錐部が接触することがあっても測定には影響しません。

i ハウジングをくぼみ (コンクリート製の天井など) に取り付ける場合は、端子部/表示部カバーと壁の間に 100 mm (4 in) 以上の距離を確保してください。そうでない場合は、設置後に端子部/表示部にアクセスできなくなります。

6.1.2 制限された条件下での取付け

分離型プローブの取付け

分離型プローブの機器バージョンは、取付けスペースが制限されるアプリケーションに最適です。この場合、電子部ハウジングはプローブとは別の位置に取り付けられます。

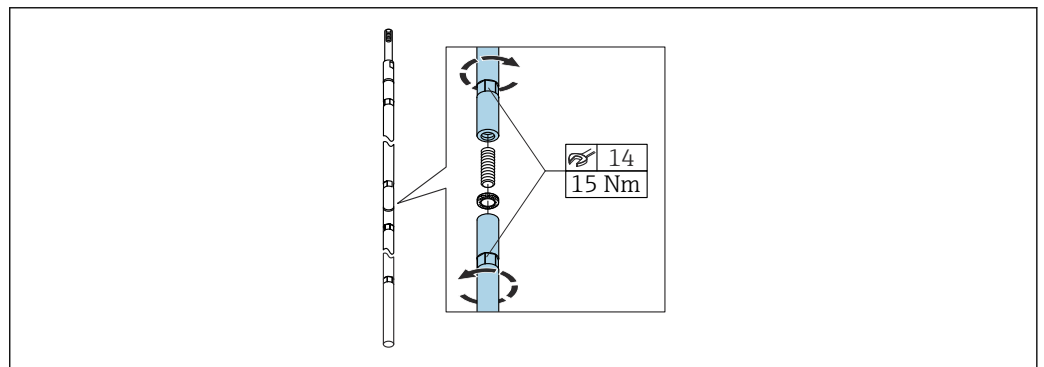


A0014794

- A プローブ側に角度付きプラグ
B 電子部ハウジング側に角度付きプラグ
C 注文したリモートケーブルの長さ

- 製品構成、仕様コード 600「プローブ型式」：
 - バージョン MB「分離型センサ、3 m ケーブル」
 - バージョン MC「分離型センサ、6 m ケーブル」
 - バージョン MD「分離型センサ、9 m ケーブル」
 - これらのバージョンには、接続ケーブルが同梱されます。
最小曲げ半径：100 mm (4 inch)
 - これらのバージョンには、電子部ハウジング用の取付ブラケットが同梱されます。取付オプション：
 - 壁面取付け
 - DN32～DN50 (1¼～2 inch) の柱またはパイプに取付け
 - 接続ケーブルには、ストレートプラグおよび角度付きプラグ (90°) 各 1 つが付いています。現場の状況に応じて、角度付きプラグをプローブ側または電子部ハウジング側に接続できます。
- i** プローブ、電子モジュール、接続ケーブルは相互に互換性があり、共通のシリアル番号が付いています。接続する際には、必ず、シリアル番号が同じ部品同士を接続してください。

分離型プローブ



A0021647

取付条件（天井までの距離）に制限がある場合は、分離型ロッドプローブ（ $\varnothing 16 \text{ mm}$ ）の使用をお勧めします。

- 最大プローブ長 10 m (394 in)
- 横方向からの最大許容応力 30 Nm
- 分離型プローブは以下の長さを単位として、複数を組み合わせて使用することができます。
 - 500 mm (20 in)
 - 1000 mm (40 in)

i 個々のロッドセグメント間の接合部は、中にあるノルトロックワッシャによって固定されます。事前組立てされた対のワッシャを、カム面同士が向き合うように挿入します。

6.1.3 プローブの機械的負荷に関する注意事項

ローブプローブの許容引張荷重

FMP51

ローブ 4 mm ($\frac{1}{8}$ in)、SUS 316 相当

許容引張荷重 5 kN

ローブ 4 mm ($\frac{1}{8}$ in)、アロイ C

許容引張荷重 5 kN

ローブ 4 mm ($\frac{1}{8}$ in)、PFA > SUS 316L 相当

許容引張荷重 1 kN

ロッドプローブの横応力（曲げ強度）

FMP51

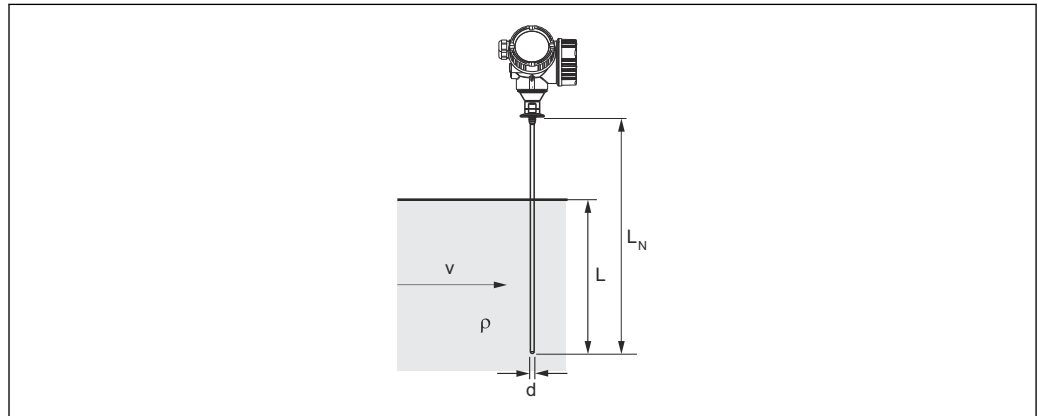
ロッド 8 mm (1/3 in)、SUS 316L 相当
 曲げ強度 10 Nm

ロッド 12 mm (1/2 in)、SUS 316L 相当
 曲げ強度 30 Nm

ロッド 12 mm (1/2 in)、アロイ C
 曲げ強度 30 Nm

ロッド 16 mm (0.63 in)、SUS 316L 相当（分離型）
 曲げ強度 30 Nm

流動条件に起因する横荷重（曲げモーメント）



A0014175

- ρ 測定物密度 [kg/m³]
- v 測定物の流速 [m/s]、ロッドプローブに対して垂直
- d ロッドプローブの直径 [m]
- L レベル [m]
- L_N プローブ長 [m]

プローブに作用する曲げモーメント M の計算式：

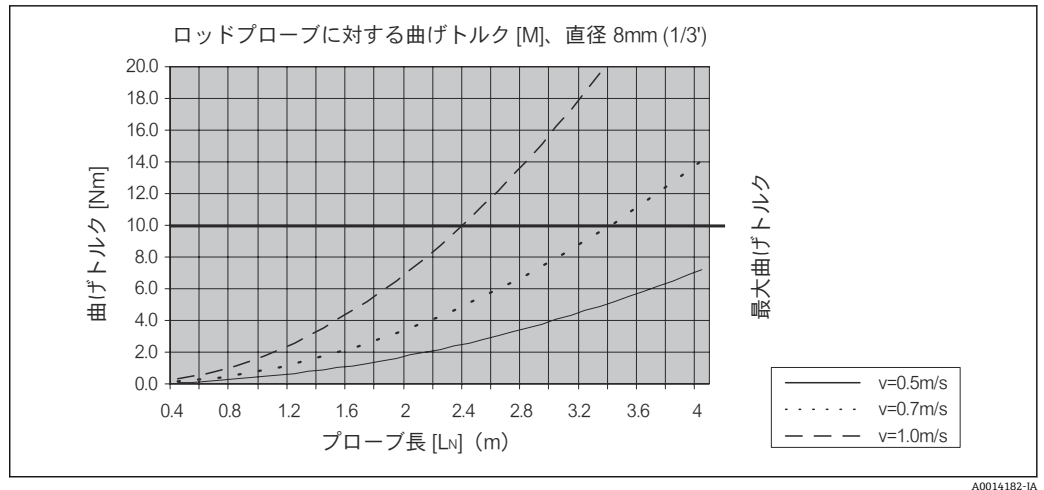
$$M = c_w \times \rho / 2 \times v^2 \times d \times L \times (L_N - 0.5 \times L)$$

各項目の説明：

c_w：摩擦係数

計算例

摩擦係数 c _w	0.9 (乱流 - 高レイノルズ数と仮定)
密度 ρ [kg/m ³]	1000 (例：水)
プローブ直径 [m]	0.008
L = L _N	(条件不良)



6.1.4 コアキシャルプローブの横方向からの許容応力（曲げ強度）

FMP51

プローブ $\phi 21.3$ mm、SUS 316L 相当
 曲げ強度：60 Nm

プローブ $\phi 42.4$ mm、SUS 316L 相当
 曲げ強度：300 Nm

プローブ $\phi 42.4$ mm、アロイ C
 曲げ強度：300 Nm

6.1.5 プロセス接続に関する情報

i プローブは、ネジ込み接続またはフランジを使用してプロセス接続部に取り付けます。この設置方法でプローブ終端が大きく移動してタンク底面や円錐部に時々接触する恐れがある場合は、プローブ下端を切断して位置を固定する必要があります。

ネジ込み接続

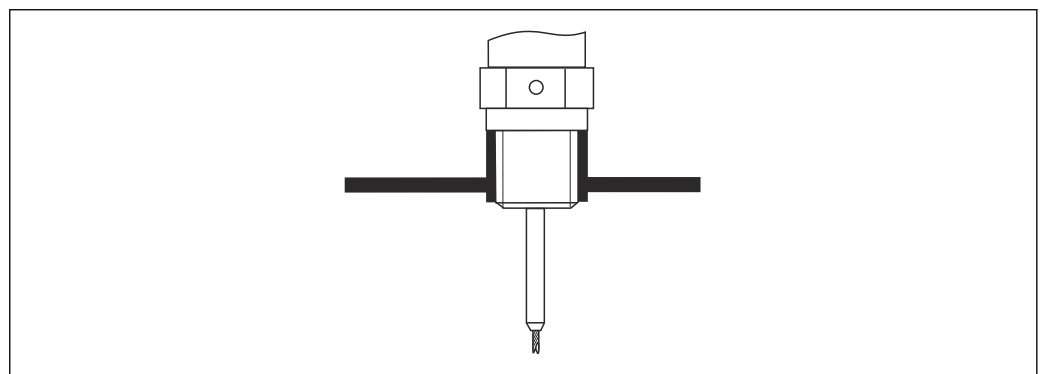


図 4 ネジ込み接続による取付け；容器天井と同一平面上

シーリング

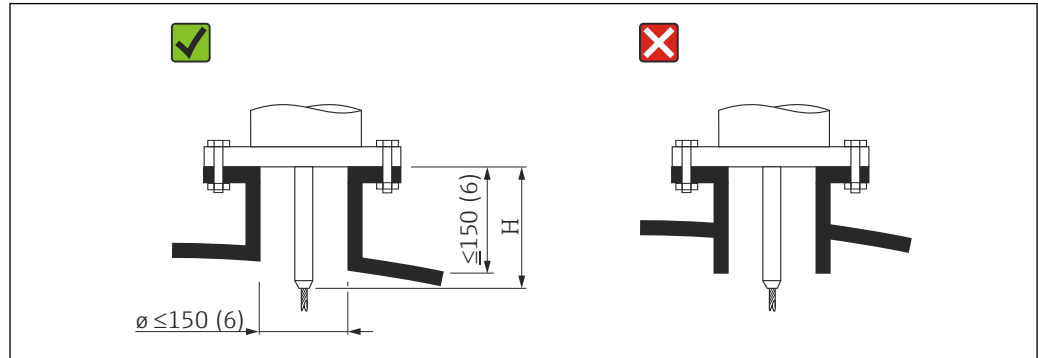
ネジおよびシールのタイプは、DIN3852 Part 2、ねじ込みプラグ、Form A に準拠します。

以下のシールリングタイプを使用できます。

- ネジ G $\frac{3}{4}$ " 用 : DIN7603 に準拠、寸法 27 mm × 32 mm
- ネジ G1 $\frac{1}{2}$ " 用 : DIN 7603 に準拠、寸法 48 mm × 55 mm

用途に対して適切な耐久性のある材質で、この規格に適合する Form A、C、D のシールリングを使用してください。

ノズル取付け



A0015122

H センタリングロッドまたはローププローブの固い部分の長さ

- 許容されるノズル直径 : $\leq 150 \text{ mm (6 in)}$
これより大口径の場合、近い範囲の測定能力が低下する可能性があります。
大口径のノズルについては、「ノズル $\geq \text{DN}300$ に取付け」セクションを参照してください。
- 許容されるノズル高さ : $\leq 150 \text{ mm (6 in)}$
これよりノズル高さがある場合、近い範囲の測定能力が低下する可能性があります。
特別な場合は (必要に応じて)、ノズル高さを高くすることが可能です (「FMP51 および FMP52 用のセンタリングロッド」および「FMP54 用のロッド伸長パイプ/センタリングリング HMP40」セクションを参照)。
- リンギング効果を避けるために、ノズル終端をタンク天板と同一平面にする必要があります。

i 断熱材付きタンクの場合、凝縮液の形成を防ぐためにノズルも断熱する必要があります。

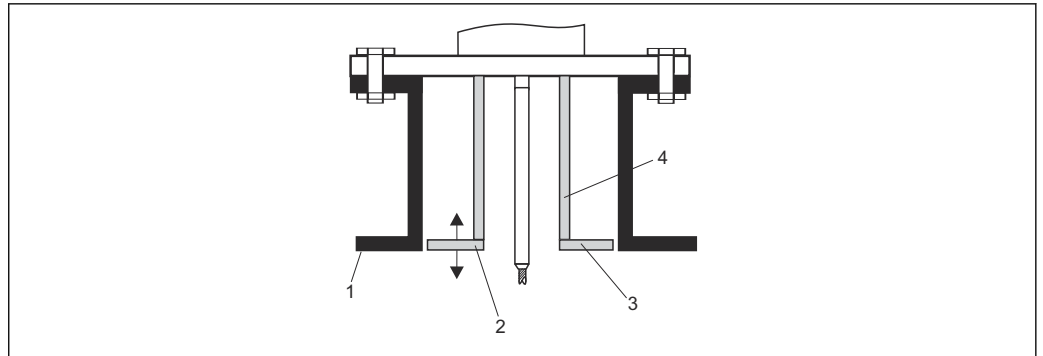
センタリングロッド

ローププローブの場合、プロセス中にロープがノズル壁に接触しないよう、センタリングロッド付きバージョンの使用が必要になる場合があります。

オプションのセンタリングロッドの長さにより、最大ノズル高さが決定します。

ノズル $\geq \text{DN}300$ に取付け

300 mm (12 in) 以上のノズルに設置することが避けられない場合は、近い範囲の干渉信号を防ぐため、下図に従って設置してください。

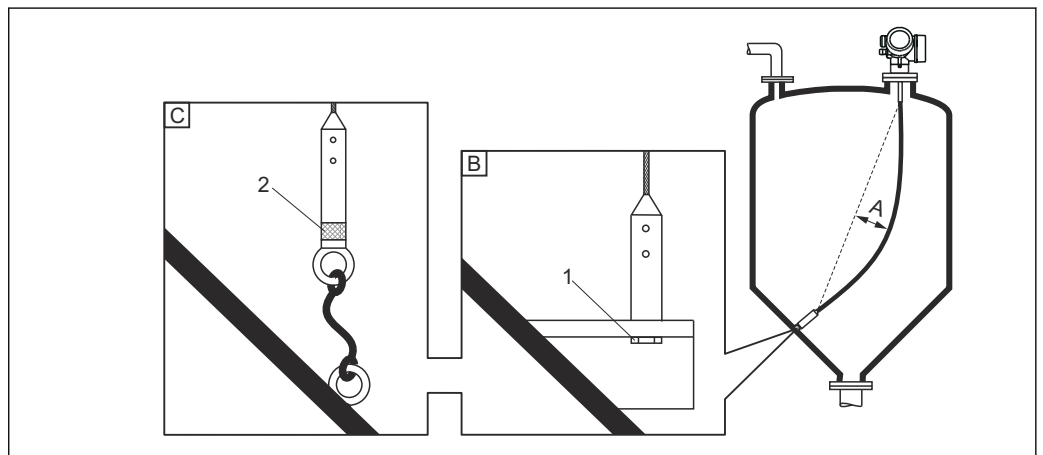


A0014199

- 1 ノズル下端
- 2 ノズル下端とほぼ同一平面上 (±50 mm)
- 3 プレート、ノズル $\varnothing 300$ mm (12 in) = プレート $\varnothing 280$ mm (11 in) ; ノズル $\varnothing \geq 400$ mm (16 in) = プレート $\varnothing \geq 350$ mm (14 in)
- 4 パイプ $\varnothing 150 \sim 180$ mm

6.1.6 プロブの固定

ローププロブの固定



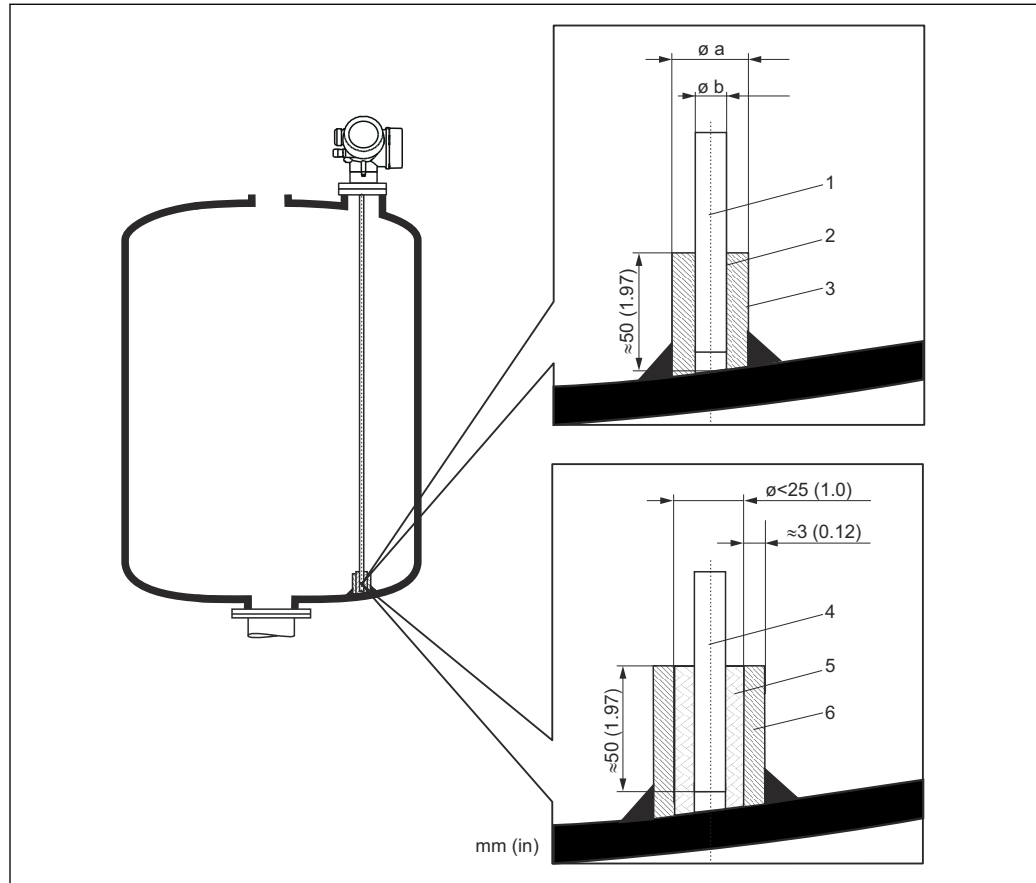
A0012609

- A たるみ : ≥ 10 mm/m (0.12 in/ft) プロブ長
- B 確実に接地されたプロブ終端
- C 確実に絶縁されたプロブ終端
- 1 プロブウェイトのめねじ内の留め具
- 2 絶縁された固定キット

- 次の場合は、ローププロブ終端を固定または下に固定する必要があります。
 プロブがタンク壁、円錐部、内部設置物/梁、その他の設置部品と一時的に接触する場合
- プロブウェイトには、プロブ終端を固定するためのめねじが用意されています。
 ロープ 4 mm (1/8 in)、SUS 316 相当 : M14
- 下に固定する場合は、プロブ終端を確実に接地するか、または確実に絶縁する必要があります。確実に絶縁された接続部でプロブを固定できない場合は、絶縁された固定キットを使用してください。
- プロブ終端を下に固定して接地する場合は、正のプロブ終端信号の検索を有効にする必要があります。そうしないと、自動プロブ長補正が行われません。
 ナビゲーション : エキスパート → センサ → EOP 評価 → EOP 検索モード
 設定 : **正の EOP 値** オプション
- 張力が極端に高くないよう (例 : 熱膨張により)、またロープ切断の危険性を避けるために、ロープはたるませてください。必要なたるみ : ≥ 10 mm/m (0.12 in/ft) ロープ長。
 ローププロブの許容引張荷重に注意してください。

ロッドプローブの固定

- WHG 認証の場合：プローブ長が 3 m (10 ft) 以上の場合は支持が必要です。
- 一般に、水平方向の流れがある場合（例：攪拌機により）や振動が激しい場合は、ロッドプローブを固定しなければなりません。
- ロッドプローブは、必ずプローブ終端を直接固定してください。



A0012607

測定単位 mm (in)

- 1 ロッドプローブ、コーティングなし
- 2 スリーブとロッドを確実に電気接触させるため穴径が大きすぎないスリーブ
- 3 短い金属パイプ（例：溶接固定）
- 4 ロッドプローブ、コーティングあり
- 5 プラスチックスリーブ（例：PTFE、PEEK、PPS）
- 6 短い金属パイプ（例：溶接固定）

プローブ $\varnothing 8$ mm (0.31 in)

- $a < \varnothing 14$ mm (0.55 in)
- $b = \varnothing 8.5$ mm (0.34 in)

プローブ $\varnothing 12$ mm (0.47 in)

- $a < \varnothing 20$ mm (0.78 in)
- $b = \varnothing 12.5$ mm (0.52 in)

プローブ $\varnothing 16$ mm (0.63 in)

- $a < \varnothing 26$ mm (1.02 in)
- $b = \varnothing 16.5$ mm (0.65 in)

注記

プローブ終端の接地が不十分だと、正しく測定されない場合があります。

- ▶ スリーブとロッドプローブを確実に電気接触させるため穴径が大きすぎないスリーブを使用してください。

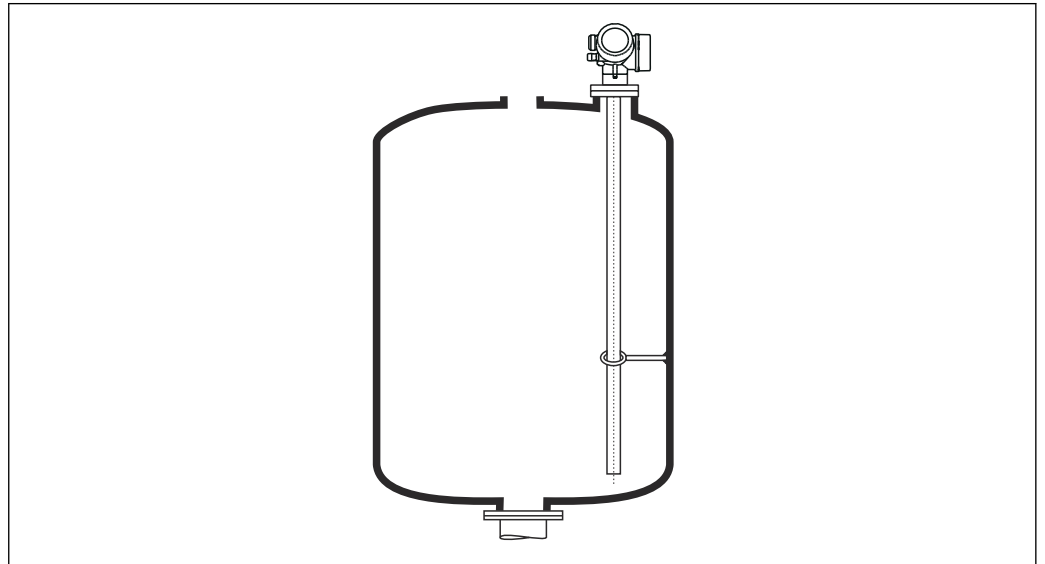
注記

溶接によりメイン電子モジュールが損傷する可能性があります。

- ▶ 溶接作業を行う前に：ロッドプローブを接地し、電子モジュールを取り外してください。

コアキシャルプローブの固定

WHG 認証の場合：プローブ長が 3 m (10 ft) 以上の場合は支持が必要です。

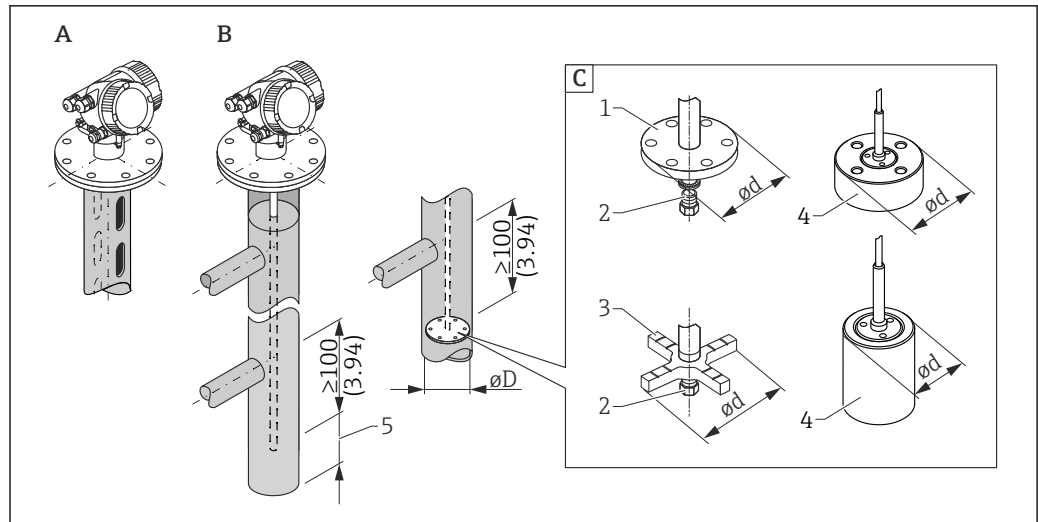


A0012608

コアキシャルプローブは、グラウンドチューブの任意の場所で固定できます。

6.1.7 特別な設置状況**外筒管および内筒管**

- i** 外筒管および内筒管アプリケーションでは、センタリングディスク/スター/ウェイト（アクセサリとして入手可能）の使用を推奨します。
- i** 測定信号は多くのプラスチックを透過するため、プラスチック製の外筒管/内筒管に機器を設置すると、不正確な測定結果がもたらされることがあります。このため、金属製の外筒管/内筒管を使用してください。



A0039216

図 5 単位 : mm (in)

- A 内筒管に取付け
- B 外筒管に取付け
- C センタリングディスク/センタリングスター/センタリングウェイト
- 1 レベル測定用の金属製センタリングディスク (SUS 316L 相当)
- 2 固定ねじ; トルク: $25 \text{ Nm} \pm 5 \text{ Nm}$
- 3 界面測定用に推奨される非金属製センタリングスター (PEEK, PFA)
- 4 レベル測定用の金属製センタリングウェイト (SUS 316L 相当)
- 5 プロブ終端と外筒管の下端との最小距離 10 mm (0.4 in)

- 配管径 : $> 40 \text{ mm}$ (1.6 in) (ロッドプローブの場合)
 - ロッドプローブは、直径 150 mm (6 in) までのパイプに取り付けることができます。これより配管径が大きい場合は、コアキシャルプローブの使用を推奨します。
 - 側面の排出口、穴、スロット、溶接部 (内側に最大 5 mm (0.2 in) 突き出ている) は、測定に影響しません。
 - パイプ直径は変化が生じないようにしてください。
 - プロブは下側の排出口よりも 100 mm (4 in) 長くなるようにしてください。
 - プロブは、測定範囲内でパイプ壁に接触しないようにしてください。必要に応じて、プロブを支持するか、または張って固定します。すべてのローブプローブは、タンク内で張って固定できるように準備されています (アンカー穴付きのプロブウェイト)。
 - ロッドプローブの終端に金属製センタリングディスクが取り付けられている場合は、プローブ終端を検出するための信号を確実に設定できます。
- 注意:** 界面測定には、PEEK または PFA 製の非金属製センタリングスターが推奨されます。金属製センタリングディスクを使用する場合は、センタリングディスクが常に下部測定物に覆われている必要があります。そうでない場合は、界面測定の結果が不正確になる可能性があります。
- コアキシャルプローブは、配管径で取付けが許容される限り、制限なく使用できます。

i 凝縮液 (水) が形成された外筒管および比誘電率の低い測定物 (炭化水素など) の場合:

時間の経過とともに、外筒管は下側の排出口まで凝縮液で満たされます。レベルが低い場合、レベルエコーは凝縮液のエコーによってマスクされます。この範囲では凝縮液のレベルが出力され、これよりレベルが高い場合にのみ正しい値が出力されます。そのため、測定する最低レベルよりも下側の排出口が 100 mm (4 in) 低いことを確認し、下側の排出口下端のレベルに金属製センタリングディスクを取り付けます。

i 断熱材付きタンクの場合、凝縮液の形成を防ぐために外筒管も断熱する必要があります。

パイプ直径に対するセンタリングディスク/センタリングスター/センタリングウェイトの割当て**金属製センタリングディスク (SUS 316L 相当)**

レベル測定の場合

ロッドセンタリングディスク (∅ d) : 45 mm (1.77 in)

配管径 (∅ D)

DN50~DN65 (2"~2½")

ロッドセンタリングディスク (∅ d) : 75 mm (2.95 in)

配管径 (∅ D)

DN80~DN100 (3"~4")

ロープセンタリングディスク (∅ d) : 75 mm (2.95 in)

配管径 (∅ D)

DN80~DN100 (3"~4")

金属製センタリングウェイト (SUS 316L 相当)

レベル測定の場合

ロープセンタリングウェイト (∅ d) : 45 mm (1.77 in)、h 60 mm (2.36 in)

配管径 (∅ D)

DN50/2"

ロープセンタリングウェイト (∅ d) : 75 mm (2.95 in)、h 30 mm (1.81 in)

配管径 (∅ D)

DN80/3"

ロープセンタリングウェイト (∅ d) : 95 mm (3.74 in)、h 30 mm (1.81 in)

配管径 (∅ D)

DN100/4"

非金属性センタリングスター (PEEK)

レベル測定および界面測定用、動作温度 : -60~+250 °C (-76~482 °F)

ロッドセンタリングスター (∅ d) : 48~95 mm (1.89~3.74 in)

配管径 (∅ D)

≥ DN50/2"

非金属性センタリングスター (PFA)

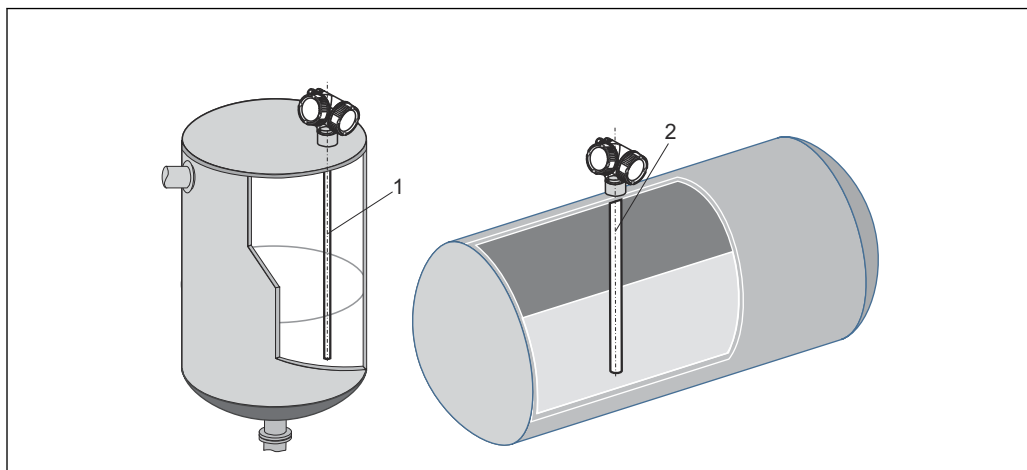
レベル測定および界面測定用、動作温度 : -200~+250 °C (-328~+482 °F)

ロッドセンタリングスター (∅ d) : 37 mm (1.46 in)

配管径 (∅ D)

≥ 40 mm (1.57 in)

枕タンクおよび縦型タンク

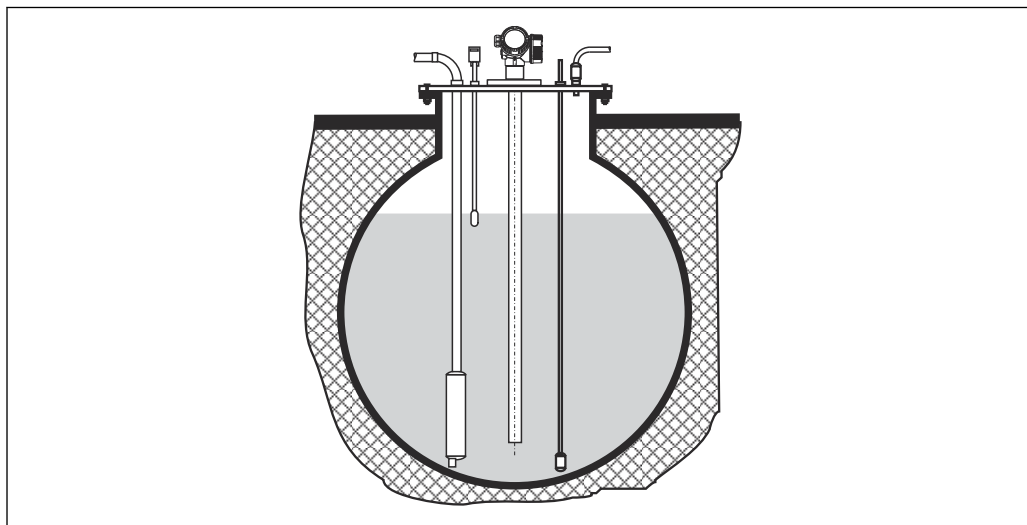


A0014141

1 コアキシャルプローブ

- 時々接触するようなことがない限り、壁面との距離は任意です。
- 内部設置物が多いタンクに設置する場合、またはプローブの近くに内部設置物がある場合は、コアキシャルプローブ (1) を使用してください。

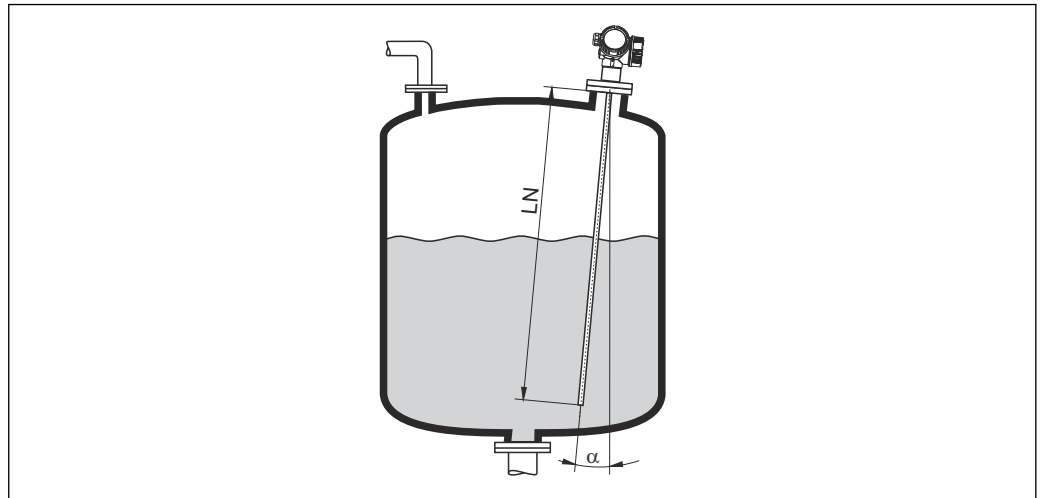
地下タンク



A0014142

大口径のノズルの場合は、ノズル壁での反射を防止するため、コアキシャルプローブを使用してください。

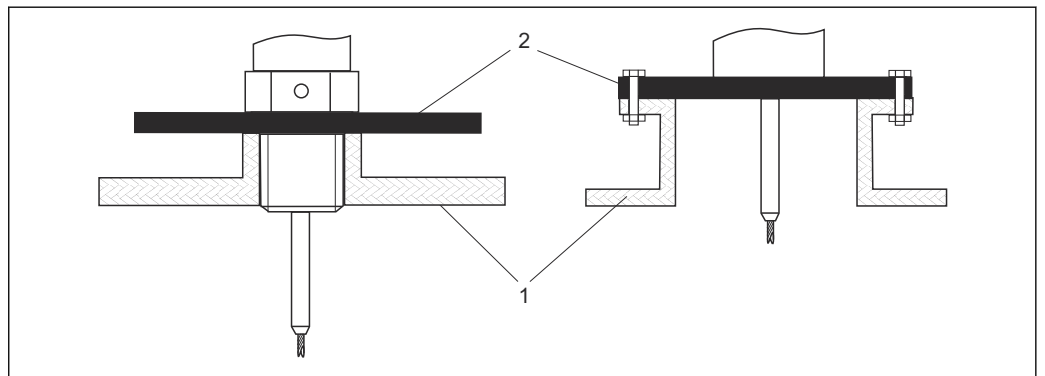
角度付きの取付け



A0014145

- 物理的な理由により、プローブはできるだけ液面と垂直に取り付けてください。
- プローブを斜めに設置する場合は、設置角度に応じてプローブ長を短くする必要があります。
 - $\alpha 5^\circ$: $LN_{max.}$ 4 m (13.1 ft)
 - $\alpha 10^\circ$: $LN_{max.}$ 2 m (6.6 ft)
 - $\alpha 30^\circ$: $LN_{max.}$ 1 m (3.3 ft)

非金属タンク



A0012527

- 1 非金属タンク
- 2 金属板または金属フランジ

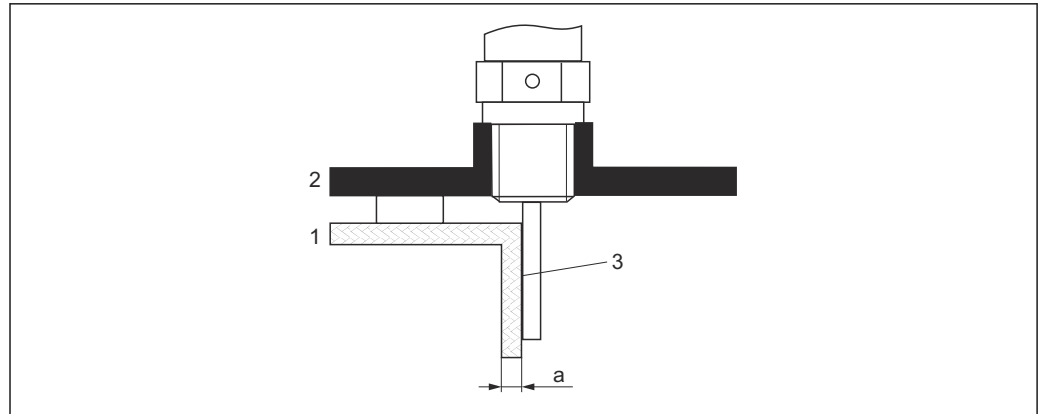
非金属タンクに設置した場合に、最適な測定結果を保証するため：

- 金属フランジ付きの機器を使用してください（最小サイズ DN50/2"）。
- あるいは、直径 200 mm (8 in) 以上の金属板をプローブに対して直角にプロセス接続に取り付けます。

i コアキシャルプローブの場合には、プロセス接続部に金属表面は必要ありません。

プラスチックおよびガラスタンク：プローブを外壁に取付け

プラスチックおよびガラスタンクの場合は、特定の条件下でプローブを外壁に取り付けることも可能です。



A0014150

- 1 プラスチックまたはガラスタンク
- 2 ネジ込みスリーブ付き金属板
- 3 タンク壁とプローブの間に隙間ができないように注意してください！

要件

- 測定物の比誘電率： $\epsilon_r > 7$
- 非導電性のタンク壁
- 最大壁厚 (a) :
 - プラスチック： $< 15 \text{ mm (0.6 in)}$
 - ガラス： $< 10 \text{ mm (0.4 in)}$
- タンクに金属製の補強材が取り付けられていないこと

機器を取り付ける場合、以下の点に注意してください。

- プローブはタンク内壁に直接取り付けます（隙間ができないようにしてください）。
- 干渉から測定を保護するために、直径 200 mm (8 in) 以上のプラスチック製ハーフパイプ、または同等の保護ユニットをプローブに取り付けてください。
- タンク直径が 300 mm (12 in) 未満の場合：
タンクの反対側に、プロセス接続に導電的に接続され、タンク外周の約半分を覆う接地板を取り付けます。
- タンク直径が 300 mm (12 in) 以上の場合：
プロセス接続部で、直径が 200 mm (8 in) 以上の金属板をプローブに対して直角に取り付けます（上記を参照）。

タンク外側に設置した場合の調整

プローブをタンク壁の外側に取り付けると、信号の伝搬速度が低下します。これを補正するには、2つの方法があります。

気相補正ファクタによる補正

誘電性の壁の影響は、誘電性の気相の影響に相当するため、同じ方法で補正できます。補正係数は、実際のプローブ長 LN とタンクが空のときの測定プローブ長の割合で計算されます。

i 機器は、微分曲線でプローブ終端信号の位置を特定します。そのため、測定プローブ長の値はマッピングカーブに左右されます。さらに正確な値を得るためには、FieldCare の反射波形表示を使用して手動で測定プローブ長を特定することを推奨します。

1. パラメータエキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード
↳ 定数 GPC ファクタ オプションを選択します。
2. パラメータエキスパート → センサ → 気相補正 → 定数 GPC ファクタ
↳ 割合：「(実際のプローブ長) / (測定プローブ長)」を入力します。

校正パラメータによる補正

実際に気相を補正する必要がある場合は、外部取付けの補正用に気相補正機能を使用することはできません。この場合は、校正パラメータ（**空校正** と **満量校正**）を調整する

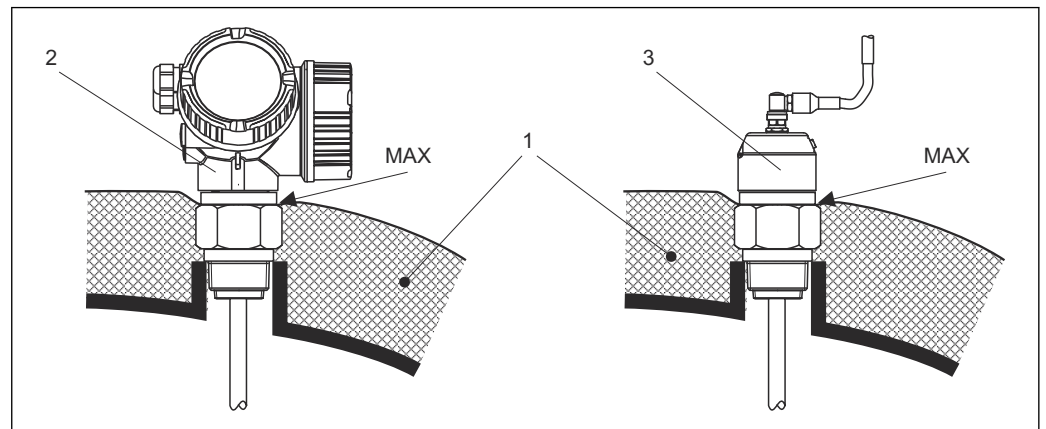
必要があります。そして、実際のプローブ長より大きい値を**実際のプローブ長**パラメータに入力する必要があります。3つの場合すべてで、補正係数は、容器が空のときの測定プローブ長と実際のプローブ長 LN の割合となります。

i 機器は、微分曲線でプローブ終端信号を検索します。そのため、測定プローブ長の値はマッピングカーブに左右されます。さらに正確な値を得るためには、FieldCare の反射波形表示を使用して手動で測定プローブ長を特定することを推奨します。

1. パラメータ設定 → 空校正
 - ↳ 「(測定プローブ長) / (実際のプローブ長)」係数でパラメータ値を増加させます。
2. パラメータ設定 → 満量校正
 - ↳ 「(測定プローブ長) / (実際のプローブ長)」係数でパラメータ値を増加させます。
3. パラメータ設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → プローブ長の確認
 - ↳ **手動入力** オプションを選択します。
4. パラメータ設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → 実際のプローブ長
 - ↳ 測定プローブ長を入力します。

断熱材付きタンク

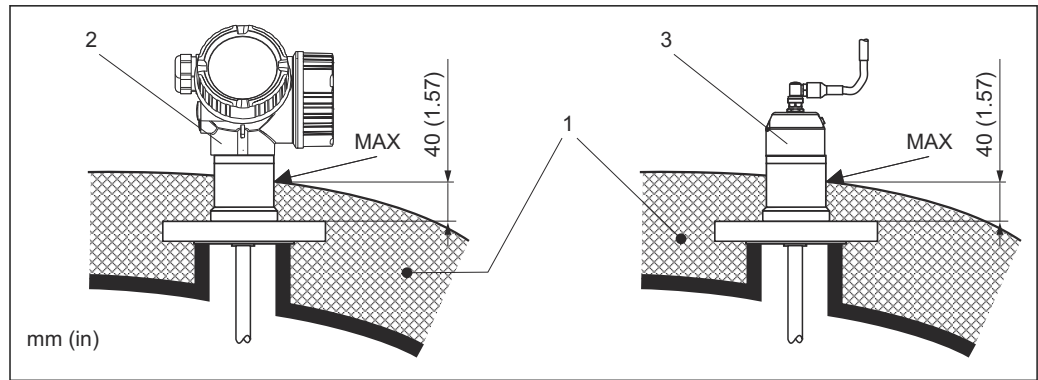
i プロセス温度が高い場合は、熱の放射や伝達により電子回路部が過熱しないよう、機器をタンク断熱部 (1) に設置してください。断熱材は図の「MAX」と示した位置を超えないようにしてください。



A0014653

図 6 プロセス接続 (ネジ)

- 1 タンク断熱材
- 2 一体型機器
- 3 センサ、分離型



A0014654

図7 プロセス接続（フランジ）

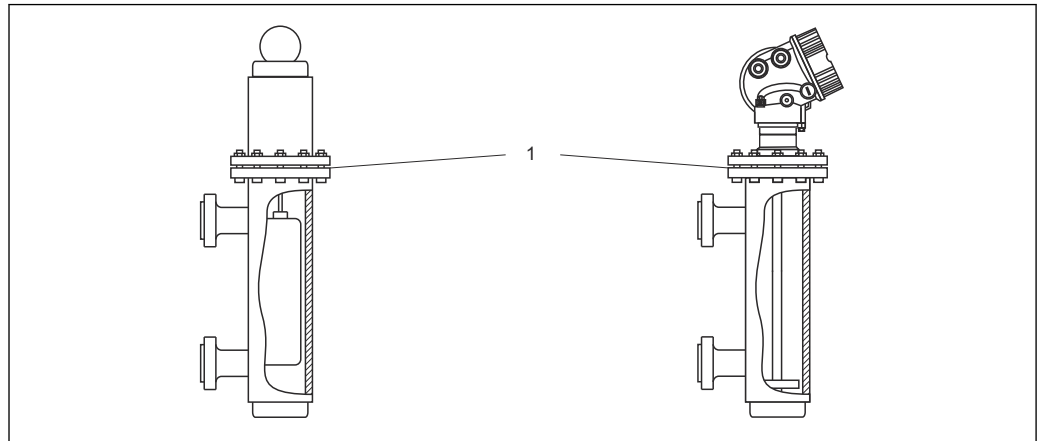
- 1 タンク断熱材
- 2 一体型機器
- 3 センサ、分離型

既存バイパスチャンバのディスプレイサを更新

FMP51 および FMP54 は、既存バイパスチャンバ内にある従来のディスプレイサシステムの代替品として最適です。このために、Fisher や Masoneilan のバイパスチャンバに適したフランジが用意されています (FMP51 用は特殊製品 ; FMP54 用は、製品構成の仕様コード 100、オプション LNJ、LPJ、LQJ)。メニューガイド方式で現場操作できるため、Levelflex は数分で設定できます。液が一部充填された状態でも交換可能です。ウェット校正は必要ありません。

利点：

- 可動部がないため、メンテナンス作業は不要です。
- 温度、密度、乱流、振動などの影響を受けません。
- ロッドプローブの切断、交換が容易です。そのため、プローブは現場でも容易に調整できます。



A0014153

1 バイパスチャンバのフランジ

更新計画の指針：

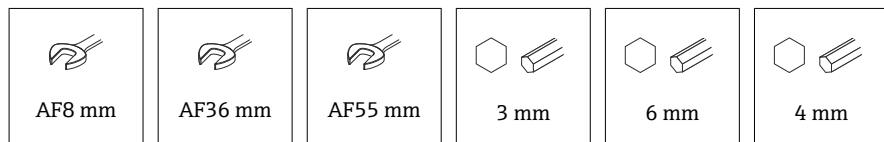
- 通常はロッドプローブを使用します。150 mm (5.91 in) 以下の金属製バイパスチャンバに設置する場合は、コアキシャルプローブと同様の効果が得られます。
- プローブと側壁の接触を避けなければなりません。必要に応じて、プローブの下部終端にセンタリングディスクまたはセンタリングスターを取り付けます。
- プローブ終端近くでも正しく作動するよう、センタリングディスクまたはセンタリングスターはバイパスチャンバの内径にできるだけ正確に合わせてください。

界面測定に関する追加情報

- 油と水の場合、センタリングスターは下側排出口の下部終端（水レベル）に配置してください。
- パイプ直径は変化が生じないようにしてください。必要に応じてコアキシャルプローブを使用してください。
- ロッドプローブが壁と接触しないように注意してください。必要に応じて、プローブの終端でセンタリングスターを使用してください。
- 界面測定には、PEEK または PFA 製の非金属製センタリングスターが推奨されます。金属製センタリングディスクを使用する場合は、センタリングディスクが常に下部測定物に覆われている必要があります。そうでない場合は、界面測定の結果が不正確になる可能性があります。

6.2 機器の取付け

6.2.1 ツールリスト



- ローププローブを切断する場合：のこぎりまたはボルトカッターを使用
- ロッドプローブまたはコアキシャルプローブを切断する場合：のこぎりを使用
- フランジおよびその他のプロセス接続の場合：適切な取付工具を使用


6.2.2 プローブの切断

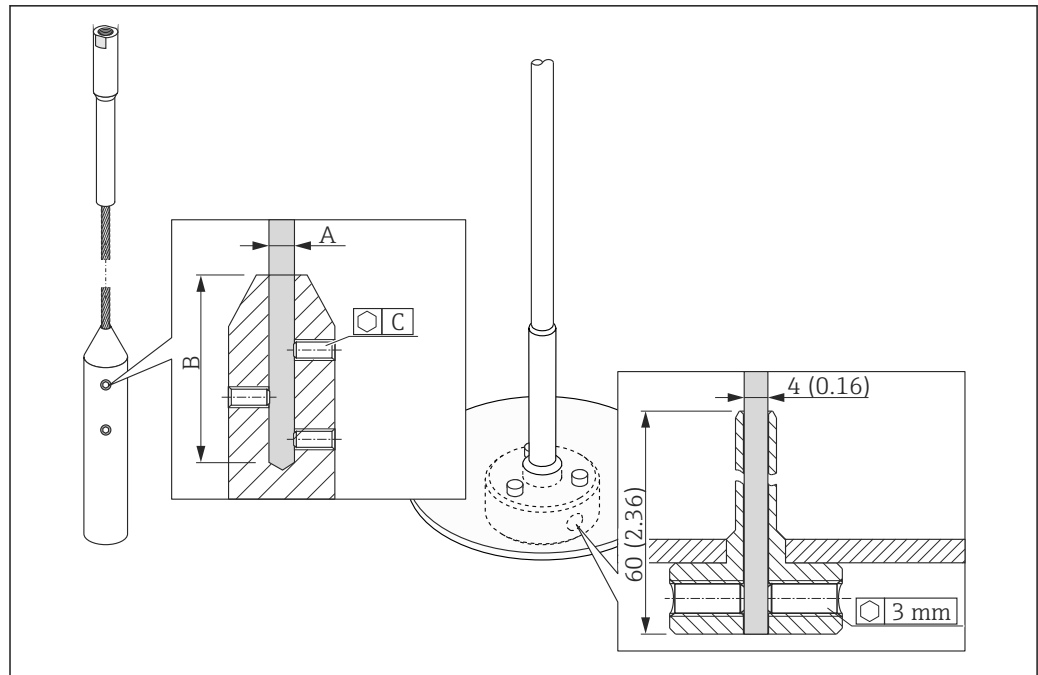
ロッドプローブの切断

容器底面または排出円錐部との距離が 10 mm (0.4 in) 未満の場合、ロッドプローブを切断する必要があります。その場合は、ロッドプローブの下部終端をのこぎりで切断します。

ローププローブの切断

容器底面または排出円錐部との距離が 150 mm (6 in) 未満の場合、ローププローブを切断する必要があります。

 コーティングされたローププローブは切断できません。



ロープ材質 SUS 316 相当

- A :
4 mm (0.16 in)
- B :
40 mm (1.6 in)
- C :
3 mm; 5 Nm (3.69 lbf ft)

1. 六角レンチを使用して、ロープウェイトまたはセンタリングディスクの留め具についている止めネジを緩めます。注意：止めネジは、誤って緩まないようにするため、クランプコーティングが施されています。そのため、ネジを緩めるには、より高いトルクが必要です。
2. 緩めたロープをウェイトまたはスリーブから取り外します。
3. 新しいロープ長を測ります。
4. ロープの切断する位置に粘着テープを巻き、飛散を防止します。
5. ロープをのこぎりで直角に切断するか、またはボルトカッターで切断します。
6. ロープをウェイトまたはスリーブに完全に挿入します。
7. 止めネジを元の位置にねじ込みます。止めネジにはクランプコーティングが施されているため、緩み止め剤を塗布する必要ありません。

コアキシャルプローブの切断

容器底面または排出円錐部との距離が 10 mm (0.4 in) 未満の場合、コアキシャルプローブを切断する必要があります。

- i** コアキシャルプローブは、下端から最大 80 mm (3.2 in) まで切断できます。中にはパイプの中心にロッドを固定するためのセンタリングリングが組み込まれています。フランジを使用して、センタリングリングはロッドの所定の位置に固定されます。センタリングリングから最大約 10 mm (0.4 in) 下までプローブを切断できます。

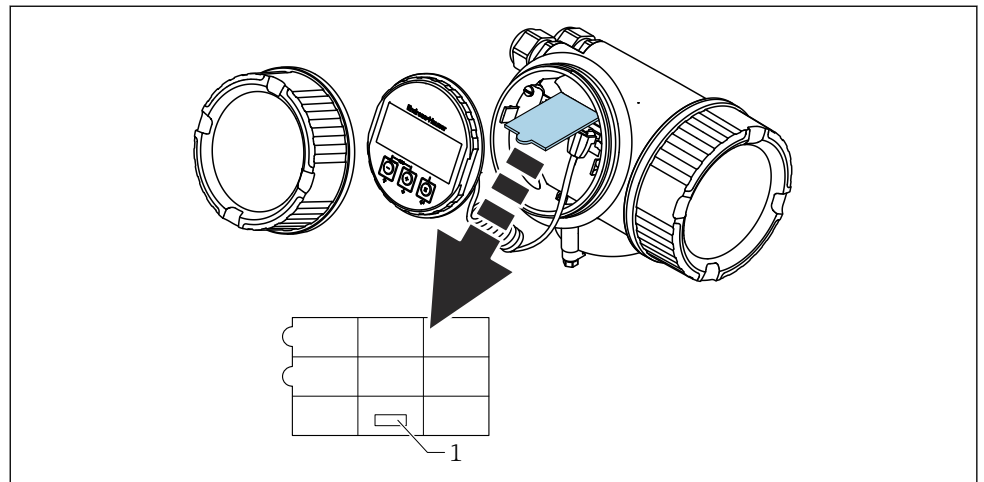
コアキシャルプローブの下部終端をのこぎりで切断します。

新しいプローブ長の入力

プローブの切断後：

1. **プローブ設定** サブメニューに移動し、プローブ長の補正を行います。

2.

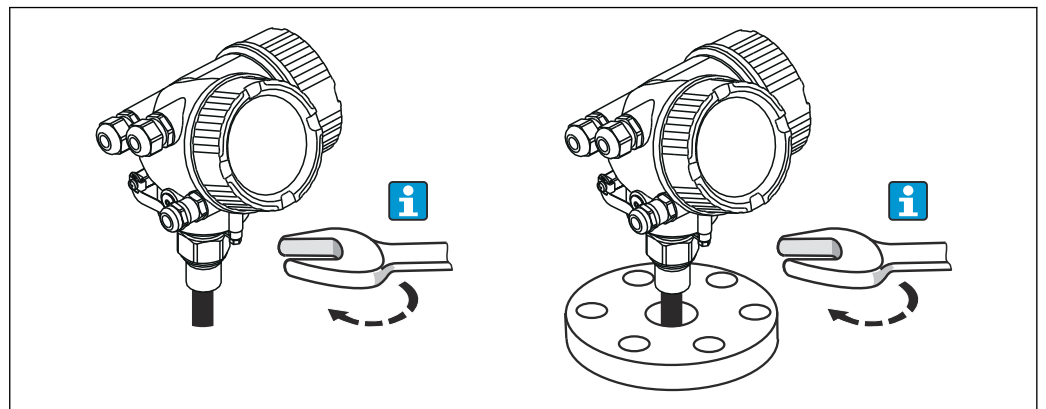


1 新しいプローブ長のフィールド

ドキュメンテーションのため：電子部ハウジング内の機器本体ディスプレイでイックリファレンスガイドを使って新しいプローブ長を入力します。

6.2.3 機器の取付け

ネジ込み接続付き機器の取付け



ネジ込み接続付きの機器をスリーブまたはフランジにねじ込み、スリーブ/フランジを介してプロセス容器に固定します。

- i** ■ ねじ込むときには、六角ボルトのみを回してください。
 - ネジ 3/4" : 36 mm
 - ネジ 1 1/2" : 55 mm
- 最大許容締付けトルク：
 - ネジ 3/4" : 45 Nm
 - ネジ 1 1/2" : 450 Nm
- 付属のアラミド繊維製シールと 4 MPa (580 psi) の圧力を使用する場合の推奨トルク (FMP51 の場合のみ、FMP54 にはシールは付属しません)
 - ネジ 3/4" : 25 Nm
 - ネジ 1 1/2" : 140 Nm
- 金属タンクに設置する場合は、プロセス接続とタンクの間で金属がしっかり接触していることを確認してください。

フランジ付き機器の取付け

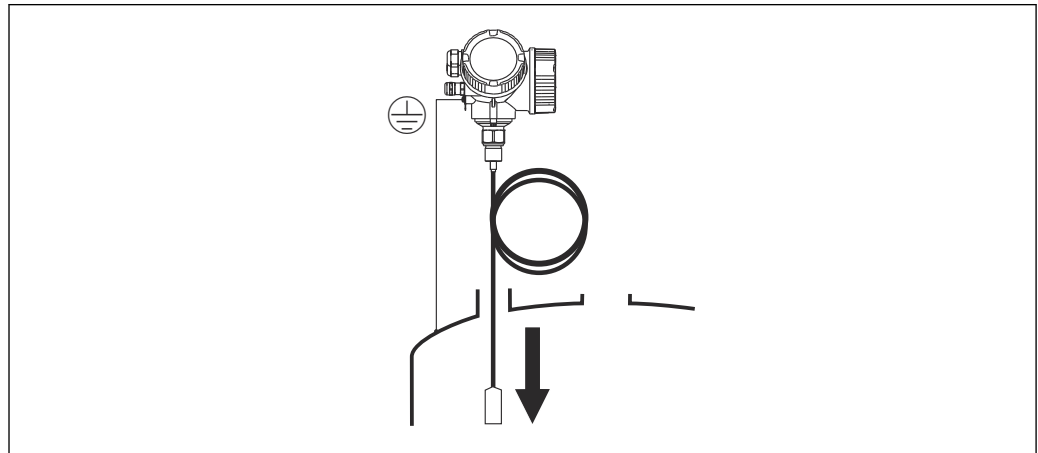
機器の取付けにシールを使用する場合は、プロセスフランジとプローブフランジを確実に電気接触させるためにコーティングされていない金属ネジを使用してください。

ローブプローブの取付け

注記

静電気放電により電子モジュールが損傷する可能性があります。

▶ ローブプローブをタンクへ下ろす前に、ハウジングを接地してください。



A0012852

ローブプローブをタンクへ下ろすときは、以下に注意してください。

- ローブプローブをゆっくりと解いてタンクへ慎重に下ろします。
- ロープが折れ曲がらないように注意してください。
- タンクの内部設置物を損傷させる可能性があるため、ウェイトが制御されずに揺れ動くことがないようにしてください。

6.2.4 「センサ、分離型」バージョンの取付け

i このセクションは、「プローブ型式」=「センサ、分離型」（仕様コード 600、バージョン MB/MC/MD）バージョンの機器にのみ適用されます。

「プローブ型式」=「分離型」バージョンには、以下が同梱されます。

- プロセス接続部付きプローブ
- 電子部ハウジング
- 電子部ハウジングの壁または支柱取付用の取付ブラケット
- 接続ケーブル（注文した長さ）。ケーブルには、ストレートプラグおよび角度付きプラグ（90°）各1つが付いています。現場の状況に応じて、角度付きプラグをプローブ側または電子部ハウジング側に接続できます。

⚠ 注意

機械的応力により接続ケーブルのプラグが損傷したり、緩んだりする可能性があります。

- ▶ 接続ケーブルを接続する前に、プローブと電子部ハウジングをしっかりと取り付けてください。
- ▶ 接続ケーブルは機械的応力がかからないように敷設します。最小曲げ半径：100 mm (4 in)。
- ▶ ケーブルを接続する場合は、角度付きプラグを接続する前にストレートプラグを接続します。両方のプラグのユニオンナットのトルク：6 Nm。

i プローブ、電子モジュール、接続ケーブルは相互に互換性があり、共通のシリアル番号が付いています。接続する際には、必ず、シリアル番号が同じ部品同士を接続してください。

強い振動が発生する場合は、プラグインコネクタに緩み止め剤（例：ロックタイト 243）を使用することも可能です。

電子部ハウジングの取付け

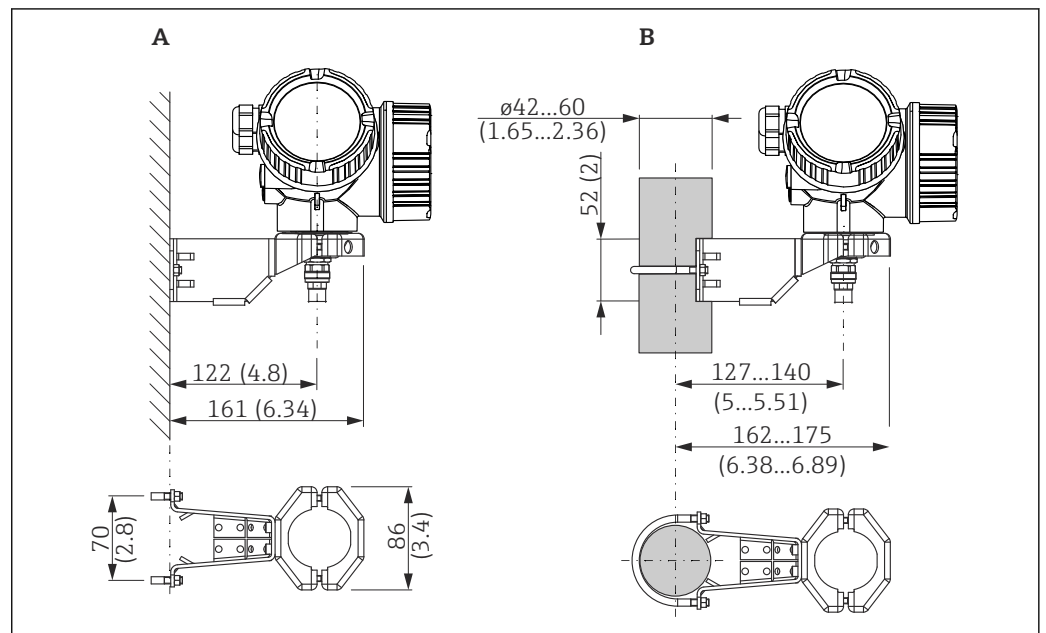
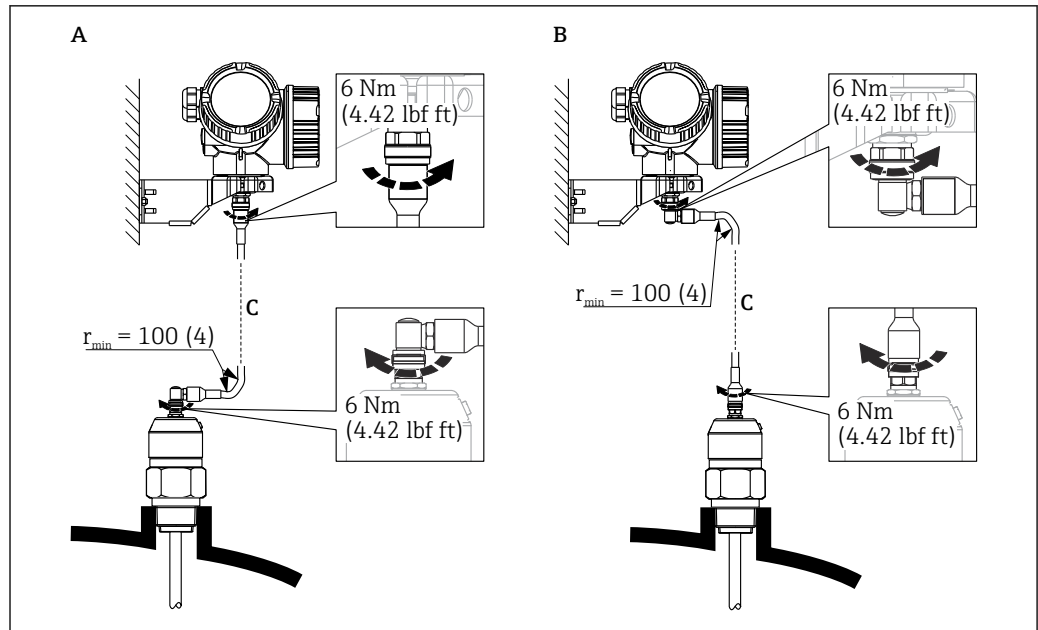


図 8 取付ブラケットを使用した電子部ハウジングの取付け。測定単位 mm (in)

- A 壁面取付け
- B 支柱取付け

接続ケーブルの接続





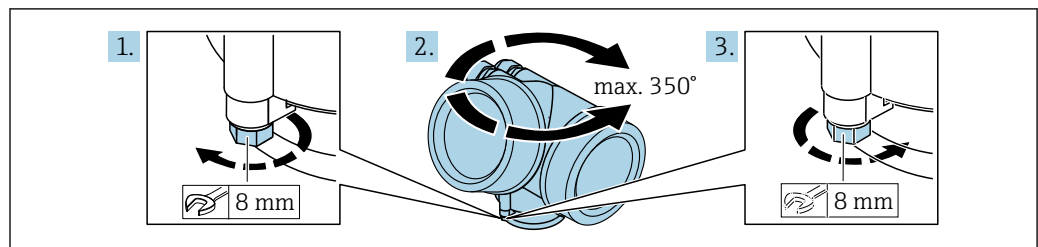
A0014794

図9 接続ケーブルの接続。ケーブルは、以下の方法で接続できます。測定単位 mm (in)

- A プローブ側に角度付きプラグ
- B 電子部ハウジング側に角度付きプラグ
- C 注文したりモートケーブルの長さ

6.2.5 変換器ハウジングの回転

端子部や表示モジュールにアクセスしやすくするため、変換器ハウジングを回転させることが可能です。

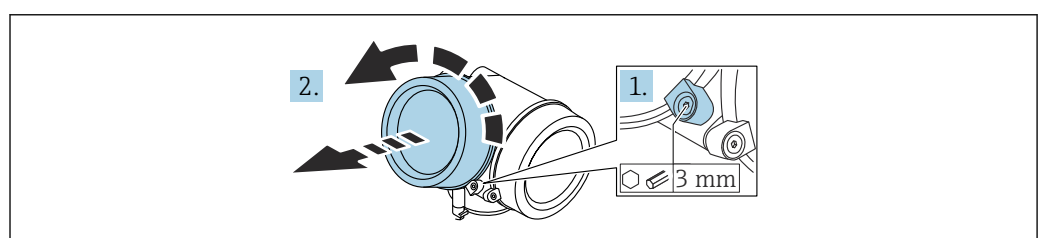


A0032242

1. オープンエンドスパナを使用して固定ネジを緩めます。
2. ハウジングを必要な方向に回転させます。
3. 固定ねじを締め付けます（プラスチックハウジングの場合：1.5 Nm、アルミニウムまたはステンレスハウジングの場合：2.5 Nm）。

6.2.6 表示部の回転

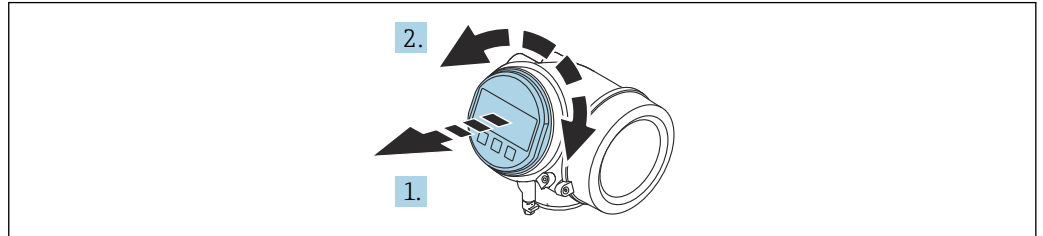
カバーを開ける



A0021430

1. 表示部カバーの固定クランプのネジを六角レンチ (3 mm) を使用して緩め、クランプを 90° 反時計回りに回します。
2. 表示部カバーを外してカバーシールを確認し、必要に応じて交換します。

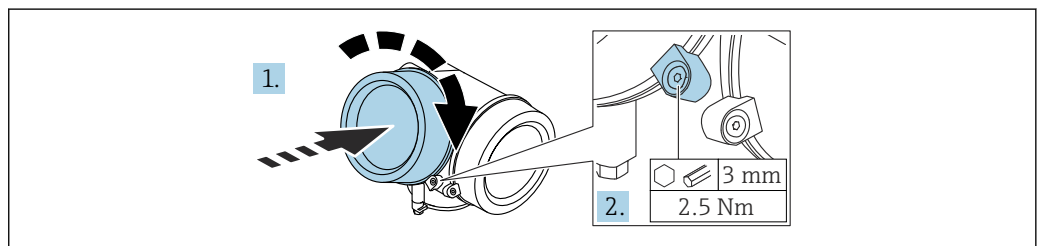
表示モジュールの回転



A0036401

1. 表示モジュールを慎重に回転させて引き抜きます。
2. 表示モジュールを必要な位置に回転させます (両方向に最大 $8 \times 45^\circ$)。
- 3.ハウジングとメイン電子モジュール間の隙間にコイルケーブルを収納し、表示モジュールを電子部コンパートメントにかみ合うまで差し込みます。

表示部のカバーを閉じる



A0021451

1. 表示部のカバーをねじ込みます。
2. 固定クランプを時計回りに 90° 回して、六角レンチ (3 mm) を使用して表示部カバーの固定クランプのネジを 2.5 Nm で締め付けます。

6.3 設置状況の確認

- 機器は損傷していないか (外観検査) ?
- 測定点の識別番号とそれに対応する銘板は正しいか (外観検査) ?
- 機器が降雨や日光から保護されているか?
- 固定ネジとカバーロックがしっかりと締め付けられているか?
- 機器が測定点の仕様を満たしているか?

例:

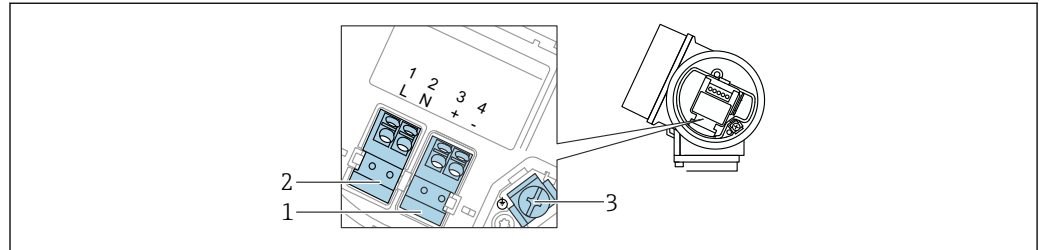
- プロセス温度
- プロセス圧力
- 周囲温度
- 測定範囲

7 電気接続

7.1 接続要件

7.1.1 端子の割当て

端子の割当て、4線式：4～20 mA HART (90～253 V_{AC})



A0036519

図 10 端子の割当て、4線式：4～20 mA HART (90～253 V_{AC})

- 1 4～20 mA HART (アクティブ) 接続：端子 3 および 4
- 2 電源接続：端子 1 および 2
- 3 ケーブルシールド線用端子

⚠ 注意

電気的安全性を確保するために：

- ▶ 保護接地接続は外さないでください。
- ▶ 保護接地を外す前に、機器の電源電圧を遮断してください。

i 電源を接続する前に、保護接地を内部の接地端子 (3) に接続してください。必要に応じて、アース線を外部接地端子に接続してください。

i 電磁適合性 (EMC) を確保するために：電源ケーブルの保護接地導体のみを介して、機器を接地し**ないでください**。代わりに、機能接地をプロセス接続 (フランジまたはネジ込み接続) または外部の接地端子にも接続する必要があります。

i 機器の近くにアクセスしやすい電源スイッチを設置する必要があります。スイッチには機器の開閉器であることを明示してください (61010IEC/)。

7.1.2 ケーブル仕様

- 電源ライン：標準の機器ケーブル
- Modbus 接続：シールドケーブルが推奨です。プラントの接地コンセプトに従ってください。

7.1.3 機器プラグ

i プラグ付きの機器バージョンの場合、信号ケーブルを接続するためにハウジングを開ける必要はありません。

7.1.4 電源電圧

電源電圧	10.5～29 V _{DC}
リップル	1 V _{SS} (< 100 Hz); 10 mV _{SS} (> 100 Hz)

7.1.5 過電圧保護

DIN EN 60079-14 の試験基準 60060-1 (10 kA、パルス $\frac{8}{20}$ μs) に準拠した過電圧保護を必要とする可燃性液体のレベル測定に本機器を使用する場合、過電圧保護モジュールを使用してください。

内蔵の過電圧保護モジュール


過電圧保護モジュールは、2 線式 HART 機器、PROFIBUS PA、および FOUNDATION フィールドバスで使用できます。

製品構成：仕様コード 610 「取付アクセサリ」、オプション NA 「過電圧保護」

チャンネルあたりの抵抗	最大 $2 \times 0.5 \Omega$
DC 放電開始電圧	400~700 V
トリップサージ電圧	< 800 V
1 MHz の静電容量	< 1.5 pF
公称放電電流 (8/20 μs)	10 kA

外部の過電圧保護モジュール

Endress+Hauser の HAW562 や HAW569 などは、外部過電圧保護に最適な製品です。

 詳細については、以下の関連資料を参照してください。

- HAW562 : TI01012K
- HAW569 : TI01013K

7.2 機器の接続

警告

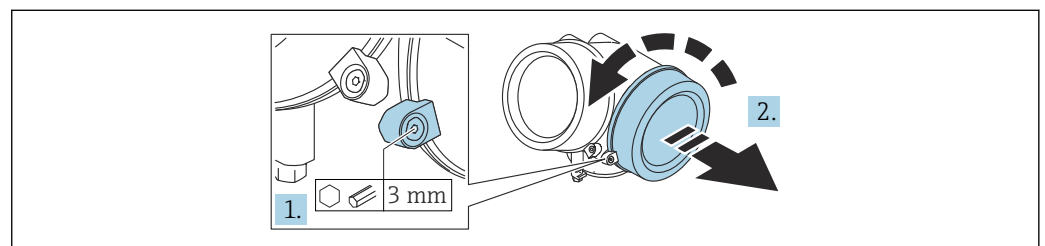
爆発の危険性

- ▶ 適用される国内規格を遵守してください。
- ▶ 安全上の注意事項 (XA) の仕様に従ってください。
- ▶ 指定のケーブルグラウンド以外使用しないでください。
- ▶ 電源が銘板に示されている情報と一致していることを確認してください。
- ▶ 電源のスイッチを切ってから機器を接続します。
- ▶ 電源を投入する前に、アース線を外部接地端子に接続してください。

必要な工具/アクセサリ：

- カバーロック付きの機器の場合：六角レンチ AF3
- 電線stripper
- より線ケーブルを使用する場合：1つの棒端子ですべての電線接続に対応

7.2.1 カバーを開ける

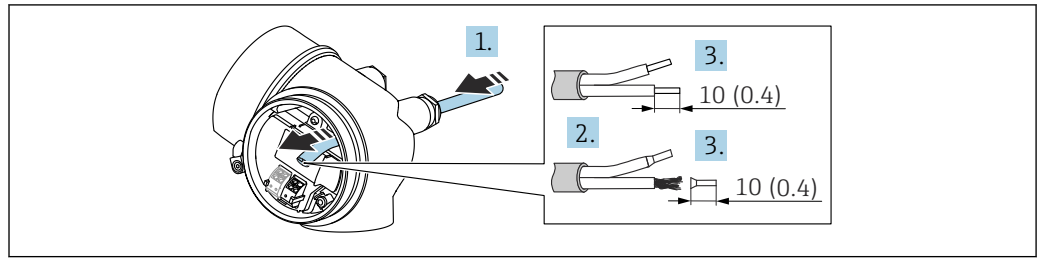


A0021490

1. 端子部蓋の固定クランプのネジを六角レンチ (3 mm) を使用して緩め、クランプを 90° 反時計回りに回します。

- 端子部蓋を外してカバーシールを確認し、必要に応じて交換します。

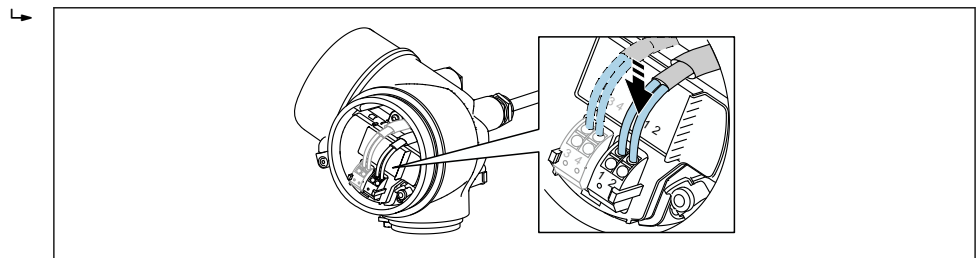
7.2.2 接続



A0036418

図 11 単位 : mm (in)

- 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは外さないでください。
- ケーブルシースを取り除きます。
- ケーブル終端の被覆を 10 mm (0.4 in) 剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子も取り付けます。
- ケーブルグラウンドをしっかりと締め付けます。
- 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。

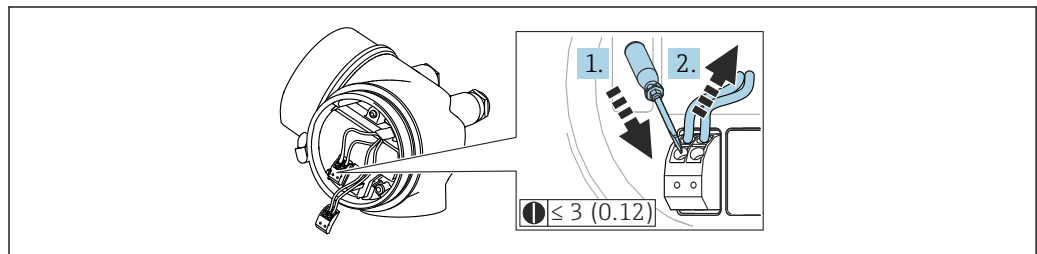


A0036682

- シールドケーブルを使用する場合：ケーブルシールドを接地端子に接続します。

7.2.3 差込式スプリング端子

過電圧保護機能を備えていない機器の電気接続は、差込式スプリング端子を使用して行います。棒端子付きの剛性導体およびフレキシブル導体は、レバーを使用せずに直接端子に挿入することが可能であり、自動的に接点が形成されます。



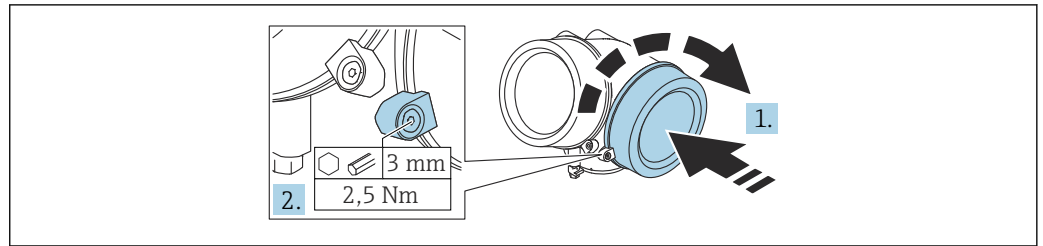
A0013661

図 12 単位 : mm (in)

ケーブルを再び端子から外す場合：

- 3 mm (0.12 in) 以下のマイナスドライバーを使用して、2つの端子孔間のスロットを押し下げます。
- これと同時に、端子からケーブル終端を引き抜きます。

7.2.4 端子接続部のカバーを閉じる



A0021491

1. 端子接続部のカバーをねじ込みます。
2. 固定クランプを時計回りに 90° 回して、六角レンチ (3 mm) を使用して端子部蓋の固定クランプのネジを 2.5 Nm で締め付けます。

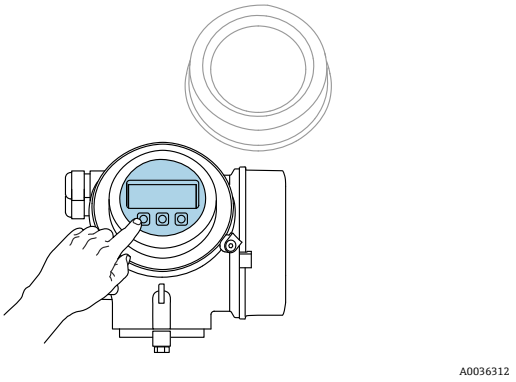
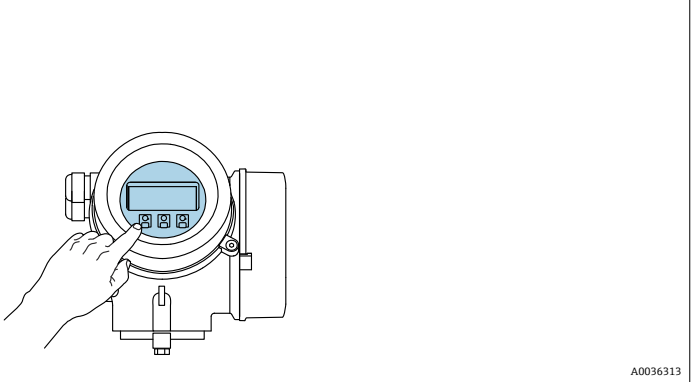
7.3 配線状況の確認

- 機器またはケーブルは損傷していないか？ (外観検査)
- 使用されるケーブルの仕様は正しいか？
- 取り付けられたケーブルに適切なストレーンリリーフがあるか？
- すべてのケーブルグラウンドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？
- 供給電圧が銘板に示されている仕様と一致しているか？
- 端子割当は正しいか？
- 必要に応じて、保護接地接続が確立されているか？
- 電圧が供給されている場合、機器の運転準備が整っているか、表示モジュールに値が表示されているか？
- ハウジングカバーはすべて取り付けられ、固定されているか？
- 固定クランプはしっかりと締め付けられているか？

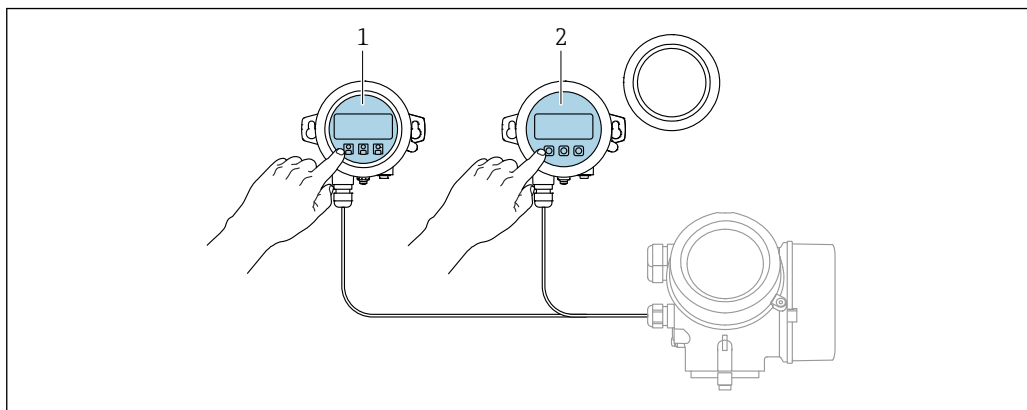
8 操作オプション

8.1 操作オプションの概要

8.1.1 現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス

操作部	プッシュボタン	タッチコントロール
「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード	オプション C 「SD02」	オプション E 「SD03」
	 <p style="text-align: right; font-size: small;">A0036312</p>	 <p style="text-align: right; font-size: small;">A0036313</p>
表示部	4 行表示	4 行表示 白色バックライト; 機器エラー発生時は赤に変化
	測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能	
	表示部の許容周囲温度: -20~+70 °C (-4~+158 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。	
操作部	3 つのプッシュボタン (⊕、⊖、⊞) による現場操作	タッチコントロール、3 つの光学式キー (⊕、⊖、⊞) による外部操作
	各種危険場所でも操作部にアクセス可能	
追加機能	データバックアップ機能 機器設定を表示モジュールに保存可能	
	データ比較機能 表示モジュールに保存された機器設定と現在の機器設定とを比較できます。	
	データ転送機能 表示モジュールを使用して変換器設定を別の機器に転送できます。	

リモート表示部と操作モジュール FHX50 による操作



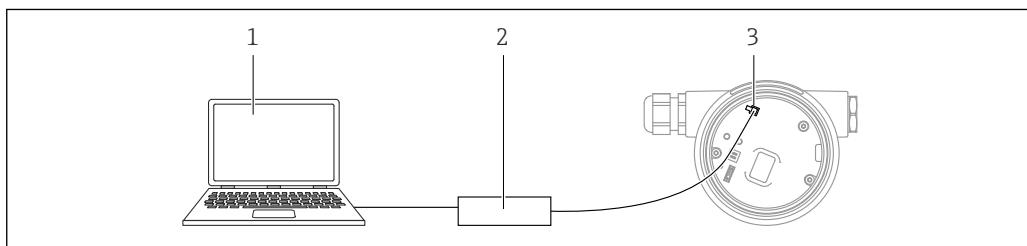
A0036314

図 13 FHX50 操作オプション

- 1 表示部および操作モジュール SD03（光学式キー）、カバーガラスの上から操作できます。
- 2 表示部および操作モジュール SD02（プッシュボタン）、カバーは取り外してください。

8.1.2 操作ツールによる操作メニューへのアクセス

サービスインタフェース（CDI）経由

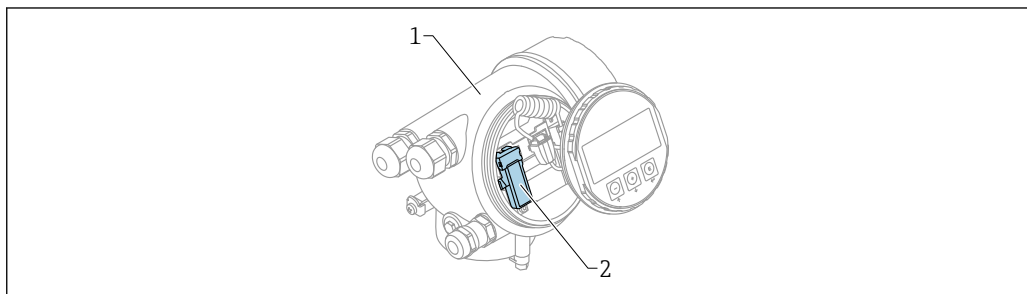


A0039148

- 1 FieldCare/DeviceCare 操作ツール搭載のコンピュータ
- 2 Commubox
- 3 計測機器のサービスインタフェース（CDI = Endress+Hauser Common Data Interface）

Bluetooth® ワイヤレス技術を経由

要件



A0036790

図 14 Bluetooth モジュール搭載の機器

- 1 機器の電子回路部ハウジング
- 2 Bluetooth モジュール

この操作オプションは Bluetooth モジュール搭載の機器でのみ使用可能です。以下のオプションがあります：

- 機器と一緒に Bluetooth モジュールが注文されている。
仕様コード 610「取付け済みアクセサリ」、オプション NF「Bluetooth」
- Bluetooth モジュールがアクセサリ（注文番号：71377355）として注文され、取り付けられている。個別説明書 SD02252F を参照してください。

SmartBlue（アプリ）経由の操作

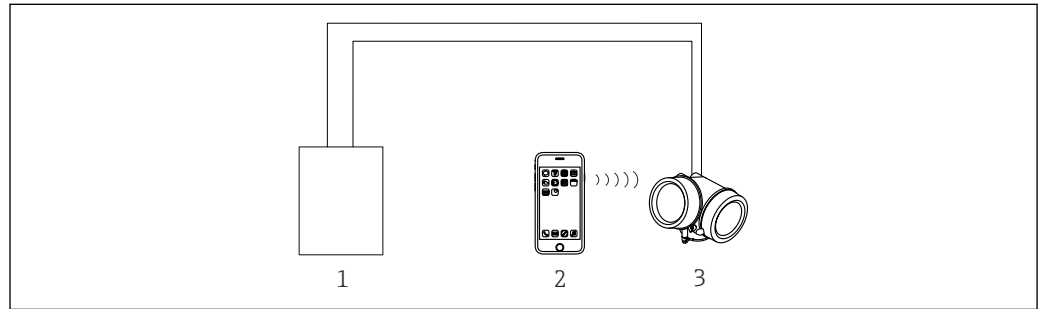


図 15 SmartBlue（アプリ）経由の操作

- 1 変換器電源ユニット
- 2 スマートフォン/タブレット端末、SmartBlue（アプリ）搭載
- 3 Bluetooth モジュール搭載の変換器

8.2 操作メニューの構成と機能

8.2.1 操作メニューの構成

メニュー	サブメニュー/パラメータ	意味
	Language ¹⁾	現場表示器の操作言語を設定します。
初回設定 ²⁾		メニューガイド方式で初回設定を行うための対話型ウィザードを起動します。ウィザードの終了後、通常は他のメニューで追加設定をする必要はありません。
設定	パラメータ 1 ... パラメータ N	これらのパラメータを設定した場合、通常は測定の設定を完了させる必要があります。
	高度な設定	その他のサブメニューやパラメータが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ より高精度な測定の設定用（特殊な測定条件に対応） ■ 測定値の変換用（スケーリング、リニアライゼーション） ■ 出力信号のスケーリング用
診断	診断リスト	現在発生中のエラーメッセージが最大 5 件含まれます。
	イベントログブック ³⁾	最新のメッセージ 20 件（すでに発生していない）が含まれます。
	機器情報	機器識別用の情報が含まれます。
	測定値	現在のすべての測定値が含まれます。
	データのログ	個別の測定値の履歴が含まれます。
	シミュレーション	測定値または出力値のシミュレーションに使用
	機器チェック	機器の測定機能のチェックに必要なすべてのパラメータが含まれます。

メニュー	サブメニュー/パラメータ	意味
	Heartbeat ⁴⁾	Heartbeat Verification および Heartbeat Monitoring アプリケーションパッケージのすべてのウィザードが含まれます。
エキスパート⁵⁾ 機器のすべてのパラメータが含まれます (その他のメニューの既存パラメータを含む)。このメニューは機器の機能ブロックに従って構成されています。 エキスパートメニューのパラメータの説明については、以下を参照してください。	システム	測定または測定値の通信に関係しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。
	センサ	測定の設定用パラメータがすべて含まれます。
	出力	スイッチ出力の設定に必要なすべてのパラメータが含まれます (PFS)。
	通信	デジタル通信インターフェイスの設定に必要なすべてのパラメータが含まれます。
	診断	動作エラーの検出および分析に必要なすべてのパラメータが含まれます。

- 1) 操作ツール (例: FieldCare) を使用して操作する場合、「Language」パラメータは「設定 → 高度な設定 → 表示」に表示されます。
- 2) FDT/DTM システムを介して操作する場合のみ
- 3) 現場表示器から操作する場合にのみ使用可能
- 4) DeviceCare または FieldCare を介して操作する場合にのみ使用可能
- 5) 「エキスパート」メニューを呼び出すと、必ずアクセスコードの入力を求められます。ユーザー固有のアクセスコードが設定されていない場合は、「0000」を入力してください。

8.2.2 ユーザーの役割と関連するアクセス権

「オペレータ」と「メンテナンス」の2つのユーザーの役割は、機器固有のアクセスコードが設定されている場合、パラメータの書き込みアクセス権が異なります。これにより、現場表示器を介した機器設定の不正アクセスが保護されます。→ 45

パラメータのアクセス権

ユーザーの役割	読み取りアクセス		書き込みアクセス	
	アクセスコードなし (初期設定)	アクセスコードあり	アクセスコードなし (初期設定)	アクセスコードあり
オペレータ	✓	✓	✓	--
メンテナンス	✓	✓	✓	✓

不正なアクセスコードを入力した場合、そのユーザーの役割として**オペレータ**のアクセス権が付与されます。

i 現在ログオンしているユーザーの役割は、**アクセスステータス表示** パラメータ (現場表示器から操作する場合) または**アクセスステータス ツール** パラメータ (操作ツールから操作する場合) で確認できます。


8.2.3 データアクセス - セキュリティ

アクセスコードによる書き込み保護

機器固有のアクセスコードを使用して、計測機器の設定用パラメータを書き込み保護することが可能です。これにより、現場操作では値を変更できなくなります。

現場表示器によるアクセスコードの設定

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。

3. **アクセスコードの確認** パラメータに数値コードを再入力して確認します。
↳ すべての書き込み保護パラメータの前に、 シンボルが表示されます。



操作ツール（例：FieldCare）によるアクセスコードの設定

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定
2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。
↳ 書込保護がオンになります。


常に変更可能なパラメータ

測定に影響を及ぼさない特定のパラメータは、書き込み保護から除外されます。アクセスコード設定にかかわらず、これらのパラメータは、他のパラメータがロックされている場合も常に変更可能です。



ナビゲーション、編集画面で 10 分以上キーを押さなかった場合、機器は自動的に書き込み保護パラメータを再度ロックします。ナビゲーションおよび編集モードから測定値表示モードに戻ると、機器は 60 秒後に自動的に書き込み保護パラメータをロックします。

-  ■ アクセスコードを使用して書き込みアクセス権を有効にした場合は、無効にする場合も必ずアクセスコードが必要です。
- 各書き込み保護パラメータは、「機能説明書」に  シンボルで示されています。

アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器でパラメータの前に  シンボルが表示されている場合、そのパラメータは機器固有のアクセスコードで書き込み保護されています。その場合、現場表示器を使用して値を変更することはできません。

機器固有のアクセスコードを入力すると、現場操作による書き込みアクセス権のロックを無効にできます。

1.  を押すと、アクセスコードの入力プロンプトが表示されます。
2. アクセスコードを入力します。
↳ パラメータの前の  シンボルが消え、それまで書き込み保護されていたパラメータがすべて、入力可能になります。

アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器を使用

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
2. **0000** を入力します。
3. **アクセスコードの確認** パラメータに **0000** を再入力して確認します。
↳ 書き込み保護が無効になります。アクセスコードを入力しなくてもパラメータの変更が可能になります。

操作ツールを使用（例：FieldCare）

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定
2. **0000** を入力します。
↳ 書き込み保護が無効になります。アクセスコードを入力しなくてもパラメータの変更が可能になります。

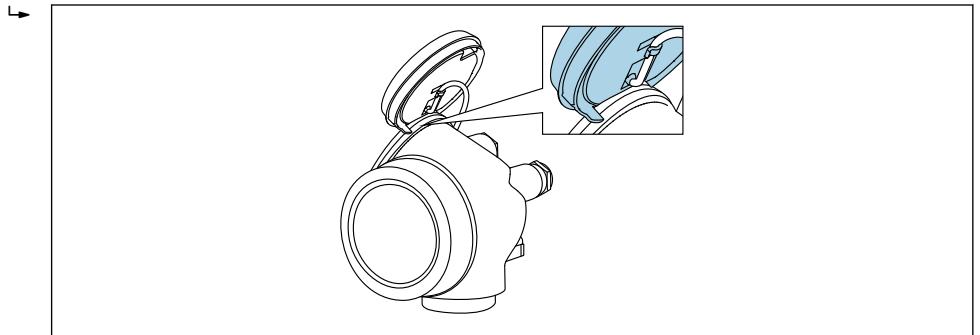
書き込み保護スイッチによる書き込み保護

ユーザー固有のアクセスコードによるパラメータ書き込み保護とは異なり、この書き込み保護では、すべての操作メニューに対する書き込みアクセスをロックできます（「表示のコントラスト」パラメータを除く）。

これによりパラメータ値は読み取り専用となり、編集できなくなります（「表示のコントラスト」パラメータを除く）。


- 現場表示器を使用
- Modbus RS485 プロトコル経由

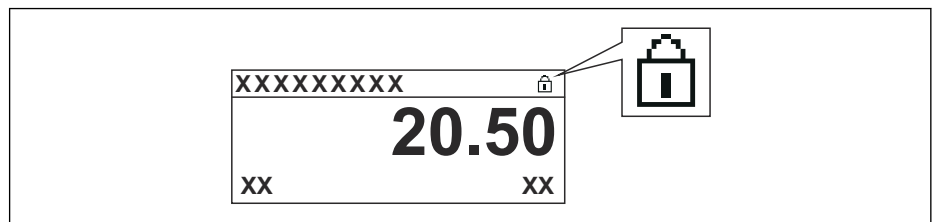
1. 固定クランプを緩めます。
2. 表示部のカバーを外します。
3. 表示モジュールを慎重に回転させて引き抜きます。書き込み保護スイッチにアクセスしやすくするため、表示モジュールを電子部コンパートメントの縁に差し込みます。




A0036086

4. メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ（WP）を **ON** 位置に設定すると、ハードウェア書き込み保護が有効になります。メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ（WP）を **OFF** 位置（工場設定）に設定すると、ハードウェア書き込み保護が無効になります。

↳ ハードウェア書き込み保護が有効な場合：ハードウェア書き込みロック オプションが**ロック状態**パラメータに表示されます。さらに、現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に  シンボルが表示されます。



A0015870

ハードウェア書き込み保護が無効にした場合：**ロック状態**パラメータにオプションは表示されません。現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に表示されていた  シンボルは消えます。

- 5.ハウジングとメイン電子モジュール間の隙間にケーブルを収納し、表示モジュールを必要な向きで電子部コンパートメントにかみ合うまで差し込みます。
6. 逆の手順で変換器を再び取り付けます。

キーパッドロックの有効化/無効化

キーパッドロックを使用して、現場操作による全操作メニューへのアクセスをロックできます。アクセスがロックされると、操作メニューのナビゲーションやパラメータ値の変更はできなくなります。操作画面表示の測定値を読み取ることだけが可能です。

キーパッドロックのオン/オフはコンテキストメニューで行います。

キーパッドロックのオン

i SD03 表示モジュールのみ

キーパッドロックが自動的にオンになります。

- 機器が表示部を介して1分以上操作されなかった場合
- 機器をリスタートした場合

キーパッドロックのオン（手動操作の場合）

1. 測定値表示の画面を表示します。
Ⓚ を2秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで**キーロック オン**を選択します。
↳ キーパッドロックがオンになっています。

i キーパッドロック有効時に操作メニューにアクセスしようとする、**キーロック オン**メッセージが表示されます。

キーパッドロックのオフ

1. キーパッドロックがオンになっています。
Ⓚ を2秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで**キーロック オフ**を選択します。
↳ キーパッドロックがオフになります。

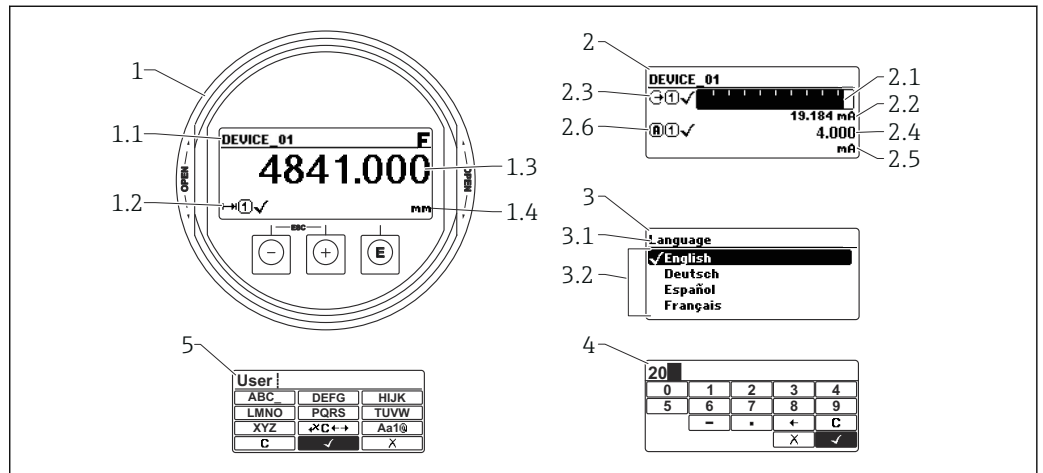
Bluetooth® ワイヤレス技術

Bluetooth® ワイヤレス技術を介した信号伝送では、フラウンホーファー研究所で試験された暗号技術が使用されます。

- SmartBlue アプリが搭載されていない場合、Bluetooth® ワイヤレス技術を介して機器を表示することはできません。
- **1台**のセンサと**1台**のスマートフォンまたはタブレット端末とのポイント・トゥー・ポイント接続のみが構築されます。

8.3 表示部および操作モジュール

8.3.1 表示形式







A0012635

図 16 表示モジュールおよび操作モジュールの表示形式

- 1 測定値表示部 (1つの値、最大サイズ)
- 1.1 タグとエラーシンボル (エラーが出ている場合) を含むヘッダー
- 1.2 測定値シンボル
- 1.3 測定値
- 1.4 単位
- 2 測定値表示部 (バーグラフ+1つの値)
- 2.1 測定値1のバーグラフ
- 2.2 測定値1 (単位付き)
- 2.3 測定値1の測定値シンボル
- 2.4 測定値2
- 2.5 測定値2の単位
- 2.6 測定値2の測定値シンボル
- 3 パラメータ表示 (図の表示例: ドロップダウンリスト付きのパラメータ)
- 3.1 パラメータ名とエラーシンボル (エラーが出ている場合) を含むヘッダー
- 3.2 ドロップダウンリスト、☑は現在のパラメータ値を示します。
- 4 数字の入力マトリックス
- 5 英数字および特殊文字の入力マトリックス



サブメニューの表示シンボル

シンボル	意味
 A0018367	表示/操作 表示場所： <ul style="list-style-type: none"> ■ メインメニューの「表示/操作」選択項目の横 ■ 「表示/操作」メニューの左側のヘッダー
 A0018364	設定 表示場所： <ul style="list-style-type: none"> ■ メインメニューの「設定」選択項目の横 ■ 「設定」メニューの左側のヘッダー
 A0018365	エキスパート 表示場所： <ul style="list-style-type: none"> ■ メインメニューの「エキスパート」選択項目の横 ■ 「エキスパート」メニューの左側のヘッダー
 A0018366	診断 表示場所： <ul style="list-style-type: none"> ■ メインメニューの「診断」選択項目の横 ■ 「診断」メニューの左側のヘッダー


ステータス信号

シンボル	意味
F A0032902	「故障」 機器エラーが発生。測定値は無効。
C A0032903	「機能チェック」 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S A0032904	「仕様範囲外」 機器は作動中： <ul style="list-style-type: none"> ■ 技術仕様の範囲外（例：始動時または洗浄時） ■ ユーザーによる設定が範囲外（例：レベルが設定範囲外）
M A0032905	「要メンテナンス」 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。



ロック状態の表示シンボル





シンボル	意味
 A0013148	読み取り専用パラメータ 表示されるパラメータは、表示のみを目的とするものであり、編集はできません。
 A0013150	機器のロック <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ名の前：機器はソフトウェアおよび/またはハードウェアでロックされています。 ■ 測定値画面のヘッダー：機器はソフトウェアでロックされています。

測定値シンボル

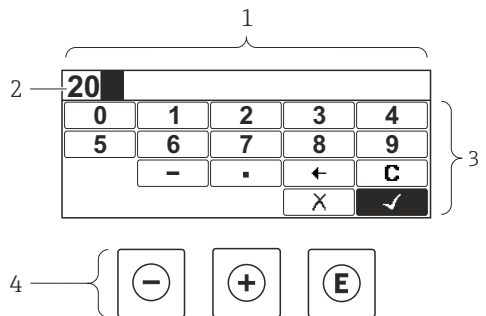
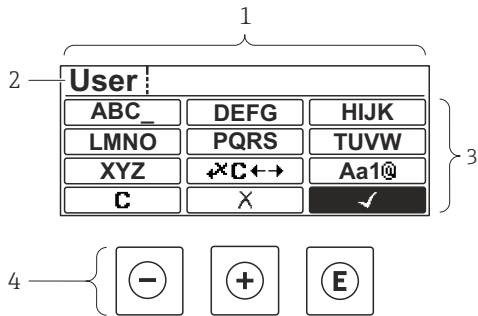
シンボル	意味
測定値	
 A0032892	レベル
 A0032893	距離
 A0032908	電流出力
 A0032894	測定された電流値
 A0032895	端子電圧
 A0032896	電子モジュールまたはセンサ温度
測定チャンネル	
 A0032897	測定チャンネル 1
 A0032898	測定チャンネル 2
測定値ステータス	
 A0018361	「アラーム」ステータス 測定が中断します。出力が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
 A0018360	「警告」ステータス 機器は測定を継続します。診断メッセージが生成されます。

8.3.2 操作部

操作キー	意味
 A0018330	-キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを上方へ移動 テキストおよび数値エディタにおいて 入力画面で、選択バーを左へ移動（戻る）
 A0018329	+キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを下方へ移動 テキストおよび数値エディタにおいて 入力画面で、選択バーを右へ移動（次へ）

操作キー	意味
 <small>A0018328</small>	<p>Enter キー</p> <p>測定値表示用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押すと、操作メニューが開く ■ キーを2秒押すと、コンテキストメニューが開く <p>メニュー、サブメニュー内</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択したメニュー、サブメニュー、またはパラメータが開く ■ パラメータの位置でキーを2秒押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ機能のヘルプテキストがある場合は、これが開く <p>テキストおよび数値エディタにおいて</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択したグループが開く ■ 選択した動作を実行 ■ キーを2秒押すと、編集したパラメータ値が確定される
 <small>A0032909</small>	<p>エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す）</p> <p>メニュー、サブメニュー内</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在のメニューレベルを終了し、上位レベルに移動 ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ キーを2秒押すと、測定値表示部に戻る（「ホーム画面」） <p>テキストおよび数値エディタにおいて</p> <p>変更を確定せずに、テキストまたは数値エディタを閉じる</p>
 <small>A0032910</small>	<p>- / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し）</p> <p>コントラストを弱く（より明るい設定）</p>
 <small>A0032911</small>	<p>+ / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し）</p> <p>コントラストを強く（より暗い設定）</p>








8.3.3 数字とテキストの入力

数値エディタ	テキストエディタ
 <small>A0013941</small>	 <small>A0013999</small>
<p>1 編集画面 2 入力値の表示エリア 3 入力画面 4 操作部</p>	


入力画面

数値およびテキストエディタの入力画面では、次の入力シンボルと操作シンボルを使用できます。



数字エディタ



シンボル	意味
 A0013998	数値 0~9 の選択
 A0016619	カーソル位置に小数点記号を挿入
 A0016620	カーソル位置にマイナス符号を挿入
 A0013985	選択の確定
 A0016621	入力位置を 1 つ左へ移動
 A0013986	変更を確定せずに、入力を終了
 A0014040	入力文字をすべて消去

テキストエディタ

シンボル	意味
 A0013997	文字 A~Z の選択
 A0013981	切り替え <ul style="list-style-type: none"> ■ 大文字/小文字 ■ 数値の入力 ■ 特殊文字の入力
 A0013985	選択の確定
 A0013987	修正ツールの選択に切り替え
 A0013986	変更を確定せずに、入力を終了
 A0014040	入力文字をすべて消去

テキスト修正 (✕C↔)

シンボル	意味
 A0032907	入力文字をすべて消去
 A0018324	入力位置を 1 つ右へ移動

 <small>A0018326</small>	入力位置を1つ左へ移動
 <small>A0032906</small>	入力位置の左隣りの文字を削除


8.3.4 コンテキストメニューを開く

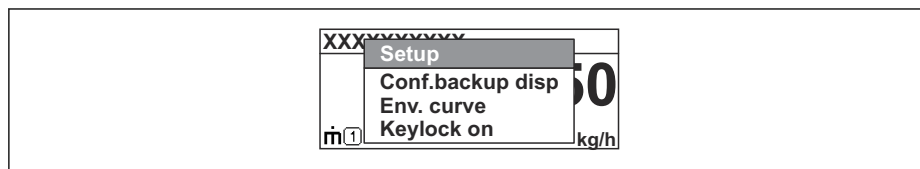
コンテキストメニューを使用すると、操作画面表示から簡単かつダイレクトに次のメニューを開くことができます。

- 設定
- 設定バックアップの表示
- エンベロープカーブ
- キーロックオン



コンテキストメニューの呼び出しと終了

操作画面表示にします。



1.  を2秒間押します。
↳ コンテキストメニューが開きます。



A0037872

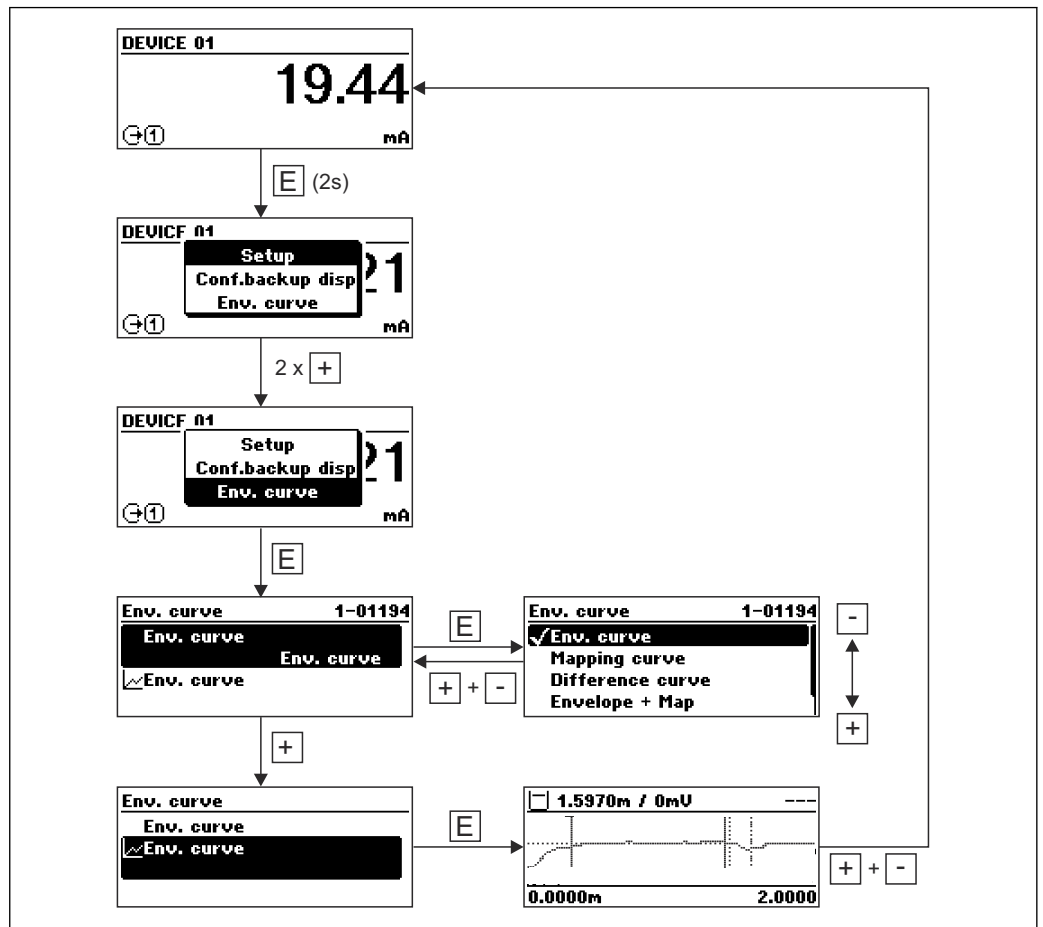
2.  +  を同時に押します。
↳ コンテキストメニューが閉じて、操作画面が表示されます。

コンテキストメニューによるメニューの呼び出し

1. コンテキストメニューを開きます。
2.  を押して、必要なメニューに移動します。
3.  を押して、選択を確定します。
↳ 選択したメニューが開きます。

8.3.5 表示部および操作モジュール上の反射波形表示

測定信号を評価するため、反射波形とマッピングカーブ（マッピングが記録されている場合）を表示部および操作モジュールに表示することが可能です。



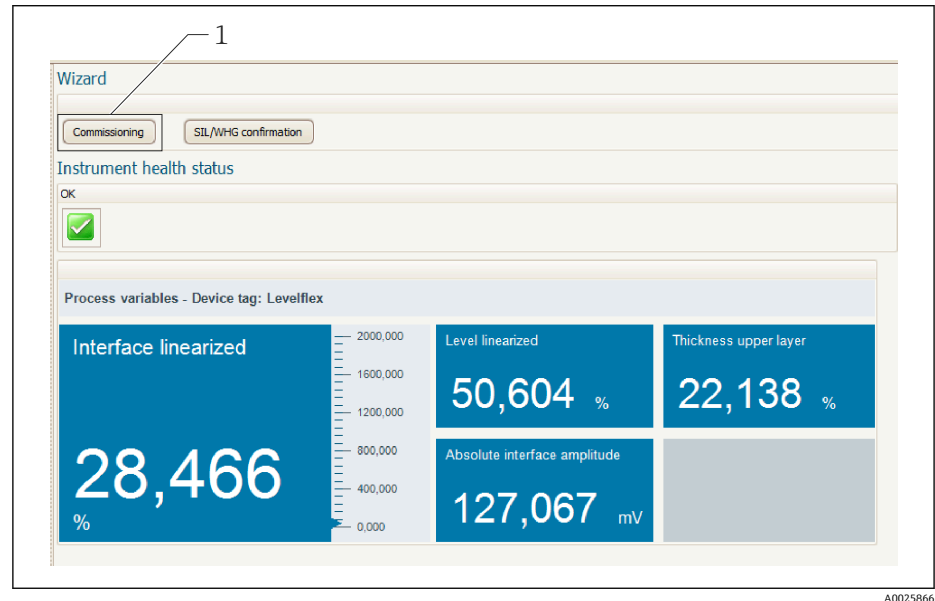
A0014277

9 ウィザードを使用した設定

FieldCare および DeviceCare では、ウィザードを使用して初期調整を容易に行うことができます。

i 事前に Modbus 通信を設定しておく必要があります。

1. 機器を FieldCare または DeviceCare に接続します。→ 43
2. FieldCare または DeviceCare で機器を開きます。
↳ 機器のダッシュボード (ホームページ) が表示されます。



1 「Commissioning (設定)」ボタンでウィザードを呼び出します。

3. 「Commissioning (設定)」をクリックして、ウィザードを開始します。
4. 各パラメータに適切な値を入力するか、または適切な項目を選択します。これらの値は機器に直接書き込まれます。
5. 「Next (次へ)」をクリックして次のページに移動します。
6. すべてのページの入力が完了したら「Finish (完了)」をクリックしてウィザードを終了します。

i すべての必要なパラメータを入力する前にウィザードをキャンセルした場合、機器が未設定の状態になる可能性があります。この場合、機器を初期設定にリセットすることをお勧めします。

10 操作メニューを使用した設定

10.1 機能チェック

測定点を設定する前に、設置状況および配線状況を確認してください。

- 「設置状況の確認」チェックリスト
- 「配線状況の確認」チェックリスト

10.2 操作言語の設定

工場設定：英語または注文した地域の言語

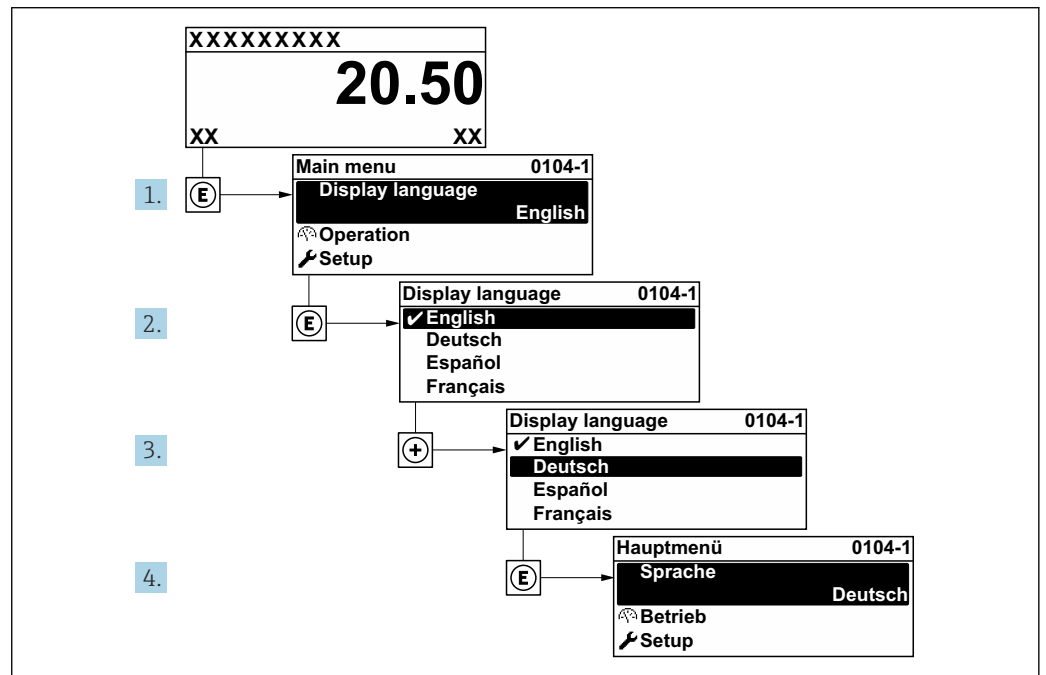
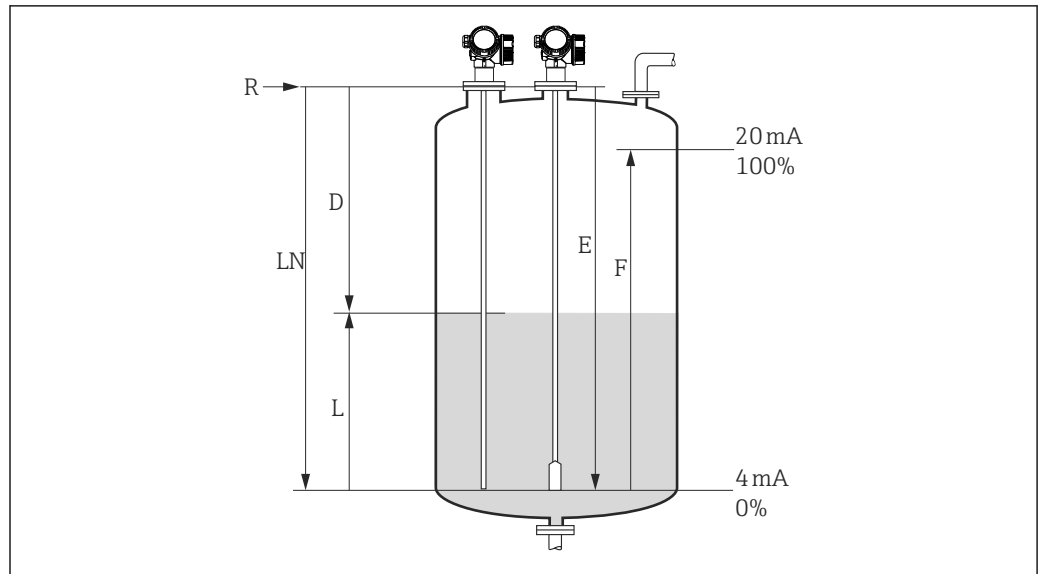


図 17 現場表示器の使用例

A0029420

10.3 レベル測定の設定



A0011360

図 18 液体のレベル測定用パラメータの設定

LN	プローブ長
R	測定基準点
D	距離
L	レベル
E	空校正 (=ゼロ点)
F	満量校正 (=スパン)

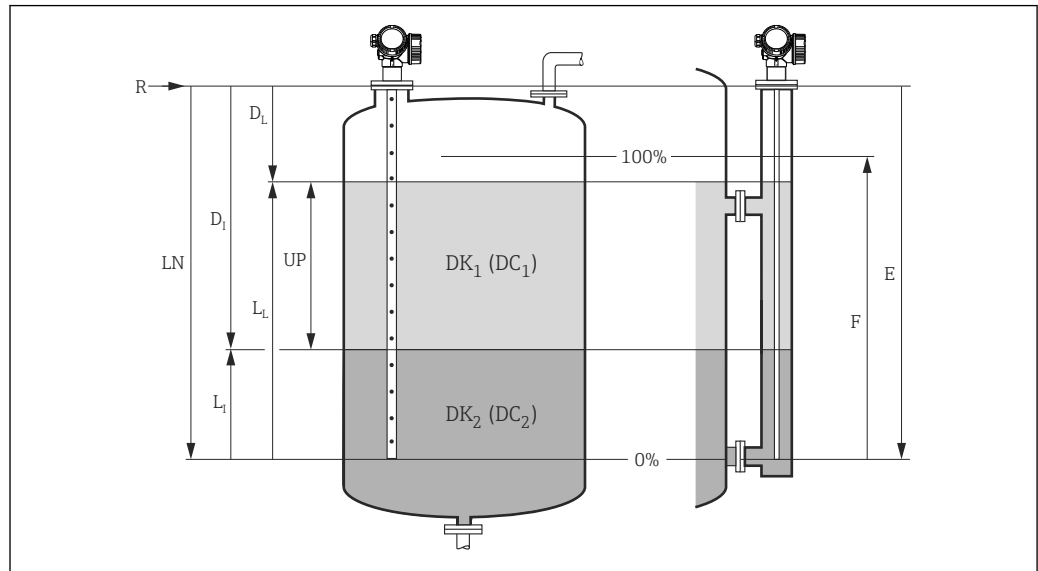
i ローププローブの使用時に比誘電率値が 7 未満の場合、テンションウェイト付近では測定できません。この場合、空校正 E は $LN - 250 \text{ mm}$ ($LN - 10 \text{ in}$) を超えないようにしてください。

- 設定 → デバイスのタグ
↳ デバイスのタグを入力します。
- 「界面測定」アプリケーションパッケージの機器の場合：
次の項目に移動します。設定 → 動作モード
↳ **レベル** オプションを選択します。
- 次の項目に移動します。設定 → 距離の単位
↳ 長さの単位を選択します。
- 次の項目に移動します。設定 → タンクタイプ
↳ タンクタイプを選択します。
- タンクタイプ** パラメータ = 外筒管の場合：
次の項目に移動します。設定 → パイプ直径
↳ 外筒管または内筒管の直径を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → 測定物グループ
↳ 測定物グループ (**水ベース (DC >= 4)** または **その他**) を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → 空校正
↳ 空距離 E (測定基準点 R から 0% マークまでの距離) を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → 満量校正
↳ 満量距離 F (0% マークから 100% マークまでの距離) を設定します。
- 次の項目に移動します。設定 → レベル
↳ 測定レベル L を表示します。

10. 次の項目に移動します。設定 → 距離
 - ↳ 測定基準点 R とレベル L 間の距離 D を表示します。
11. 次の項目に移動します。設定 → 信号品質
 - ↳ 解析されたレベルエコーの信号品質を表示します。
12. 現場表示器による操作：
次の項目に移動します。設定 → マッピング → 距離の確定
 - ↳ 不要反射マップの記録を開始するために、必要に応じて、表示された距離と実際の値を比較します。
13. 操作ツールによる操作：
次の項目に移動します。設定 → 距離の確定
 - ↳ 不要反射マップの記録を開始するために、表示された距離と実際の値を比較します（該当する場合）。

10.4 界面測定の設定

i 界面測定は、対応するソフトウェアオプションが機器に搭載されている場合にのみ可能です。製品構成：仕様コード 540「アプリケーションパッケージ」、オプション EB「界面測定」



A0011177

図 19 界面測定用パラメータの設定

LN	プローブ長
R	測定基準点
DI	界面距離（フランジから下部測定物までの距離）
LI	界面
DL	距離
LL	レベル
UP	上層部の厚さ
E	空校正 (=ゼロ点)
F	満量校正 (=スパン)

1. 次の項目に移動します。設定 → デバイスのタグ
↳ デバイスのタグを入力します。
2. 次の項目に移動します。設定 → 動作モード
↳ **界面** オプションを選択します。
3. 次の項目に移動します。設定 → 距離の単位
↳ 長さの単位を選択します。
4. 次の項目に移動します。設定 → タンクタイプ
↳ タンクタイプを選択します。
5. **タンクタイプ** パラメータ = 外筒管の場合：
次の項目に移動します。設定 → パイプ直径
↳ 外筒管または内筒管の直径を設定します。
6. 次の項目に移動します。設定 → タンクレベル
↳ 充填レベルを設定します（**満量** または **一部充填**）。
7. 次の項目に移動します。設定 → 上部接続までの距離
↳ 外筒管内: 基準点 R から上部排出口の下端までの距離を設定します。それ以外の場合にはすべて、工場設定のままにしてください。
8. 次の項目に移動します。設定 → DC 値
↳ 上部測定物の比誘電率 (ϵ_r) を設定します。

9. 次の項目に移動します。設定 → 空校正
 - ↳ 空距離 E (測定基準点 R から 0% マークまでの距離) を設定します。
10. 次の項目に移動します。設定 → 満量校正
 - ↳ 満量距離 F (0% マークから 100% マークまでの距離) を設定します。
11. 次の項目に移動します。設定 → レベル
 - ↳ 測定レベル L_L を表示します。
12. 次の項目に移動します。設定 → 界面
 - ↳ 界面高さ L_I を表示します。
13. 次の項目に移動します。設定 → 距離
 - ↳ 測定基準点 R とレベル L_L 間の距離 D_L を表示します。
14. 次の項目に移動します。設定 → 界面距離
 - ↳ 測定基準点 R と界面 L_I 間の距離 D_I を表示します。
15. 次の項目に移動します。設定 → 信号品質
 - ↳ 解析されたレベルエコーの信号品質を表示します。
16. 現場表示器による操作：
次の項目に移動します。設定 → マッピング → 距離の確定
 - ↳ 不要反射マップの記録を開始するために、必要に応じて、表示された距離と実際の値を比較します。
17. 操作ツールを使用 (例: FieldCare) :
次の項目に移動します。設定 → 距離の確定
 - ↳ 不要反射マップの記録を開始するために、表示された距離と実際の値を比較します (該当する場合)。

10.5 基準エコーカーブの記録


測定の設定後に現在の反射波形図を基準エコーカーブとして記録することをお勧めします。これは、後で診断のために使用できます。**基準カーブの保存** パラメータは、反射波形を記録するために使用します。

メニュー内のパス

エキスパート → 診断 → エンベロープ診断 → 基準カーブの保存

選択項目の説明

- いいえ
動作なし
- はい
現在の反射波形が基準カーブとして保存されます。

 基準エコーカーブは、機器から FieldCare に基準エコーカーブが読み込まれた後、FieldCare の反射波形図にのみ表示されます。これには、FieldCare の「基準カーブ読み込み」機能を使用します。

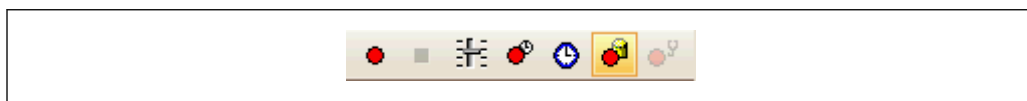


図 20 「基準カーブ読み込み」機能

10.6 現場表示器の設定

10.6.1 レベル測定用の現場表示器の工場設定

パラメータ	電流出力が1つの機器の工場設定	電流出力が2つの機器の工場設定
表示形式	1つの値、最大サイズ	1つの値、最大サイズ
1の値表示	リニアライゼーションされたレベル	リニアライゼーションされたレベル
2の値表示	距離	距離
3の値表示	電流出力1	電流出力1
4の値表示	なし	電流出力2

10.6.2 界面測定用の現場表示器の工場設定

パラメータ	電流出力が1つの機器の工場設定	電流出力が2つの機器の工場設定
表示形式	1つの値、最大サイズ	1つの値、最大サイズ
1の値表示	リニアライゼーションされた界面	リニアライゼーションされた界面
2の値表示	リニアライゼーションされたレベル	リニアライゼーションされたレベル
3の値表示	上層部の厚さ	電流出力1
4の値表示	電流出力1	電流出力2

10.6.3 現場表示器の調整

以下のサブメニューを使用して現場表示器を調整できます。
設定 → 高度な設定 → 表示

10.7 Modbus 通信の設定

10.7.1 バスパラメータ

バスパラメータ	設定
通信速度	自動的に検出、設定は不要
パリティ	自動的に検出、設定は不要
機器の Modbus アドレス	HART アドレスパラメータを使用して設定： エキスパート → 通信 → 設定 → HART アドレス 値範囲：1~63

10.7.2 機器パラメータ

以下のパラメータは固定されています。ユーザーによる変更は、機器によって直ちに取
り消されます。


- 電流スパン = 固定電流値
- 固定電流値 = 10 mA

10.7.3 プロセスパラメータ

バス経由で伝送するプロセスパラメータは、以下の HART 変数のいずれかに割り当て
る必要があります。

エキスパート → 通信 → 出力

- PV 割当
- SV 割当
- TV 割当
- QV 割当

この HART 変数は、特定の Modbus レジスタを介してアクセスできます。→  185

10.8 設定管理

設定後、現在の機器設定の保存、他の測定点へのコピー、または前の機器設定の復元を行うことが可能です。これを行うには、**設定管理** パラメータとそのオプションを使用します。

メニュー内のパス

設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 設定管理

選択項目の説明

■ キャンセル

何も実行せずにこのパラメータを終了します。

■ バックアップの実行

現在の機器設定のバックアップコピーを、HistoROM（機器に内蔵）から機器の表示モジュールに保存します。

■ 復元

機器設定のバックアップコピーを、表示モジュールから機器の HistoROM にコピーします。

■ 複製

機器の変換器設定を、表示モジュールを使用して別の機器に複製します。個々の測定点の特徴付ける以下のパラメータは転送されません。

- HART データコード
- HART ショートタグ
- HART メッセージ
- HART 記述子
- HART アドレス
- デバイスのタグ
- 測定物タイプ

■ 比較

表示モジュールに保存された機器設定と HistoROM の現在の機器設定を比較します。その結果は、**比較の結果** パラメータ パラメータに表示されます。

■ バックアップデータの削除

機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールから削除します。



この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。



既存のバックアップコピーが、**復元** オプションを使用して元の機器以外に復元された場合、個々の機器機能が使用できなくなる可能性があります。場合によっては、「納入時の状態」にリセットして元の状態に復元することもできません。

→ 163

設定を別の機器にコピーする場合は、必ず**複製** オプションを使用してください。

10.9 不正アクセスからの設定の保護

次の2つの方法で、不正アクセスから設定を保護できます。

- パラメータによるロック (ソフトウェアロック)
- 書込保護スイッチによるロック (ハードウェアロック)

11 診断およびトラブルシューティング

11.1 一般トラブルシューティング

11.1.1 一般エラー

エラー	考えられる原因	解決方法
機器が応答しない	電源電圧が接続されていない	正しい電圧を接続する。
	ケーブルと端子の接触不良	ケーブルと端子の電氣的接続を確実にを行う。
ディスプレイの値が見えない	コントラスト設定が強すぎる/弱すぎる	<ul style="list-style-type: none"> 田と回を同時に押して、コントラストを上げる。 田と回を同時に押して、コントラストを下げる。
	ディスプレイケーブルのプラグが正しく接続されていない	プラグを正しく接続する。
	ディスプレイの故障	ディスプレイを交換する。
機器の起動時、またはディスプレイの接続時に、表示部に「通信エラー」が表示される	電磁干渉	機器の接地を確認する。
	ディスプレイのケーブルまたはプラグの破損	ディスプレイを交換する。
1つの機器から別の機器へのディスプレイを介したパラメータの複製が機能していない。「保存」および「キャンセル」選択項目しか使用できない。	以前に新しい機器でデータバックアップが実行されなかった場合、バックアップを搭載したディスプレイが正しく検出されない	ディスプレイ (バックアップ搭載) を接続し、機器を再起動する。
CDI 通信が作動しない	コンピュータの COM ポートの設定が正しくない	コンピュータの COM ポートの設定を確認し、必要に応じて変更する。
機器測定が正しくない	パラメータ設定エラー	パラメータ設定を確認し、修正する。

11.1.2 パラメータ設定エラー

レベル測定のパラメータ設定エラー

エラー	考えられる原因	解決方法
測定値が不正確	測定距離 (設定 → 距離) が実際の距離と一致している場合： 校正エラー	<ul style="list-style-type: none"> 空校正 パラメータ (→ 105) を確認し、必要に応じて修正する。 満量校正 パラメータ (→ 106) を確認し、必要に応じて修正する。 リニアライゼーションを確認し、必要に応じて修正する (リニアライゼーション サブメニュー (→ 131))。
	測定距離 (設定 → 距離) が実際の距離と一致しない場合： 不要反射が発生している	マッピングを行う (距離の確定 パラメータ (→ 113))。
充填/排出時に測定値の変化なし	不要反射が発生している	マッピングを行う (距離の確定 パラメータ (→ 113))。
	プローブの付着物	プローブを洗浄する。
	エコトラッキングでエラーが発生する	エコトラッキングを無効にする (エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = 履歴オフ)。

エラー	考えられる原因	解決方法
電源をオンにすると、診断メッセージ エコーロスト が表示される	エコーしきい値が高すぎる	測定物グループ パラメータ (→ 105)を確認する。 必要に応じて、 測定物特性 パラメータ (→ 119)の詳細な設定を選択する。
	レベルエコーの抑制	マップを消去し、必要に応じて、再度記録する (マップ記録 パラメータ (→ 115))。
タンクが空なのに機器がレベルを表示する	プローブ長が正しくない	プローブ長補正を行う (プローブ長の確認 パラメータ (→ 145))。
	不要反射	タンクが空のときにプローブ全長にわたってマッピングを実施する (距離の確定 パラメータ (→ 113))。
測定範囲全体のレベル勾配が正しくない	異なるタンクタイプが選択されている	正しい タンクタイプ パラメータ (→ 104)を選択する。

界面測定のパラメータ設定エラー

エラー	考えられる原因	解決方法
設定が タンクレベル = 満量 の場合に、タンクが空になると表示される界面レベルが急に高い値になる	全体レベルが上部不感知距離の範囲外で検出されている	不感知距離を増やす (不感知距離 パラメータ (→ 122))。
		タンクレベル パラメータ (→ 110) = 一部充填 に設定する。
設定が タンクレベル = 一部充填 の場合に、タンクが充填されると表示される全体レベルが急に低い値になる	全体レベルが上部不感知距離に入っている	不感知距離を減らす (不感知距離 パラメータ (→ 122))。
界面測定値の勾配が正しくない	上部測定物の比誘電率 (DC 値) が正しく設定されていない	上部測定物の正しい比誘電率 (DC 値) を入力する (DC 値 パラメータ (→ 111))。
界面と全体レベルの測定値が同じ	不正確な比誘電率により全体レベルのエコーしきい値が高すぎる	上部測定物の正しい比誘電率 (DC 値) を入力する (DC 値 パラメータ (→ 111))。
界面が薄い場合に、全体レベルが界面レベルに急に変わる	上部測定物の厚みが 60 mm 以下	界面の測定は、界面高さが 60 mm を超える場合にのみ可能。
界面測定値が急に変わる	エマルジョン層がある	エマルジョン層が測定に影響を及ぼしている。 Endress+Hauser にお問い合わせください。

11.2 現場表示器の診断情報

11.2.1 診断メッセージ

計測機器の自己監視システムで検出されたエラーが、測定値表示と交互に診断メッセージとして表示されます。

アラーム状態時の測定値表示	診断メッセージ
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 5px;"> 2 1 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 5px;"> ↓ ↓ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> XXXXXXXXXX ⚠ S </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">20.50</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> x ① XX </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> XXXXXXXXXX ⚠ S </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> ⚠ S801 3 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> Supply voltage 4 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> ⓘ Menu </div>
	<div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; text-align: center;">-</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; text-align: center;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; text-align: center;">E</div> </div> <div style="text-align: right; margin-right: 5px;">} 5</div>

A0029426-JA

- 1 ステータス信号
- 2 ステータスシンボル (イベントレベルのシンボル)
- 3 診断イベントに関するステータスシンボル
- 4 イベントテキスト
- 5 操作部

ステータス信号

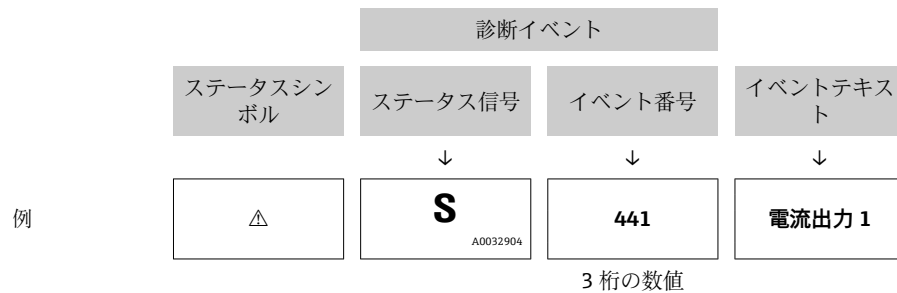
F <small>A0032902</small>	「故障 (F)」 オプション 機器エラーが発生。測定値は無効。
C <small>A0032903</small>	「機能チェック (C)」 オプション 機器はサービスモード (例: シミュレーション中)
S <small>A0032904</small>	「仕様範囲外 (S)」 オプション 機器は作動中: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 技術仕様の範囲外 (例: 始動時または洗浄時) ▪ ユーザーによる設定が範囲外 (例: レベルが設定範囲外)
M <small>A0032905</small>	「メンテナンスが必要 (M)」 オプション メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

ステータスシンボル (イベントレベルのシンボル)

⊗	「アラーム」ステータス 測定が中断します。信号出力が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
⚠	「警告」ステータス 機器は測定を継続します。診断メッセージが生成されます。

診断イベントおよびイベントテキスト

診断イベントを使用してエラーを特定できます。イベントテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断イベントの前に対応するステータスシンボルが表示されます。



同時に複数の診断イベントが未解決である場合は、最も優先度の高い診断メッセージのみが表示されます。その他の待機中のメッセージは**診断リスト**サブメニューに表示されます。

- i** 処理済みの過去の診断メッセージは、以下に表示されます。
- 現場表示器：
イベントログブック
 - FieldCare：
「イベントリスト/HistoROM」機能

操作部

メニュー、サブメニューの操作機能	
+	+ キー 対処法に関するメッセージを開きます。
Enter	Enter キー 操作メニューを開きます。

11.2.2 対処法の呼び出し

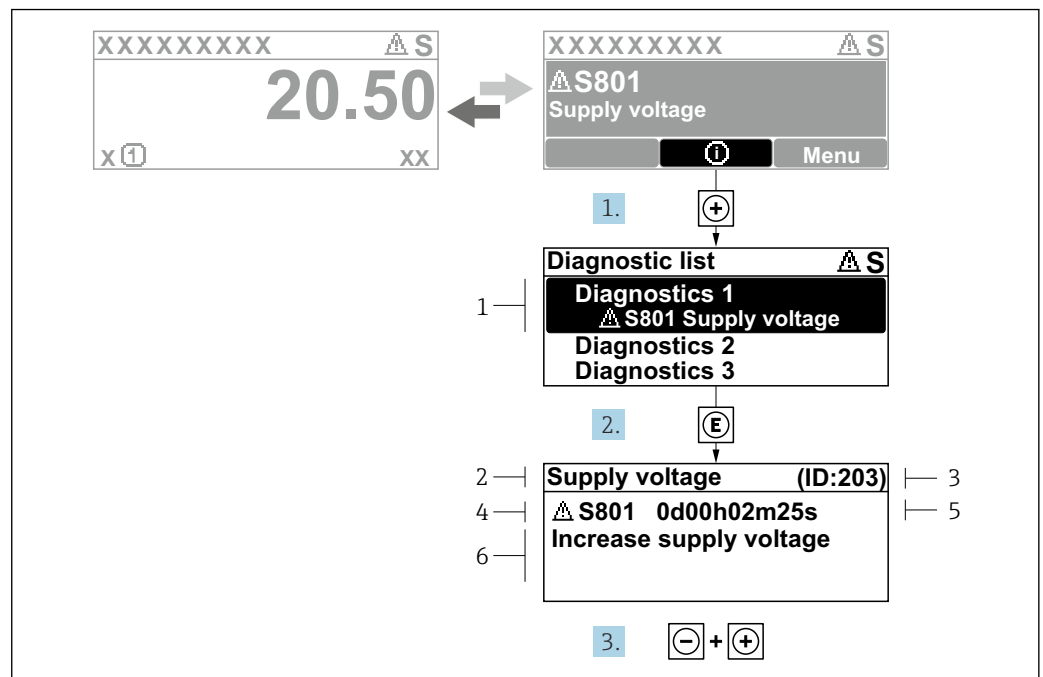


図 21 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 エラー発生時の稼働時間
- 6 対処法

診断メッセージを表示します。

1. **+** を押します (① シンボル)。
 - ↳ **診断リスト** サブメニュー が開きます。
2. **+** または **E** を使用して必要な診断イベントを選択し、**E** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
3. **-** + **+** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

診断 メニュー内の診断イベントの入力項目に移動します (例: **診断リスト**、**前回の診断結果**)。

1. **E** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. **-** + **+** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

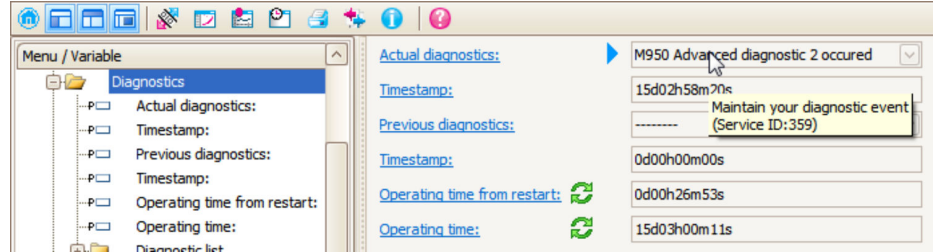
11.3 操作ツール上の診断イベント

機器で診断イベントが発生した場合、操作ツールのステータスエリア左上に、ステータス信号が、対応するイベントレベルのシンボルとともに表示されます (NAMUR NE 107 に準拠)。

- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)

A: 操作メニューから

1. **診断** メニューに移動します。
 - ↳ **現在の診断結果** パラメータには、診断イベントとイベントテキストが表示されます。
2. 表示領域の右側にある**現在の診断結果** パラメータの上にカーソルを合わせます。
 - ↳



診断イベントに対する対策情報のヒントが表示されます。

B: 「ドキュメントの作成」機能から

- 1.

「ドキュメントの作成」機能を選択します。

- 2.

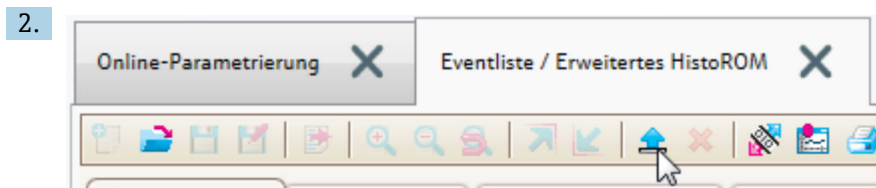
「データの概要」にチェックが入っていることを確認します。

3. 「名前をつけて保存 ...」をクリックしてレポートのPDFを保存します。
 - ↳ レポートには、対処法などを含む診断メッセージが収められます。

C: 「イベントリスト/拡張 HistoROM」機能から

- 1.

「イベントリスト/拡張 HistoROM」機能を選択します。



「イベントリストの読み込み」機能を選択します。

- ↳ 対処法などを含むイベントリストが「データの概要」ウィンドウに表示されます。

11.4 診断リスト

診断リスト サブメニュー サブメニューでは、現在未処理の診断メッセージを最大 5 件表示できます。5 件以上のメッセージが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示部に示されます。

ナビゲーションパス

診断 → 診断リスト

対処法の呼び出しと終了

1. を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. + を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

11.5 イベントログブック

11.5.1 イベント履歴

イベントリストには、発生したイベントメッセージの概要が時系列で表示されます。

このサブメニューは現場表示器から操作する場合にのみ表示されます。FieldCare を介して操作する場合、イベントリストは FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能で表示できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → イベントリスト

最大 100 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。

イベント履歴には、次の入力項目が含まれます。

- 診断イベント
- 情報イベント

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルも割り当てられます。

- 診断イベント
 - : イベントの発生
 - : イベントの終了
- 診断イベント
 - : イベントの発生

対処法の呼び出しと終了

1. を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。

2. □ + ⊕ を同時に押します。
 ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

11.5.2 イベントログブックのフィルタ処理

フィルタオプション パラメータを使用すると、**イベントリスト** サブメニューに表示するイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → フィルタオプション

フィルタカテゴリー


- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報

11.5.3 情報イベントの概要

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済
I1092	HistoROM の削除
I1110	書き込み保護スイッチ変更
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1154	最小/最大端子電圧のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1156	メモリエラー トレンド
I1157	メモリエラー イベントリスト
I1184	ディスプレイが接続されています
I1185	表示バックアップ完了
I1186	表示ディスプレイでの復元
I1187	表示ディスプレイでダウンロードされた設定
I1188	表示データクリア済
I1189	バックアップ比較完了
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1264	安全機能が中断されました
I1335	ファームウェアの変更
I1397	フィールドバス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1512	ダウンロードを開始しました
I1513	ダウンロード終了
I1514	アップロード開始
I1515	アップロード完了

情報番号	情報名
I1554	セーフティ手順の開始
I1555	セーフティの手順が確認されました
I1556	セーフティモードオフ

11.6 ファームウェアの履歴

 ファームウェアバージョンは、製品構成を使用して注文時に指定できます。これにより、既存のまたは計画中のシステム統合とファームウェアバージョンの互換性を確保することが可能です。

12 メンテナンス

特別なメンテナンスは不要です。

12.1 外部洗浄

機器の外部洗浄を行う場合、ハウジングの表面やシールを腐食させるような洗浄剤は使用しないでください。

12.2 一般的な洗浄方法

アプリケーションによっては、プローブに汚れや付着物が形成される場合があります。薄くて均一な層は、測定にほとんど影響しません。層が厚い場合は、信号が減衰し、測定範囲が減少します。非常に不均一な付着物の形成または固化（例：結晶化による）により、測定結果が不正確になる可能性があります。このような場合は、非接触式の測定原理を採用するか、プローブの汚れを定期的に検査してください。

水酸化ナトリウム溶液による洗浄（例：CIP 洗浄）：カップリングが濡れていると、基準動作条件下よりも大きな測定誤差が発生する可能性があります。濡れると、一時的に測定が不正確になることがあります。

13 修理

13.1 一般情報

13.1.1 修理コンセプト

Endress+Hauser の修理コンセプトでは、機器にモジュール式设计を採用することにより、当社サービス部門または専門トレーニングを受けたユーザーが修理を実施できるようになっています。

スペアパーツは合理的なキットに分類され、関連する交換指示書が付属します。

点検およびスペアパーツの詳細については、当社サービスの担当者にご連絡ください。

13.1.2 防爆認定機器の修理

警告

不適切な修理により、電気の安全性が損なわれます。

爆発の危険性

- ▶ 防爆認定機器の修理は、当社サービスまたは専門作業員が国内規制に従って実施する必要があります。
- ▶ 関連規格、危険場所に関する国内規制、安全上の注意事項および証明書に従ってください。
- ▶ 当社純正スペアパーツのみを使用してください。
- ▶ 銘板に記載された機器構成に注意してください。同等のパーツのみ交換パーツとして使用できます。
- ▶ 適切な関連資料の指示に従って修理してください。
- ▶ 認定機器を改造して別の認定バージョンに変更できるのは、当社サービス担当者に限られます。

13.1.3 電子モジュールの交換

電子モジュールを交換した場合、パラメータはハウジング内の HistoROM に保存されているため、機器を再校正する必要はありません。メイン電子モジュールの交換時には、新たに不要反射の抑制を記録しなければならない場合があります。

13.1.4 機器の交換

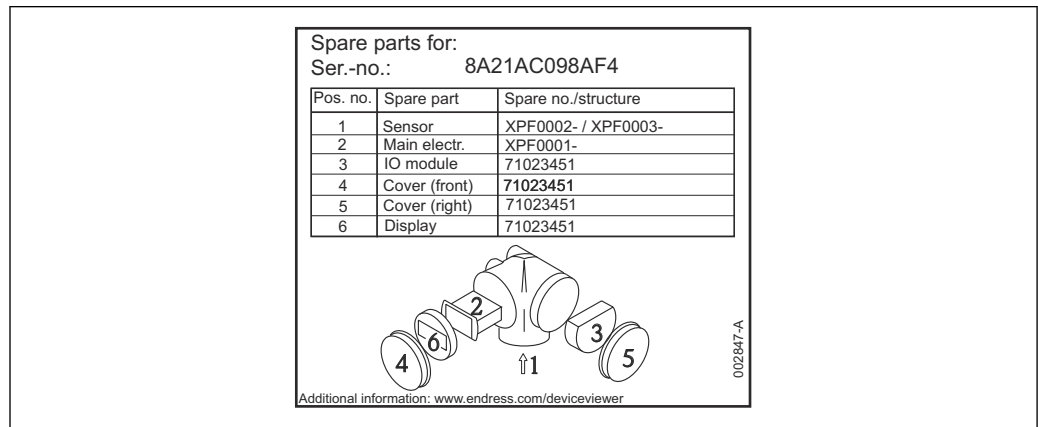
機器を完全に交換した場合、以下のいずれかの方法を使用してパラメータを機器に転送できます。

- 表示モジュールを使用
必須条件：交換前の機器の設定を事前に表示モジュールに保存しておくこと。
- FieldCare を使用
必須条件：FieldCare を使用して交換前の機器の設定を事前にコンピュータに保存しておくこと。

新たに校正を実施することなく、測定を継続することが可能です。不要反射の抑制のみ、再度実行しなければならない場合があります。

13.2 スペアパーツ

- 交換可能な計測機器コンポーネントの一部は、スペアパーツ銘板で確認できます。これには、スペアパーツに関する情報が含まれます。
- 機器の端子部蓋に、以下の情報が含まれるスペアパーツ銘板が付いています。
 - 計測機器の主要なスペアパーツのリスト（スペアパーツの注文情報を含む）
 - W@M デバイスビューワーの URL (www.endress.com/deviceviewer) :
計測機器のスペアパーツがすべてオーダーコードとともにリストされており、注文することが可能です。関連する設置要領書がある場合は、これをダウンロードすることもできます。



A0014979

図 22 端子部蓋のスペアパーツ銘板の例


- i** 計測機器シリアル番号 :
 - 機器およびスペアパーツの銘板に記載されています。
 - 「機器情報」サブメニューの「シリアル番号」から読み取ることができます。

13.3 返却

機器の安全な返却要件は、機器の種類と各国の法によって異なります。

1. ウェブページの情報を参照してください。
<https://www.endress.com/support/return-material>
↳ 地域を選択します。
2. 機器を返却する場合、機器が衝撃や外部の影響から確実に保護されるように梱包してください。納入時の梱包材を使用すると、最適な保護効果が得られます。

13.4 廃棄

-  電子・電気機器廃棄物 (WEEE) に関する指令 2012/19/EU により必要とされる場合、分別されていない一般廃棄物として処理する WEEE を最小限に抑えるため、製品には絵文字シンボルが付いています。このマークが付いている製品は、分別しない一般ゴミとしては廃棄しないでください。代わりに、適切な条件下で廃棄するために製造者へご返送ください。

14 アクセサリ

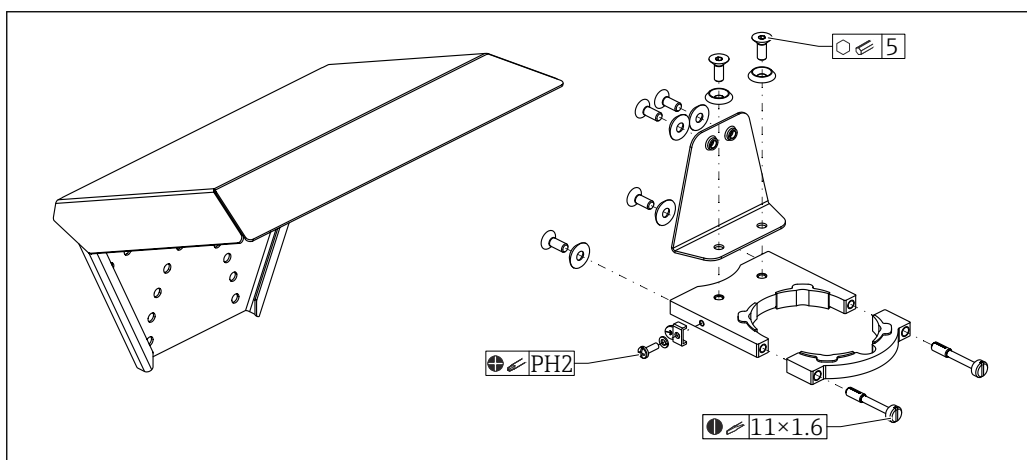
本製品向けの現行アクセサリは、www.endress.com で選択できます。

1. フィルタおよび検索フィールドを使用して製品を選択します。
2. 製品ページを開きます。
3. **Spare parts & Accessories** を選択します。

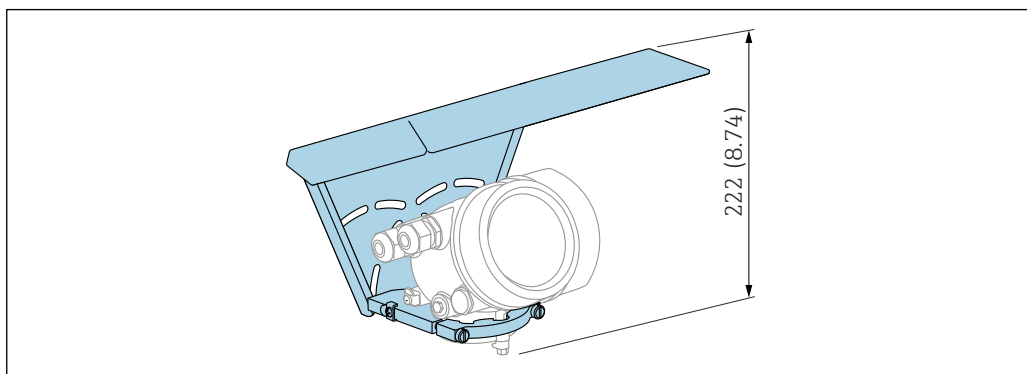
14.1 機器固有のアクセサリ

14.1.1 日除けカバー

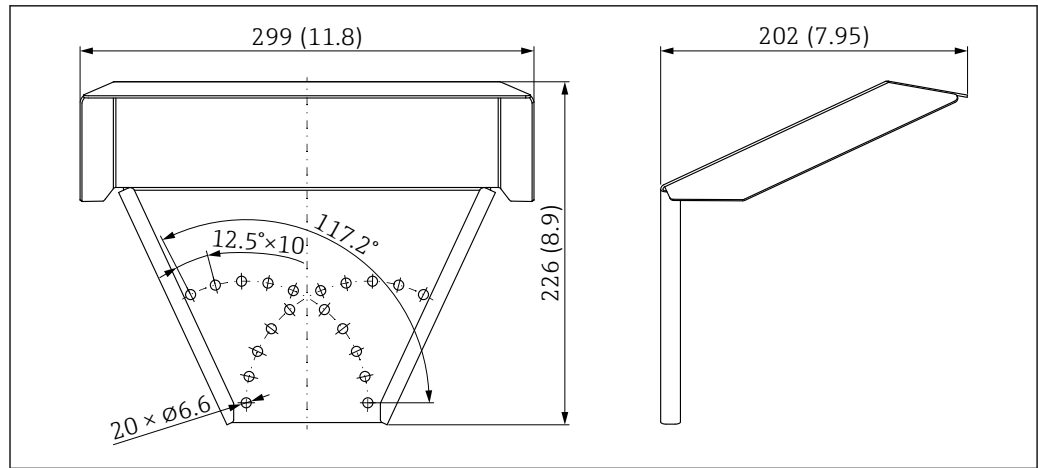
日除けカバーは、製品構成の「同梱アクセサリ」から機器と一緒に注文できます。これは機器を直射日光、雨水、雹などから保護するために使用します。



23 概要



24 高さ。測定単位 mm (in)



A0015472

図 25 寸法。測定単位 mm (in)

材質

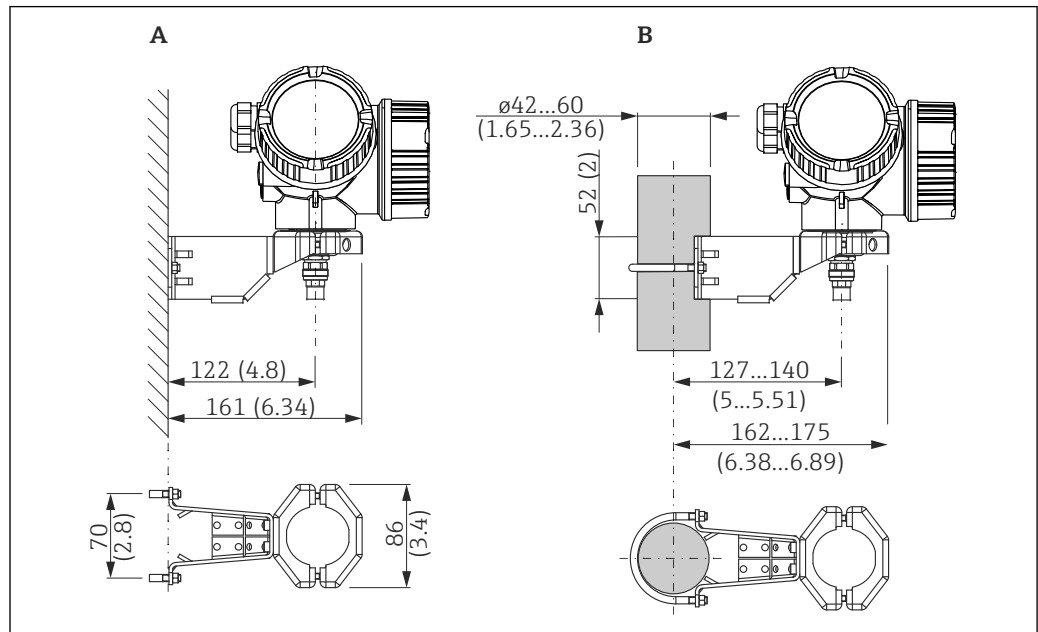
- 保護キャップ : SUS 316L 相当 (1.4404)
- ブラケット : SUS 316L 相当 (1.4404)
- アングル金具 : SUS 316L 相当 (1.4404)
- 締付けねじ : SUS 316L 相当 (1.4404) + 炭素繊維
- 成形ゴム部品 (4x) : EPDM
- ネジ : A4
- ディスク : A4
- 接地端子 : A4、SUS 316L 相当 (1.4404)

アクセサリのオーダー番号 :

71162242

14.1.2 電子部ハウジングの取付ブラケット

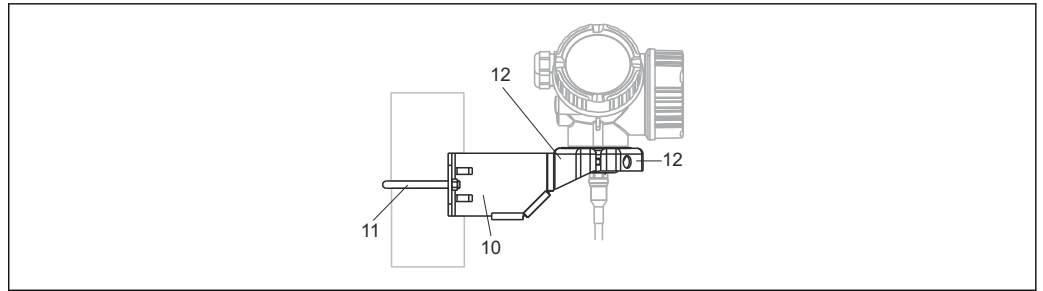
「分離型センサ」機器バージョン (製品構成の仕様コード 060) の場合、取付ブラケットは納入範囲に含まれます。別売りのアクセサリとして注文可能です。



A0014793

図 26 電子部ハウジングの取付ブラケット、単位 : mm (in)

- A 壁面取付け
- B 支柱取付け



A0015143

☑ 27 材質：取付ブラケット

10 ブラケット：SUS 316L相当 (1.4404)

11 円形ブラケット：SUS 316L相当 (1.4404)、ネジ/ナット：A4-70、ディスタンススリーブ：SUS 316L相当 (1.4404)

12 ハーフシェル：SUS 316L相当 (1.4404)

アクセサリのオーダー番号：

71102216

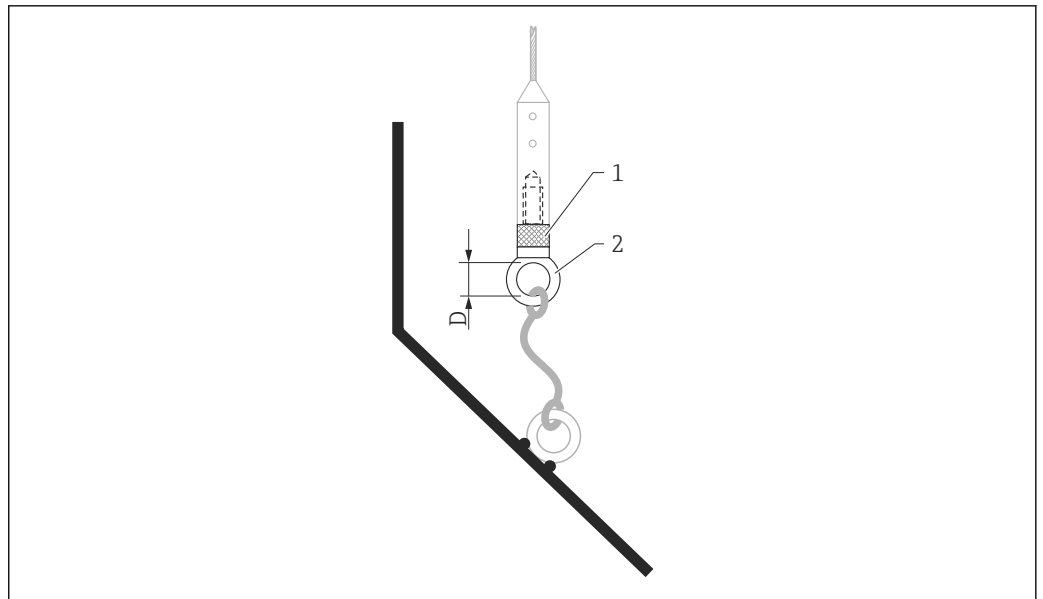
14.1.3 取付キット（絶縁）

ローププローブの確実な絶縁固定用

最高プロセス温度：150 °C (300 °F)

取付キット（絶縁）は、以下で使用可能：

FMP51



A0013586

☑ 28 取付キットの納入範囲：

1 絶縁スリーブ

2 環付きボルト

ローププローブ 4 mm ($\frac{1}{8}$ in) または 6 mm ($\frac{1}{4}$ in)、PA > スチールの場合：
直径 D = 20 mm (0.8 in)

アクセサリのオーダー番号：

52014249

ローププローブ 6 mm ($\frac{1}{4}$ in) または 8 mm ($\frac{1}{2}$ in)、PA > スチールの場合：
直径 D = 25 mm (1 in)

アクセサリのオーダー番号：

52014250

絶縁スリーブは帯電のリスクがあるため、危険場所での使用には適していません。この場合、プローブが確実に接地されるように固定する必要があります。

i 取付キットは、機器と同時に注文することも可能です (Levelflex の製品構成、仕様コード 620「同梱アクセサリ」、オプション PG「取付キット、絶縁、ロープ」を参照)。

14.1.4 センタリングスター**センタリングスター PEEK、 $\varnothing 48\sim 95$ mm (1.89~3.74 in)**

以下に適合：

- FMP51
-

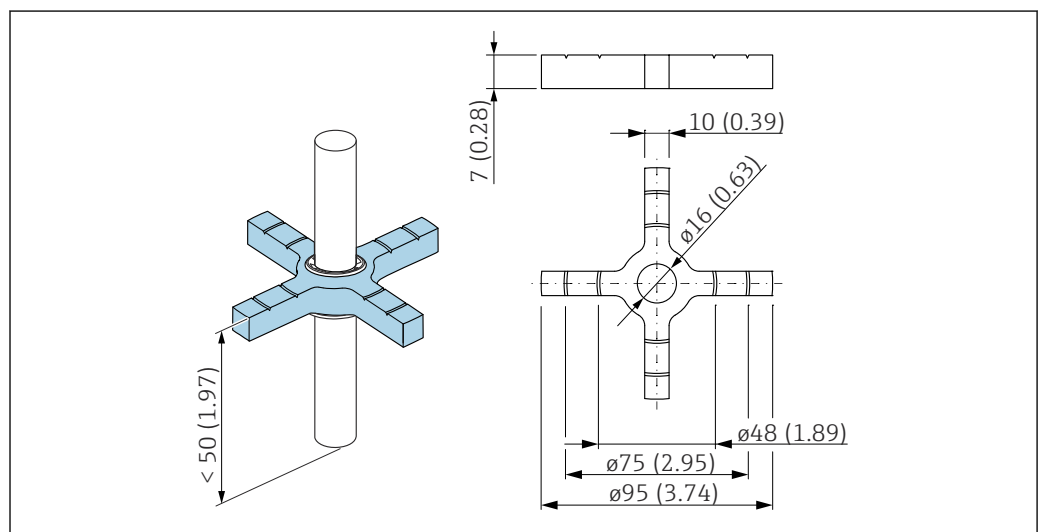


図 29 寸法；センタリングスター PEEK、 $\varnothing 48\sim 95$ mm (1.89~3.74 in)

センタリングスターは、直径が 16 mm (0.6 in) のロッド型プローブに適合し、呼び口径 50~100 mm のパイプで使用できます。マークが付加されているため、サイズに合わせて容易に切断でき、センタリングスターを配管径に適合させることができます。

i 詳細については、SD02316F を参照してください。

- センタリングスターの材質：PEEK
- 止めリングの材質：PH15-7Mo (UNS S15700)
- 許容プロセス温度範囲：-60~+250 °C (-76~+482 °F)

アクセサリのオーダー番号：

71069064

i センタリングスターを外筒管に使用する場合は、外筒管の下側の排出口よりも下に取り付けてください。これは、プローブ長の選択時に考慮する必要があります。一般的に、センタリングスターをプローブ先端よりも 50 mm (1.97") 以上高い位置に取り付けしないでください。ロッドプローブの測定範囲内には、PEEK センタリングスターを使用しないでください。

i PEEK センタリングスターを機器と一緒に注文することもできます (Levelflex の製品構成、仕様コード 610「取付アクセサリ」、オプション OD)。この場合、保持リングではなく、六角ボルト (A4-70) とノルトロックワッシャ (1.4547) によってロッドプローブの先端に固定されます。

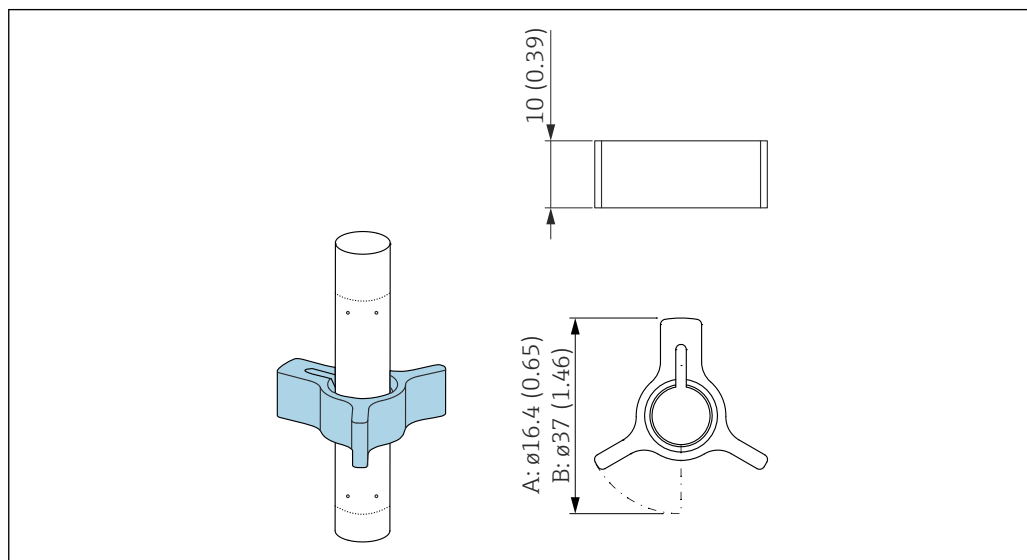
センタリングスター PFA

以下に適合：

FMP51

適用バージョン：


- $\varnothing 16.4$ mm (0.65 in)
- $\varnothing 37$ mm (1.46 in)



A プロブ 8 mm (0.3 in)

B プロブ 12 mm (0.47 in) および 16 mm (0.63 in)


センタリングスターは、直径が 8 mm (0.3 in)、12 mm (0.47 in) および 16 mm (0.63 in) のロッド型プローブ（コーティングされたロッドプローブなど）に適合し、呼び口径 40～50 mm のパイプで使用できます。

 詳細については、取扱説明書 (BA00378F) を参照してください。

- 材質：PFA
- 許容プロセス温度範囲：-200～+250 °C (-328～+482 °F)

アクセサリのオーダー番号：

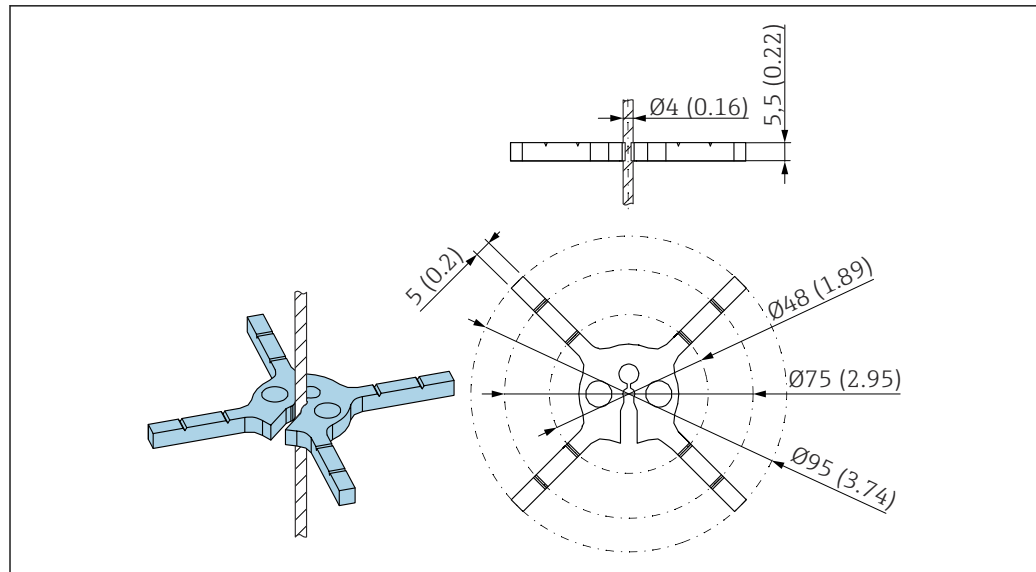
- プロブ 8 mm (0.3 in)
71162453
- プロブ 12 mm (0.47 in)
71157270
- プロブ 16 mm (0.63 in)
71069065

 PFA センタリングスターを機器と一緒に注文することもできます (Levelflex の製品構成、仕様コード 610 「取付アクセサリ」、オプション OE)。

センタリングスター PEEK、 $\varnothing 48\sim 95$ mm (1.9～3.7 in)


以下に適合：

FMP51



A0035182

センタリングスターは、直径が4 mm (1/8 in) のロープ型プローブ (コーティングされたローププローブなど) に適合します。

 詳細については、SD01961F を参照してください。

- 材質 : PEEK
- 許容プロセス温度範囲 : -60~+250 °C (-76~+482 °F)

アクセサリのオーダー番号 :

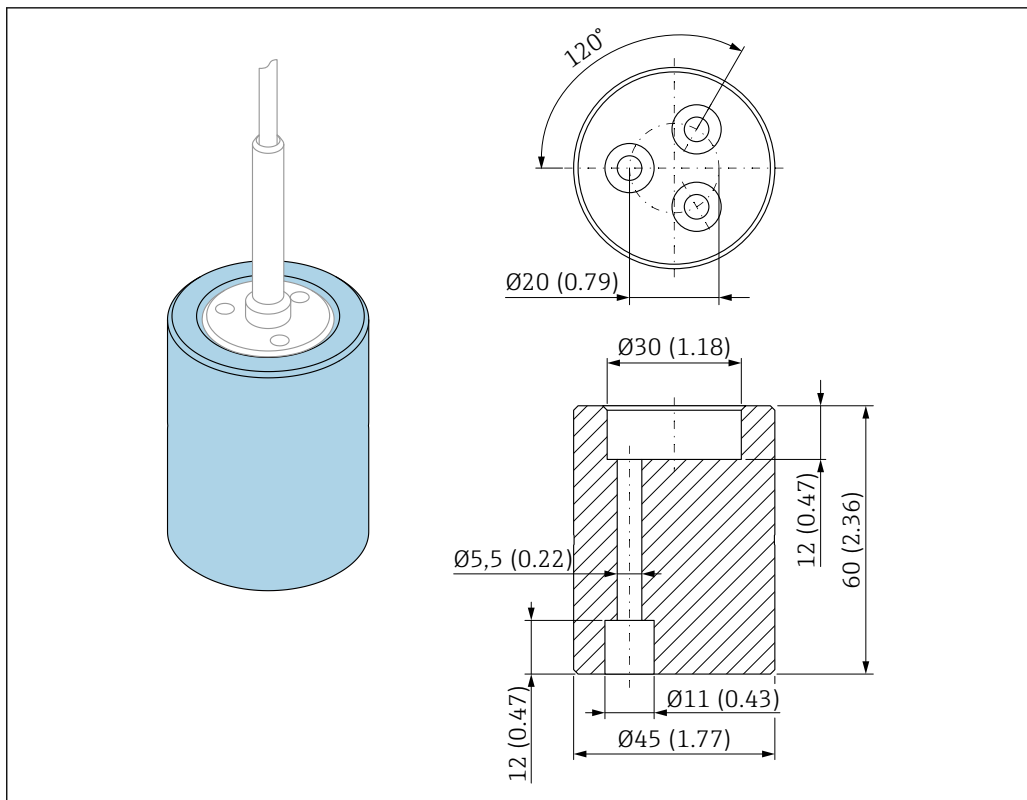
- 71373490 (1x)
- 71373492 (5x)

14.1.5 センタリングウェイト

センタリングウェイト SUS 316L 相当、DN50/2" パイプ用

以下に適合 :

- FMP51
-



A0038923

センタリングウェイトは、直径が 4 mm (1/8 in) のロープ型プローブに適合し、呼び口径 50 mm (2") のパイプで使用できます。

センタリングウェイトは、機器と同時に (製品構成 Levelflex)、またはプロセス接続のないプローブとして (製品構成 XPF0005-) として、仕様コード 610 「取付アクセサリ」、バージョン **OK** (パイプ DN50/2" の場合) を使用して注文できます。

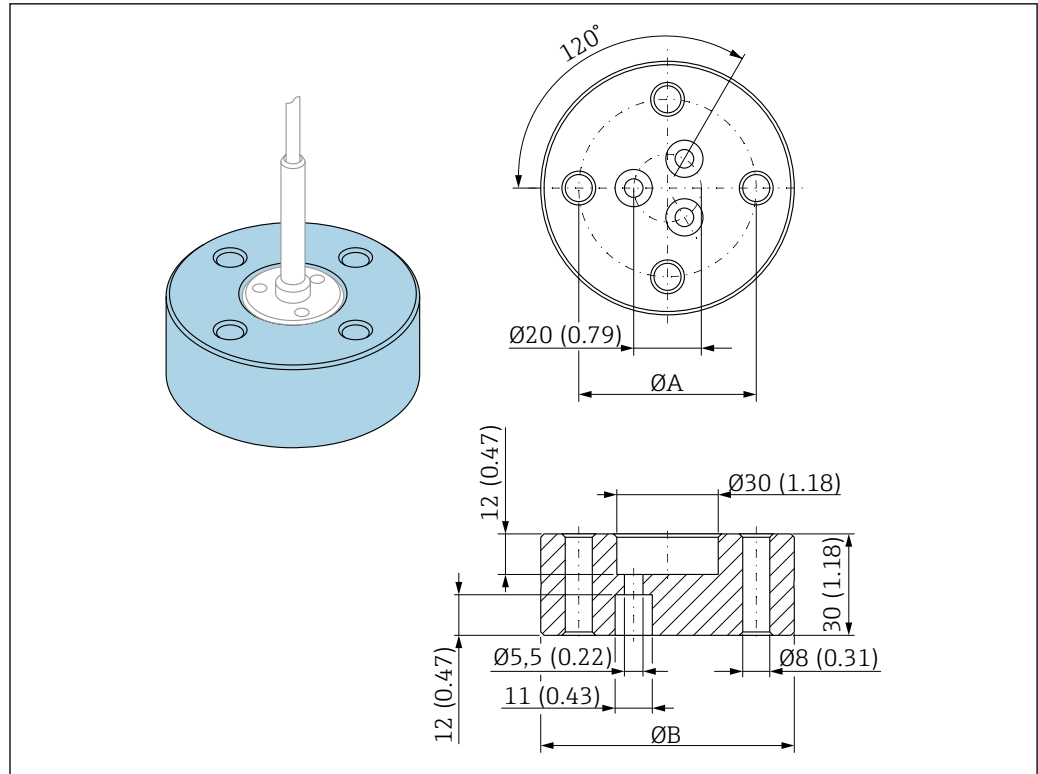
センタリングウェイト SUS 316L 相当、DN80/3" 以上のパイプ用

以下に適合：

- FMP51
-

適用バージョン：

- Ø75 mm (2.95 in)
- Ø95 mm (3.7 in)



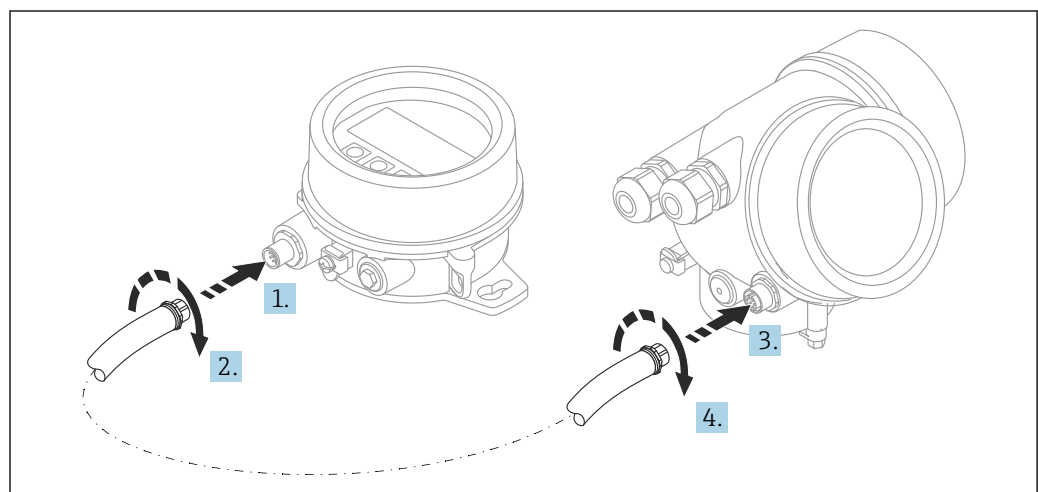
A0038924

- ØA = 52.5 mm (2.07 in) : 呼び口径 80 mm (3") パイプ用
 = 62.5 mm (2.47 in) : 呼び口径 100 mm (4") パイプ用
- ØB = 75 mm (2.95 in) : 呼び口径 80 mm (3") パイプ用
 = 95 mm (3.7 in) : 呼び口径 100 mm (4") パイプ用

センタリングウェイトは、直径が 4 mm (1/8 in) のロープ型プローブに適合し、呼び口径 80 mm (3") または 100 mm (4") のパイプで使用できます。

センタリングウェイトは、機器と同時に (製品構成 Levelflex)、またはプロセス接続のないプローブとして (製品構成 XPF0005-) として、仕様コード 610 「取付アクセサリ」、バージョン **OL** (パイプ DN80/3" の場合) または **OM** (パイプ DN100/4" の場合) を使用して注文できます。

14.1.6 リモートディスプレイ FHX50



A0019128

技術データ

- 材質：
 - プラスチック PBT
 - SUS 316L 相当/1.4404
 - アルミニウム
 - 保護等級：IP68 / NEMA 6P および IP66 / NEMA 4x
 - 表示モジュールに適合：
 - SD02 (プッシュボタン)
 - SD03 (タッチコントロール)
 - 接続ケーブル：
 - 機器の付属ケーブル、最大 30 m (98 ft)
 - ユーザー側で用意する標準ケーブル、最大 60 m (196 ft)
 - 周囲温度：-40～80 °C (-40～176 °F)
 - 周囲温度 (オプション)：-50～80 °C (-58～176 °F)
- 注記** 温度が恒久的に -40 °C (-40 °F) 以下になる場合、故障率が高まる可能性があります。

注文情報

- リモートディスプレイを使用する場合は、機器バージョン「ディスプレイ FHX50 用」を注文する必要があります。
FHX50 を注文する場合は、「計測機器バージョン」で「ディスプレイ FHX50 用」オプションを選択する必要があります。
- 「ディスプレイ FHX50 用」バージョンで注文しなかった計測機器に FHX50 を後付けする場合は、FHX50 の注文時に「計測機器バージョン」は「ディスプレイ FHX50 以外」を選択してください。この場合、機器の改造キットが FHX50 と一緒に納入されます。このキットにより、FHX50 が使用できるように機器を準備することが可能です。

i 認定を取得した変換器の場合、FHX50 の使用が制限される場合があります。機器に FHX50 を後付けできるのは、機器の安全上の注意事項 (XA) の基本仕様、「表示部/操作部」にオプション「FHX50 用」が記載されている場合だけです。

FHX50 の安全上の注意事項 (XA) も参照してください。

以下の変換器には後付けできません。

- 可燃性粉塵のある領域で使用するための認定機器 (粉塵防爆認定)
- Ex nA 保護タイプ

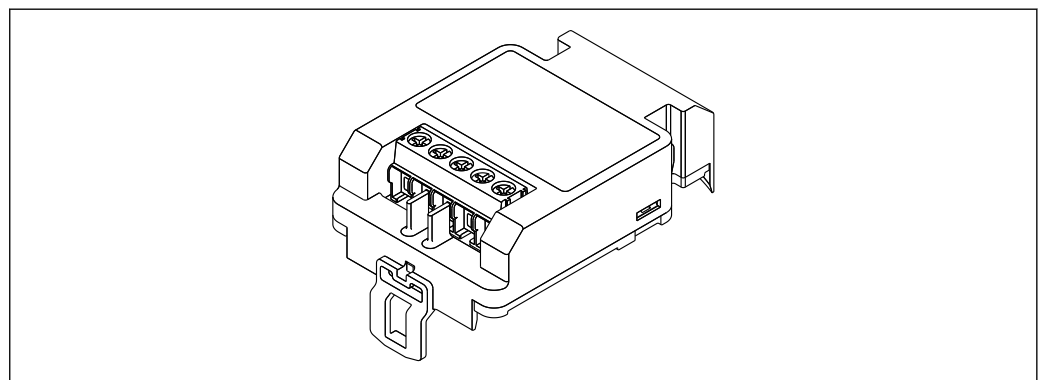
📖 詳細については、個別説明書 (SD01007F) を参照してください。

14.1.7 過電圧保護

ループ電源機器用のサージアレスタは、製品注文コードの「取付け済みアクセサリ」セクションを使用して機器と一緒に注文できます。

サージアレスタは、ループ電源機器に使用できます。

- 1 チャンネル機器 - OVP10
- 2 チャンネル機器 - OVP20



A0021734

技術データ

- 1チャンネル当たりの抵抗： $2 \times 0.5 \Omega_{\max}$
- DC 電圧しきい値：400～700 V
- サージ電圧しきい値：< 800 V
- 1 MHz の静電容量：< 1.5 pF
- 公称漏れ電流（8/20 μ s）：10 kA
- 導体断面積に適合：0.2～2.5 mm² (24～14 AWG)

後付けの場合：

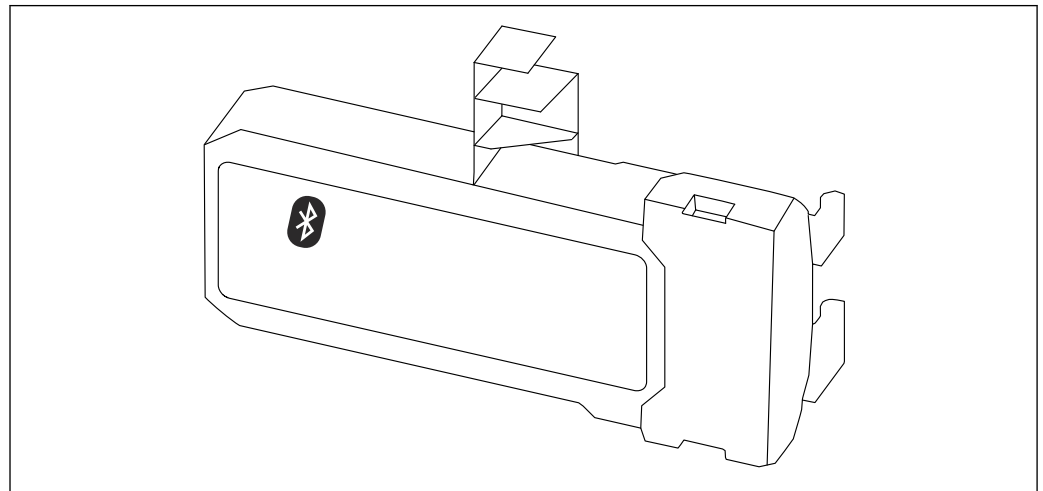
- 1チャンネル機器（OVP10）のオーダー番号：71128617
- 2チャンネル機器（OVP20）のオーダー番号：71128619
- 変換器の認定に応じて、OVP モジュールの使用が制限される場合があります。関連する安全上の注意事項（XA）のオプション仕様に、オプション NA（過電圧保護）と記載されている機器にのみ OVP モジュールを後付けできます。
- サージアRESTAモジュールの使用時に必要な安全距離を保つには、機器に後付けした際にハウジングカバーも交換する必要があります。
以下のオーダー番号を使用して、ハウジングタイプに応じた適切なカバーを注文できます。
 - ハウジング GT18：71185516
 - ハウジング GT19：71185518
 - ハウジング GT20：71185517



詳細については、個別説明書 SD01090F を参照してください。

14.1.8 HART 機器用の Bluetooth モジュール BT10

Bluetooth モジュール BT10 は、製品注文コードの「取付け済みアクセサリ」セクションを使用して機器と一緒に注文できます。




A0036493

技術データ

- SmartBlue アプリによる迅速かつ容易な設定
- 追加のツールまたはアダプタは不要
- SmartBlue（アプリ）経由の信号カーブ
- 暗号化されたシングル・ポイントツーポイント・データ伝送（Fraunhofer Institute による試験済み）および Bluetooth® ワイヤレス技術を利用した、パスワード保護された通信
- 基準条件下の範囲：
 - > 10 m (33 ft)
- Bluetooth モジュールを使用する場合は、機器の最小供給電圧が最大 3 V 上昇します。

後付けの場合：

- オーダー番号：71377355
- 変換器の認定に応じて、Bluetooth モジュールの使用が制限される場合があります。関連する安全上の注意事項（XA）のオプション仕様に、オプション NF（Bluetooth モジュール）と記載されている機器にのみ Bluetooth モジュールを組み込むことができます。


 詳細については、個別説明書 SD02252F を参照してください。

14.2 通信関連のアクセサリ

Commubox FXA291

CDI インターフェイス (= Endress+Hauser Common Data Interface) 付きの Endress +Hauser 製フィールド機器とコンピュータまたはノートパソコンの USB ポートを接続します。


オーダー番号：51516983

 詳細については、「技術仕様書」 TI00405C を参照してください。

14.3 サービス関連のアクセサリ

DeviceCare SFE100


HART、PROFIBUS、FOUNDATION フィールドバス機器の設定ツール

 技術仕様書 TI01134S

FieldCare SFE500

FDT ベースのプラントアセットマネジメントツール

システム内にあるすべての高性能フィールド機器を設定し、その管理をサポートすることが可能です。ステータス情報を使用することにより、ステータスと状態を簡単かつ効果的にチェックすることができます。


 技術仕様書 TI00028S

14.4 システムコンポーネント

14.4.1 Memograph M RSG45

高機能データマネージャは、プロセス値を処理するための柔軟で強力なシステムです。

Memograph M は、電気信号の受信、表示、記録、分析、伝送、アナログ/デジタル入力信号および計算値の保存のために使用します。

 技術仕様書 TI01180R および取扱説明書 BA01338R

15 操作メニュー

15.1 操作メニューの概要（表示モジュール）

ナビゲーション  操作メニュー

Language	
設定	→ 103
デバイスのタグ	→ 103
動作モード	→ 103
距離の単位	→ 104
タンクタイプ	→ 104
パイプ直径	→ 104
タンクレベル	→ 110
上部接続までの距離	→ 111
DC 値	→ 111
測定物グループ	→ 105
空校正	→ 105
満量校正	→ 106
レベル	→ 107
界面	→ 112
距離	→ 108
界面距離	→ 113
信号品質	→ 109
▶ マッピング	→ 116
距離の確定	→ 116
マッピングの最終点	→ 116

マップ記録	→ 116
距離	→ 116
▶ 高度な設定	→ 117
ロック状態	→ 117
アクセスステータス表示	→ 118
アクセスコード入力	→ 118
▶ レベル	→ 119
測定物タイプ	→ 119
測定物特性	→ 119
プロセス特性	→ 120
高度なプロセス条件	→ 121
レベル単位	→ 122
不感知距離	→ 122
レベル補正	→ 123
▶ 界面	→ 124
プロセス特性	→ 124
下層測定物の DC	→ 124
レベル単位	→ 125
不感知距離	→ 125
レベル補正	→ 126
▶ DC の自動計算	→ 129
上層部の厚さ手動入力	→ 129
DC 値	→ 129
DC の計算値を使用	→ 129

▶ リニアライゼーション	→ 131
リニアライゼーションの方式	→ 133
リニアライゼーション後の単位	→ 134
フリーテキスト	→ 135
最大値	→ 136
直径	→ 137
中間高さ	→ 137
テーブルモード	→ 137
▶ テーブルの編集	
レベル	
ユーザー様の値	
テーブルを有効にする	→ 139
▶ 安全設定	→ 141
出力エコー信号消失	→ 141
エコー信号消失時の値	→ 141
エコー信号消失時急上昇	→ 142
不感知距離	→ 122
▶ プローブ設定	→ 144
プローブ接地	→ 144
▶ プローブ長の補正	→ 146
プローブ長の確認	→ 146
実際のプローブ長	→ 144
▶ スイッチ出力	→ 148
スイッチ出力機能	→ 148
ステータスの割り当て	→ 149

リミットの割り当て	→ 149
診断動作の割り当て	→ 149
スイッチオンの値	→ 150
スイッチオンの遅延	→ 151
スイッチオフの値	→ 151
スイッチオフの遅延	→ 152
フェールセーフモード	→ 152
スイッチの状態	→ 152
出力信号の反転	→ 152
▶ 表示	→ 154
Language	→ 154
表示形式	→ 154
1~4 の値表示	→ 156
小数点桁数 1~4	→ 156
表示間隔	→ 157
表示のダンピング	→ 157
ヘッダー	→ 157
ヘッダーテキスト	→ 158
区切り記号	→ 158
数値形式	→ 158
小数点桁数メニュー	→ 158
バックライト	→ 159
表示のコントラスト	→ 159
▶ 設定バックアップの表示	→ 160
稼動時間	→ 160

最後のバックアップ	→ 160
設定管理	→ 160
比較の結果	→ 161
▶ 管理	→ 163
▶ アクセスコード設定	→ 165
アクセスコード設定	→ 165
アクセスコードの確認	→ 165
機器リセット	→ 163
🔍 診断	→ 165
現在の診断結果	→ 165
前回の診断結果	→ 166
再起動からの稼働時間	→ 166
稼働時間	→ 160
▶ 診断リスト	→ 168
診断 1~5	→ 168
▶ イベントログブック	→ 169
フィルタオプション	
▶ イベントリスト	→ 169
▶ 機器情報	→ 170
デバイスのタグ	→ 170
シリアル番号	→ 170
ファームウェアのバージョン	→ 170
機器名	→ 170
オーダーコード	→ 171
拡張オーダーコード 1~3	→ 171

機器リビジョン	→ 171
機器 ID	→ 171
機器タイプ	→ 172
製造者 ID	→ 172
▶ 測定値	→ 173
距離	→ 108
リニアライゼーションされたレベル	→ 136
界面距離	→ 113
リニアライゼーションされた界面	→ 136
上層部の厚さ	→ 175
端子電圧 1	→ 175
▶ データのログ	→ 176
チャンネル 1~4 の割り当て	→ 176
ロギングの時間間隔	→ 177
すべてのログをリセット	→ 177
▶ チャンネル 1~4 表示	→ 178
▶ シミュレーション	→ 180
測定値の割り当て	→ 181
測定値	→ 181
シミュレーションスイッチ出力	→ 181
スイッチの状態	→ 182
機器アラームのシミュレーション	→ 182
▶ 機器チェック	→ 183
機器チェック開始	→ 183
機器チェックの結果	→ 183

前回のチェック時刻	→ 183
レベル信号	→ 184
開始信号	→ 184
界面信号	→ 184

15.2 操作メニューの概要（操作ツール）

ナビゲーション  操作メニュー

設定	→  103
デバイスのタグ	→  103
動作モード	→  103
距離の単位	→  104
タンクタイプ	→  104
パイプ直径	→  104
測定物グループ	→  105
空校正	→  105
満量校正	→  106
レベル	→  107
距離	→  108
信号品質	→  109
タンクレベル	→  110
上部接続までの距離	→  111
DC 値	→  111
界面	→  112
界面距離	→  113
距離の確定	→  113
現在のマッピング	→  114
マッピングの最終点	→  114
マップ記録	→  115
▶ 高度な設定	→  117
ロック状態	→  117

アクセスステータス ツール	→ 117
アクセスコード入力	→ 118
▶ レベル	→ 119
測定物タイプ	→ 119
測定物特性	→ 119
プロセス特性	→ 120
高度なプロセス条件	→ 121
レベル単位	→ 122
不感知距離	→ 122
レベル補正	→ 123
▶ 界面	→ 124
プロセス特性	→ 124
下層測定物の DC	→ 124
レベル単位	→ 125
不感知距離	→ 125
レベル補正	→ 126
上層部の厚さ手動入力	→ 126
測定された上層部厚さ	→ 127
DC 値	→ 127
DC の計算値	→ 127
DC の計算値を使用	→ 128
▶ リニアライゼーション	→ 131
リニアライゼーションの方式	→ 133
リニアライゼーション後の単位	→ 134
フリーテキスト	→ 135

リニアライゼーションされたレベル	→ 136
リニアライゼーションされた界面	→ 136
最大値	→ 136
直径	→ 137
中間高さ	→ 137
テーブルモード	→ 137
テーブル番号	→ 138
レベル	→ 139
レベル	→ 139
ユーザー様の値	→ 139
テーブルを有効にする	→ 139
▶ 安全設定	→ 141
出力エコー信号消失	→ 141
エコー信号消失時の値	→ 141
エコー信号消失時急上昇	→ 142
不感知距離	→ 122
▶ プローブ設定	→ 144
プローブ接地	→ 144
実際のプローブ長	→ 144
プローブ長の確認	→ 145
▶ スイッチ出力	→ 148
スイッチ出力機能	→ 148
ステータスの割り当て	→ 149
リミットの割り当て	→ 149
診断動作の割り当て	→ 149

スイッチオンの値	→ 150
スイッチオンの遅延	→ 151
スイッチオフの値	→ 151
スイッチオフの遅延	→ 152
フェールセーフモード	→ 152
スイッチの状態	→ 152
出力信号の反転	→ 152
▶ 表示	→ 154
Language	→ 154
表示形式	→ 154
1~4 の値表示	→ 156
小数点桁数 1~4	→ 156
表示間隔	→ 157
表示のダンピング	→ 157
ヘッダー	→ 157
ヘッダーテキスト	→ 158
区切り記号	→ 158
数値形式	→ 158
小数点桁数メニュー	→ 158
バックライト	→ 159
表示のコントラスト	→ 159
▶ 設定バックアップの表示	→ 160
稼動時間	→ 160
最後のバックアップ	→ 160
設定管理	→ 160

バックアップのステータス	→ 161
比較の結果	→ 161
▶ 管理	→ 163
アクセスコード設定	
機器リセット	→ 163
🔍 診断	→ 165
現在の診断結果	→ 165
タイムスタンプ	→ 166
前回の診断結果	→ 166
タイムスタンプ	→ 166
再起動からの稼動時間	→ 166
稼動時間	→ 160
▶ 診断リスト	→ 168
診断 1~5	→ 168
タイムスタンプ 1~5	→ 168
▶ 機器情報	→ 170
デバイスのタグ	→ 170
シリアル番号	→ 170
ファームウェアのバージョン	→ 170
機器名	→ 170
オーダーコード	→ 171
拡張オーダーコード 1~3	→ 171
機器リビジョン	→ 171
機器 ID	→ 171

機器タイプ	→ 172
製造者 ID	→ 172
▶ 測定値	→ 173
距離	→ 108
リニアライゼーションされたレベル	→ 136
界面距離	→ 113
リニアライゼーションされた界面	→ 136
上層部の厚さ	→ 175
端子電圧 1	→ 175
▶ データのログ	→ 176
チャンネル 1~4 の割り当て	→ 176
ロギングの時間間隔	→ 177
すべてのログをリセット	→ 177
▶ シミュレーション	→ 180
測定値の割り当て	→ 181
測定値	→ 181
シミュレーションスイッチ出力	→ 181
スイッチの状態	→ 182
機器アラームのシミュレーション	→ 182
▶ 機器チェック	→ 183
機器チェック開始	→ 183
機器チェックの結果	→ 183
前回のチェック時刻	→ 183
レベル信号	→ 184

開始信号	→ ⓘ 184
界面信号	→ ⓘ 184
▶ Heartbeat	

15.3 「設定」メニュー

- ⓘ: 表示モジュールおよび操作モジュールを使用してパラメータに移動する方法を示します。
- ⓘ: 操作ツール（FieldCare など）を使用してパラメータに移動する方法を示します。
- ⓘ: アクセスコードを使用してロックできるパラメータを示します。

ナビゲーション ⓘ ⓘ 設定

デバイスのタグ ⓘ

ナビゲーション	ⓘ ⓘ 設定 → デバイスのタグ
説明	プラント内で迅速に機器を識別するために、測定点における固有の名前を入力して下さい。
ユーザー入力	数字、英字、特殊文字からなる文字列（32）

動作モード ⓘ

ナビゲーション	ⓘ ⓘ 設定 → 動作モード
必須条件	機器が「界面測定」アプリケーションパッケージ（FMP51、FMP52、FMP54 に対応）を備えていること ¹⁾ 。
説明	操作モードを選択します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ レベル ■ 静電容量による界面[*] ■ 界面[*]
工場出荷時設定	FMP51/FMP52/FMP54 : レベル

1) 製品構成：仕様コード 540「アプリケーションパッケージ」、オプション EB「界面測定」

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

距離の単位



ナビゲーション	☰☰ 設定 → 距離の単位	
説明	基本校正（空校正/満量校正）に使用	
選択	SI 単位	US 単位
	▪ mm	▪ ft
	▪ m	▪ in

タンクタイプ



ナビゲーション	☰☰ 設定 → タンクタイプ
必須条件	測定物タイプ (→ ☰ 119) = 液体 に設定します。
説明	タンクタイプを選択します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 金属 ▪ 外筒管 ▪ 非金属 ▪ 外部取り付け ▪ コアキシャル
工場出荷時設定	プローブに応じて異なります。
追加情報	<ul style="list-style-type: none"> ▪ プローブに応じて異なります。前述のオプションの一部を使用できない場合や、追加オプションが用意されている場合があります。 ▪ コアキシャルプローブおよびまたは金属製センタリングディスクを持つプローブでは、タンクタイプ パラメータはプローブの種類に対応し、変更することができません。

パイプ直径



ナビゲーション	☰☰ 設定 → パイプ直径
必須条件	タンクタイプ (→ ☰ 104) = 外筒管
説明	外筒管または内筒管の直径を設定します。
ユーザー入力	0~9.999 m

測定物グループ



ナビゲーション

設定 → 測定物グループ

必須条件

- FMP51/FMP52/FMP54/FMP55 の場合：動作モード (→ 103) = レベル
- 測定物タイプ (→ 119) = 液体 に設定します。

説明

測定物グループを選択します。

選択

- その他
- 水ベース (DC >= 4)

追加情報

このパラメータには、測定物の大まかな比誘電率 (DC 値) を指定します。DC をより詳細に定義するには、**測定物特性** パラメータ (→ 119) を使用します。

測定物グループ パラメータの**測定物特性** パラメータ (→ 119) の工場設定は、次のとおりです。

測定物グループ	測定物特性 (→ 119)
その他	不明
水ベース (DC >= 4)	DC 4 ... 7

測定物特性 パラメータは、後から変更できます。しかし、その場合、**測定物グループ** パラメータの値は保たれます。**測定物特性** パラメータのみが信号評価に関係します。

比誘電率が小さい場合、測定範囲が減少することがあります。詳細については、各機器の技術仕様書 (TI) を参照してください。

空校正



ナビゲーション

設定 → 空校正

説明

プロセス接続から最小レベル (0%) までの距離

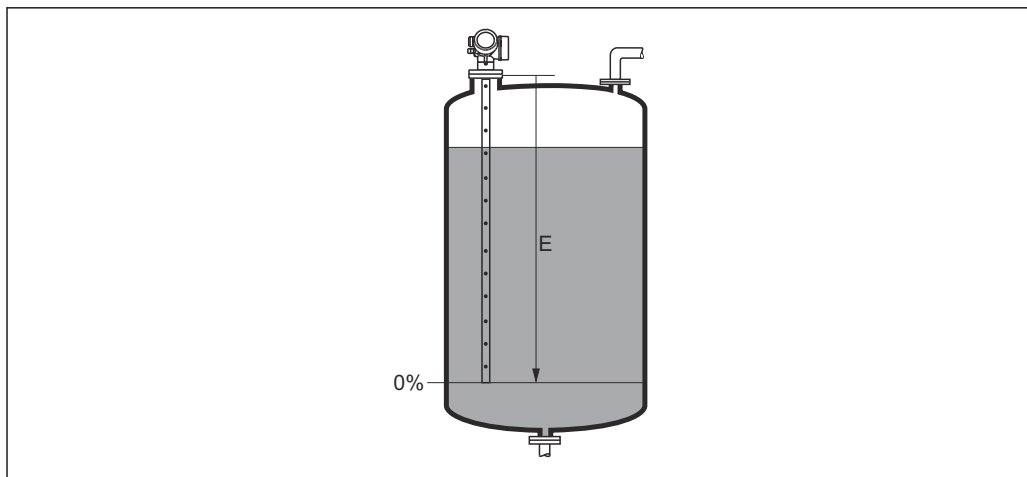
ユーザー入力

プローブに応じて異なります。

工場出荷時設定

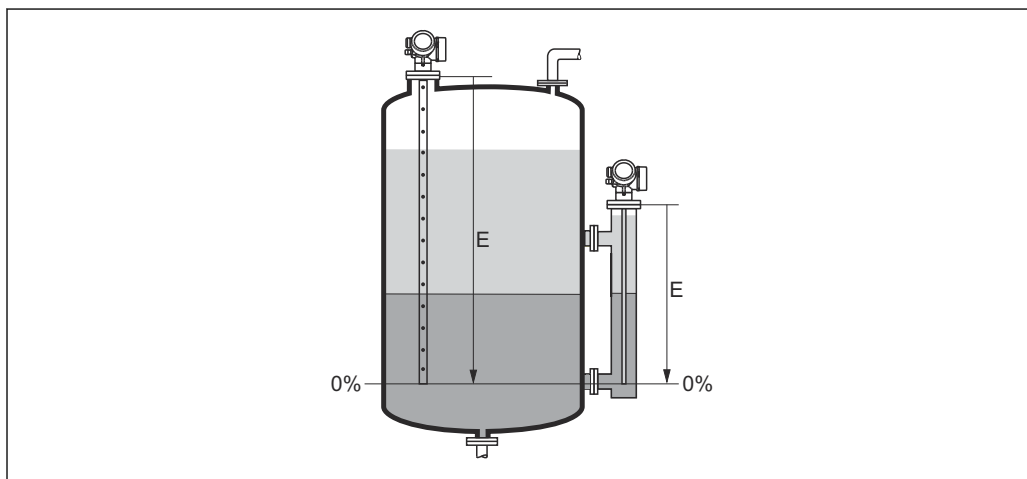
プローブに応じて異なります。

追加情報



A0013178

図 30 液体レベル測定用の空校正 (E)



A0013177

図 31 界面測定用の空校正 (E)

i 界面測定の場合、**空校正** パラメータは合計レベルと界面レベルの両方に有効です。

満量校正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 満量校正

説明

最小値 (0%) から最大値 (100%) までの距離

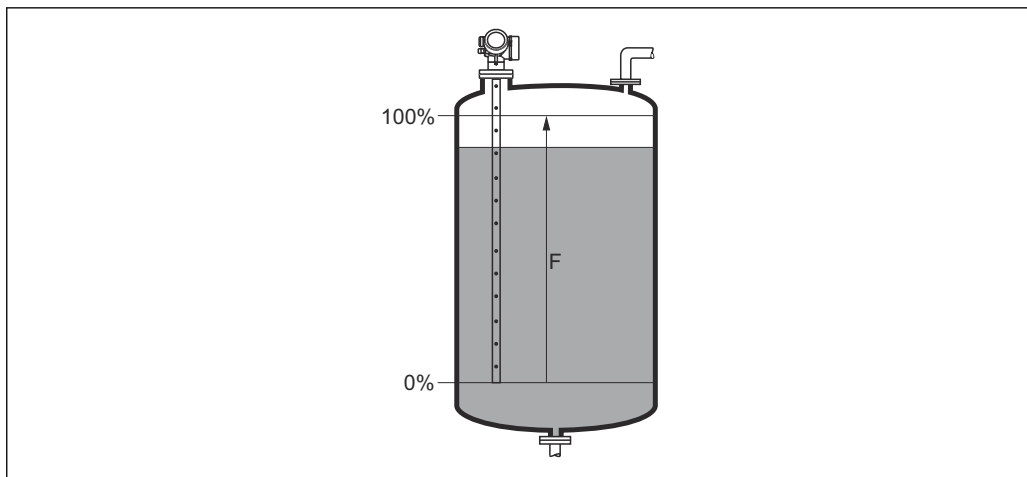
ユーザー入力

プローブに応じて異なります。

工場出荷時設定

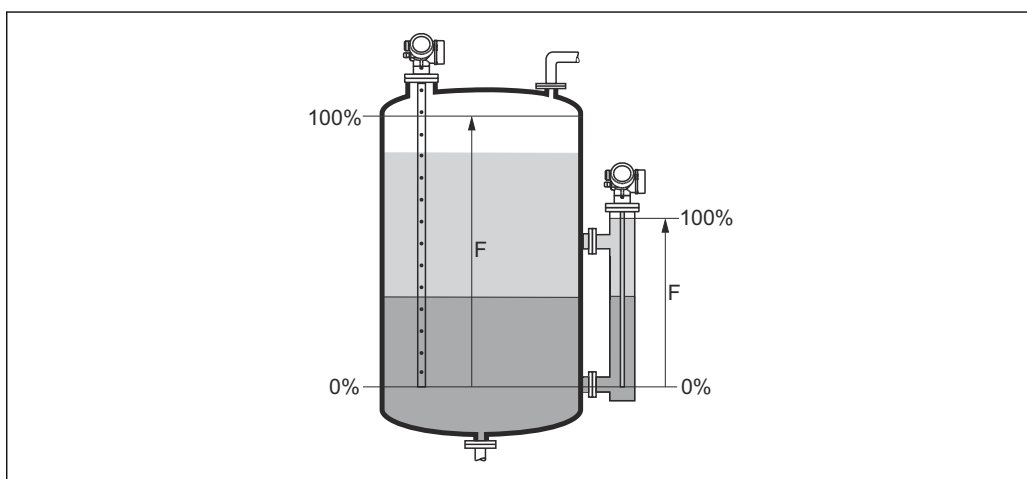
プローブに応じて異なります。

追加情報



A0013186

図 32 液体レベル測定用の満量校正 (F)



A0013188

図 33 界面測定用の満量校正 (F)

i 界面測定の場合、**満量校正** パラメータは合計レベルと界面レベルの両方に有効です。

レベル

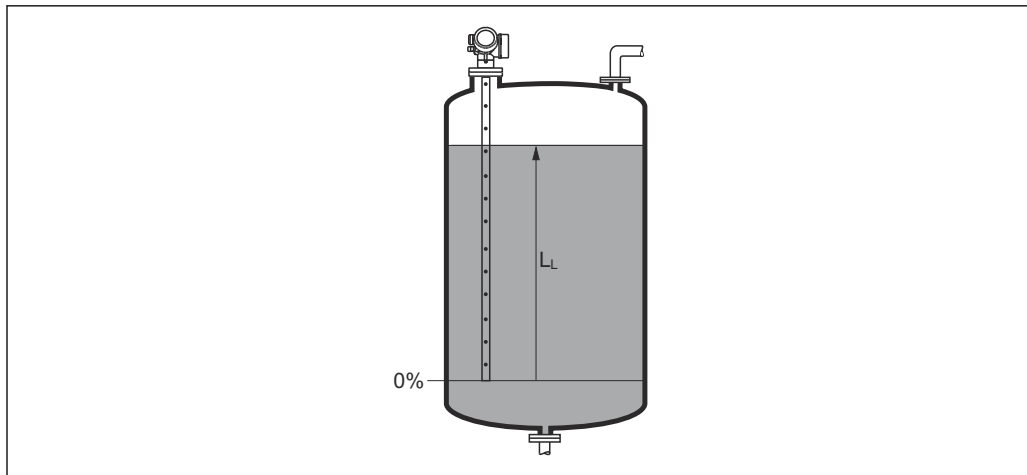
ナビゲーション

☰☰ 設定 → レベル

説明

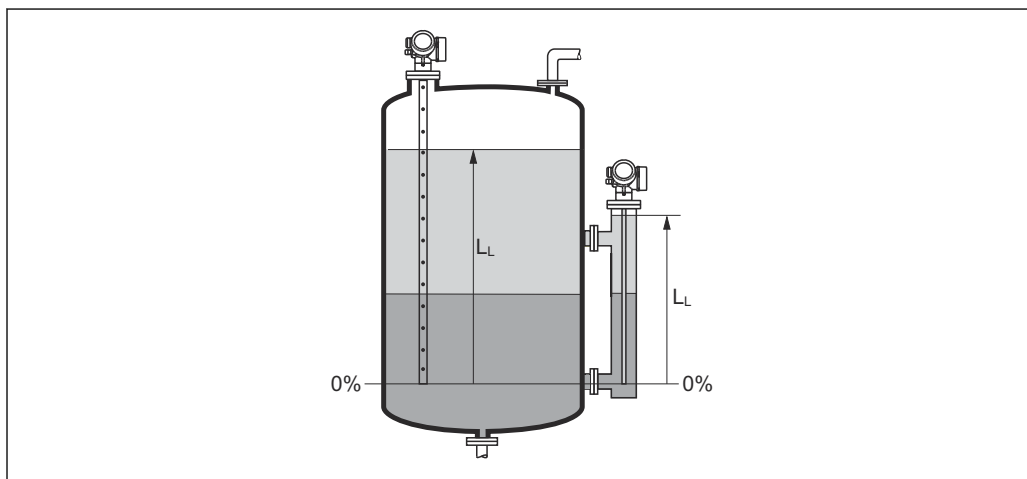
測定レベル L_L (リニアライゼーションの前) を表示します。

追加情報



A0013194

図 34 液体計測時のレベル



A0013195

図 35 界面測定時のレベル

- 単位は、**レベル単位** パラメータ (→ 122) で設定します。
- 界面測定の場合、このパラメータは常に全体レベルに関連付けられます。

距離

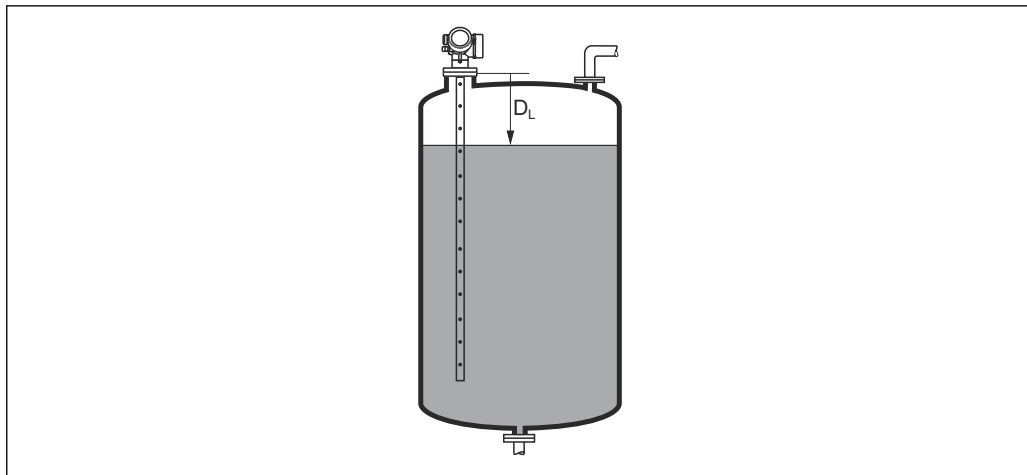
ナビゲーション

設定 → 距離

説明

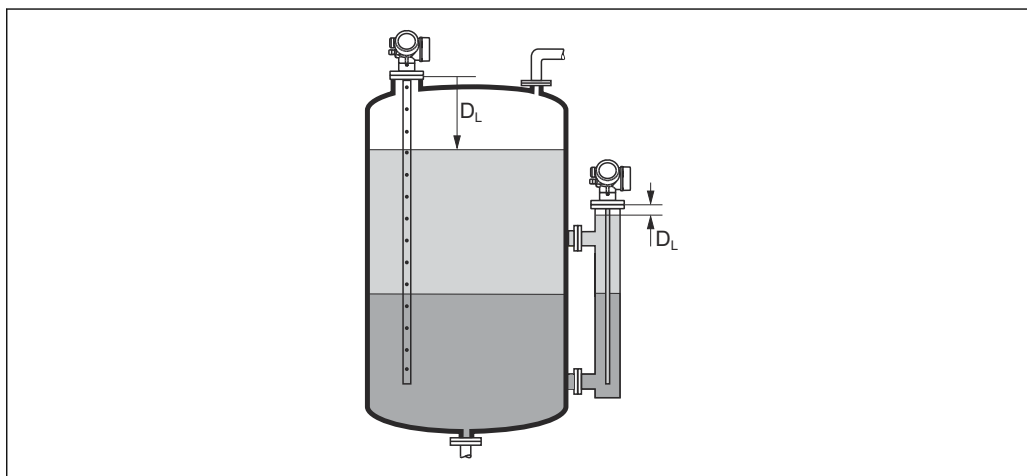
測定基準点（フランジまたはネジ込み接続の下端）からレベルまでの測定距離 D_L を表示します。

追加情報



A0013198

36 液体計測の距離



A0013199

37 界面測定距離

i 単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 104) で設定します。

信号品質

ナビゲーション

設定 → 信号品質

説明

評価されたエコーの信号品質を表示します。

追加情報

表示選択の説明

- **強い**
評価されたエコーが、しきい値を 10 mV 以上超えています。
- **測定物**
評価されたエコーが、しきい値を 5 mV 以上超えています。
- **弱い**
評価されたエコーが、しきい値を 5 mV 未満超えています。
- **信号なし**
機器は有効なエコーを検出していません。

このパラメータで示される信号品質は、常に現在評価されているエコー、つまりレベル/界面エコー²⁾、またはプローブ終端エコーのどちらかに対応します。この2つを区別するために、プローブ終端エコーは必ずカッコ内に表示されます。

i 反射がない場合 (信号品質 = 信号なし)、機器は以下のエラーメッセージを生成します。

- F941 : 出力エコー信号消失 (→ 141) = アラームの場合
- S941 : 出力エコー信号消失 (→ 141) で別のオプションが選択されている場合

タンクレベル



ナビゲーション

☰☰ 設定 → タンクレベル

必須条件

動作モード (→ 103) = 界面

説明

タンクまたは外筒管が満量であるかどうかを設定します。

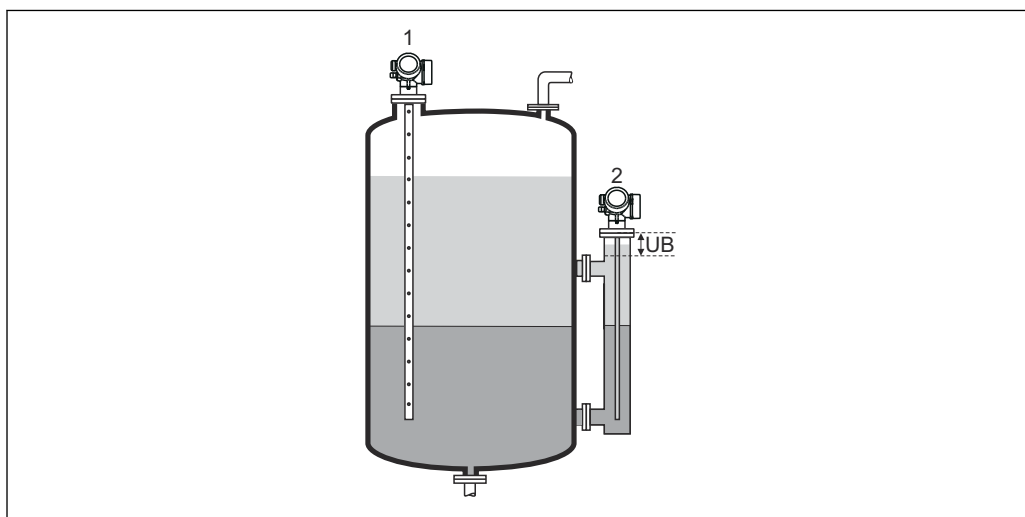
選択

- 一部充填
- 満量

追加情報

選択項目の説明

- 一部充填
機器は2つのエコー信号 (1つは界面用、もう1つは全体レベル用) を探索します。
- 満量
機器は界面レベル用のみを探索します。この設定の場合、誤って評価されないよう、上限レベル信号が必ず上部不感知距離 (UB) の範囲内にあることが重要です。






A0013173

- 1 一部充填
2 満量
UB 上部不感知距離

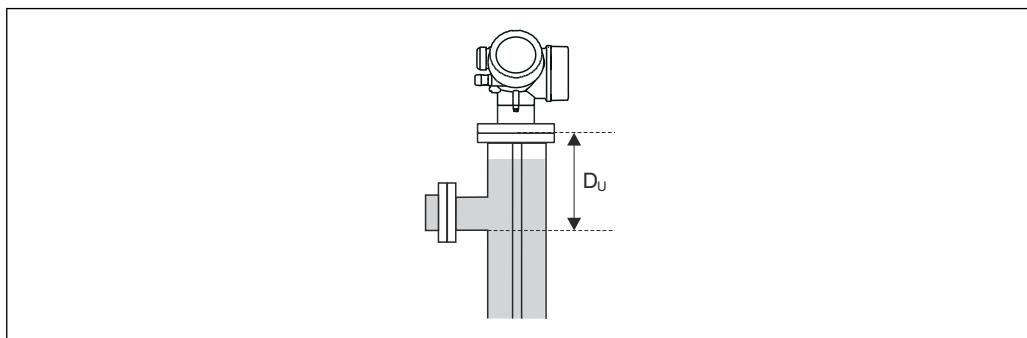
2) 2つのうち品質が低い方

上部接続までの距離





ナビゲーション	 設定 → 上部接続までの距離
必須条件	機器が「界面測定」アプリケーションパッケージを備えていること ³⁾ 。
説明	上部接続までの距離 (D_U) を設定します。
ユーザー入力	0~200 m
工場出荷時設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ タンクレベル (→  110) = 一部充填 : 0 mm (0 in) ■ タンクレベル (→  110) = 満量 : 250 mm (9.8 in)

追加情報




A0013174

次のように、「タンクレベル」パラメータに応じて異なります。

- タンクレベル (→  110) = 一部充填 :
この場合、上部接続までの距離パラメータは測定に影響を与えません。したがって、初期設定を変更する必要はありません。
- タンクレベル (→  110) = 満量 :
この場合、測定基準点と上部接続の下端との距離 D_U を入力します。

DC 値

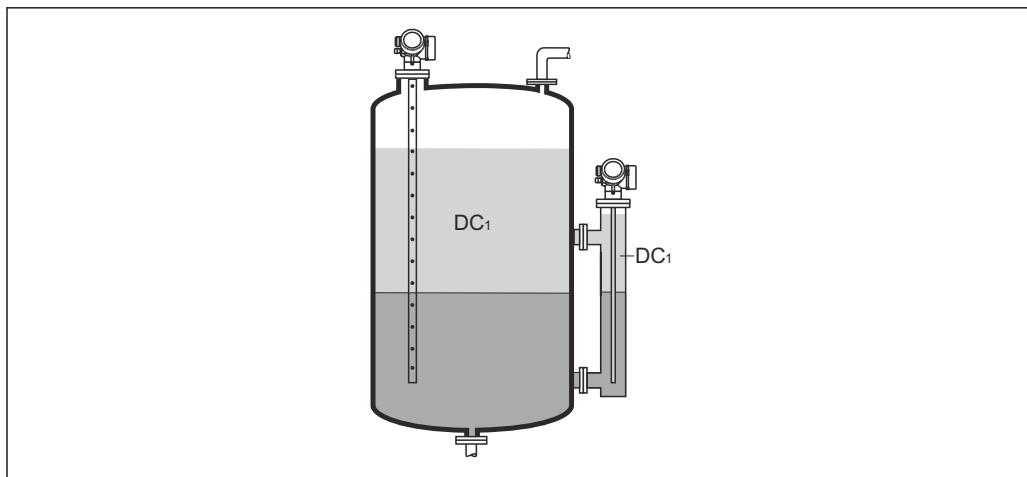


ナビゲーション	 設定 → DC 値
必須条件	機器が「界面測定」アプリケーションパッケージを備えていること ⁴⁾ 。
説明	上部測定物の比誘電率 (ϵ_r) を設定します (DC_1)。
ユーザー入力	1.0~100

3) 製品構成 : 仕様コード 540 「アプリケーションパッケージ」、オプション EB 「界面測定」

4) 製品構成 : 仕様コード 540 「アプリケーションパッケージ」、オプション EB 「界面測定」

追加情報



A0013181

DC1 上部測定物の比誘電率

- i** 産業で一般的に使用される多数の測定物の比誘電率値 (ϵ_r 値) については、以下を参照してください。
- カタログ「比誘電率 (ϵ_r 値) 一覧」(CP01076F)
 - Endress+Hauser「DC Values (DC 値) アプリ」(Android および iOS で使用可能)

界面

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 界面

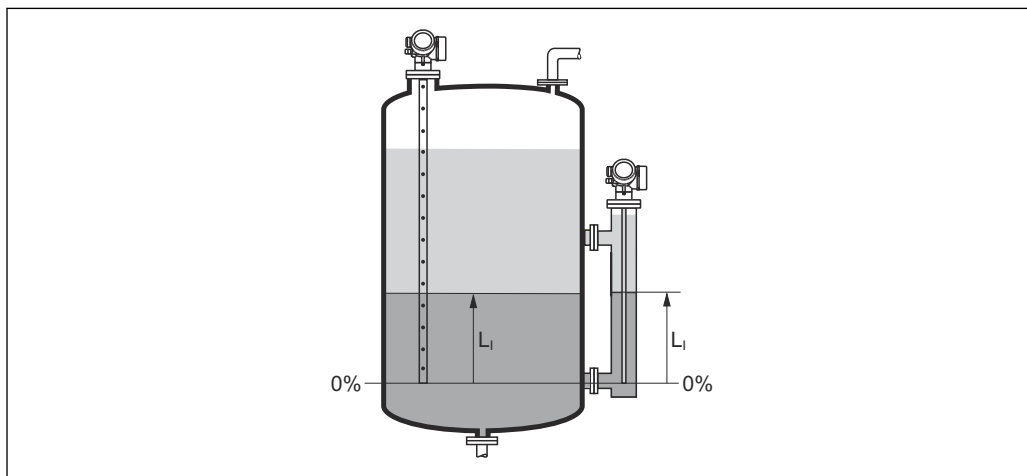
必須条件

動作モード (→ ☰ 103) = 界面または静電容量による界面

説明

測定した界面レベル L_1 (リニアライゼーションの前) を表示します。

追加情報



A0013197

- i** 単位は、**レベル単位** パラメータ (→ ☰ 122) で設定します。

界面距離

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 界面距離

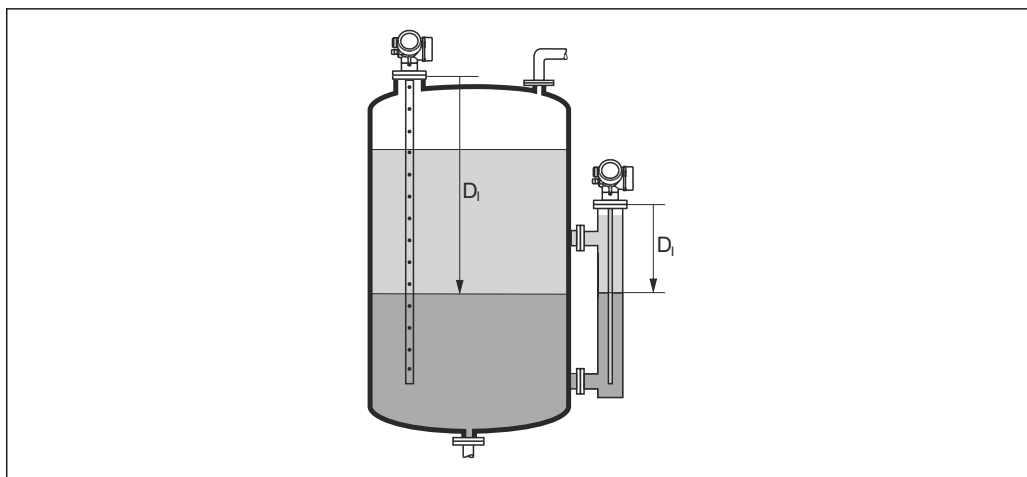
必須条件

動作モード (→ ☰ 103) = 界面または静電容量による界面

説明

測定基準点（フランジまたはネジ込み接続の下端）から界面層までの測定距離 D_1 を表示します。

追加情報



A0013202

i 単位は、**距離の単位** パラメータ (→ ☰ 104) で設定します。

距離の確定



ナビゲーション

☰ 設定 → 距離の確定

説明

測定距離が実際の距離と一致するかどうかを設定します。
 選択項目に応じて、機器は自動的にマッピングレンジを設定します。

選択

- 手動マップ
- 距離 OK
- 距離不明
- 距離が短かすぎる *
- 距離が長すぎる *
- タンク空
- マップ削除

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

追加情報

選択項目の説明

■ 手動マップ

マッピング範囲を選択することは、**マッピングの最終点** パラメータ (→ 114) を手動で定義することです。この場合、距離を確認する必要はありません。

■ 距離 OK

測定距離が実際の距離と一致している場合に選択します。機器はマッピングを実施します。

■ 距離不明

実際の距離が不明な場合に選択します。この場合、マッピングは実施できません。

■ 距離が短かすぎる

測定距離が実際の距離より短い場合に選択します。機器は次のエコーを探し、**距離の確定** パラメータに戻ります。距離の最計算が行なわれ、表示されます。表示された距離が実際の距離と一致するまで、比較を繰り返す必要があります。この後、**距離 OK** を選択するとマップの記録が開始されます。

■ 距離が長すぎる⁵⁾

測定距離が実際の距離を超過している場合に選択します。機器は信号の評価を調整し、**距離の確定** パラメータに戻ります。距離の最計算が行なわれ、表示されます。表示された距離が実際の距離と一致するまで、比較を繰り返す必要があります。この後、**距離 OK** を選択するとマップの記録が開始されます。

■ タンク空

タンクが完全に空の場合に選択します。機器は測定範囲全体をカバーするマッピングを記録します。

タンクが完全に空の場合に選択します。機器は **LN までマップのギャップ** を差し引いた測定範囲全体をカバーするマッピングを記録します。

■ 工場出荷時のマッピング

現在のマッピングカーブ (マッピングが記録されている場合) を削除する場合に選択します。機器は、**距離の確定** パラメータに戻り、新しいマッピングを記録できます。



表示モジュールを使用して操作している場合、参照用に、このパラメータと一緒に測定距離が表示されます。



界面測定の場合、距離は常に全体レベルに関連付けられます (界面レベルではない)。



距離を確認する前に、学習プロセス「**距離が短かすぎる オプション**」または「**距離が長すぎる オプション**」が終了した場合、マップは記録されず、学習プロセスは 60 秒後にリセットされます。

現在のマッピング

ナビゲーション

☰ 設定 → 現在のマッピング

説明

マッピングがすでにどの距離まで記録されているかを示します。

マッピングの最終点



ナビゲーション

☰ 設定 → マッピングの最終点

必須条件

距離の確定 (→ 113) = 手動マップ または **距離が短かすぎる**

説明


マッピングの新しい最終点を設定します。

5) 「エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード パラメータ」 = 「短期履歴」または「長期履歴」の場合にのみ使用可能

ユーザー入力 0～200 000.0 m


追加情報

新しいマッピングをどの距離まで記録するかを設定します。測定基準点(フランジの取付部分またはネジ接続の下端)からの距離を測定します。

 参照用に、**現在のマッピング** パラメータ (→ 114)がこのパラメータと一緒に表示されます。これはマッピングがすでにどの距離まで記録されているかを示します。

マップ記録

ナビゲーション

 設定 → マップ記録

必須条件

距離の確定 (→ 113) = 手動マップまたは 距離が短かすぎる

説明

マップの記録を開始します。

選択


- いいえ
- マップ記録
- マップ削除

追加情報

選択項目の説明

- いいえ
マップは記録されません。
- **マップ記録**
マップは記録されます。記録が完了すると、新しい測定距離と新しいマッピングレンジがディスプレイに表示されます。現場表示器で操作している場合にこれらの値を確認するには、 を押します。
- **マップ削除**
マッピング (マッピングが記録されている場合) を削除し、機器は再計算した測定距離とマッピングレンジを表示します。現場表示器で操作している場合にこれらの値を確認するには、 を押します。

15.3.1 「マッピング」ウィザード

i マッピングウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、マッピングに関連するすべてのパラメータは、**設定**メニュー (→ ) 103) に直接表示されます。

i マッピングウィザードでは、表示モジュールに常に2つのパラメータが同時に表示されます。上側のパラメータは編集できますが、下側のパラメータは参照用に表示されているだけであり、編集できません。


ナビゲーション  設定 → マッピング

距離の確定

ナビゲーション  設定 → マッピング → 距離の確定

説明 →  113

マッピングの最終点

ナビゲーション  設定 → マッピング → マッピングの最終点

説明 →  114

マップ記録

ナビゲーション  設定 → マッピング → マップ記録

説明 →  115

距離

ナビゲーション  設定 → マッピング → 距離



説明 →  108

15.3.2 「高度な設定」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定

ロック状態

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → ロック状態

説明

現在有効になっている最高優先度の書き込み保護を示します。



ユーザーインターフェイス

- ハードウェア書き込みロック
- SIL ロック
- CT アクティブ (設定値)
- WHG ロック
- 一時ロック

追加情報


書込保護の優先度タイプの説明

- **ハードウェア書き込みロック (優先度 1)**
メイン電子モジュールのハードウェア書き込みロック用 DIP スイッチが有効になっています。これにより、パラメータへの書き込みアクセスを防ぐことができます。
- **SIL ロック (優先度 2)**
SIL モードが有効です。関連パラメータへの書込アクセスを防止できます。
- **WHG ロック (優先度 3)**
WHG モードが有効です。関連パラメータへの書込アクセスを防止できます。
- **一時ロック (優先度 4)**
機器の内部処理 (例: データアップロード/ダウンロード、リセットなど) を実行中のため、パラメータへの書き込みアクセスが一時的にロックされます。処理が完了次第、パラメータの変更ができます。

 表示モジュールでは、書き込み保護により変更できないパラメータの前には  シンボルが表示されます。

アクセスステータス ツール



ナビゲーション



 設定 → 高度な設定 → アクセスステータス ツール

説明

操作ツールを介したパラメータへのアクセス権限を示します。


追加情報

 アクセス権を変更するには、**アクセスコード入力** パラメータ (→  118) を使用します。

 また、書き込み保護機能が有効な場合は、それによって現在のアクセス権がさらに制限されます。書込保護の状態を確認するには、**ロック状態** パラメータ (→  117) を使用します。

アクセスステータス表示

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスステータス表示





必須条件

現場表示器を使用する場合にのみ使用できます。

説明


ローカル ディスプレイを介したパラメータへのアクセス許可を示す。

追加情報

-  アクセス権を変更するには、**アクセスコード入力** パラメータ (→  118)を使用します。
-  また、書き込み保護機能が有効な場合は、それによって現在のアクセス権がさらに制限されます。書き込み保護の状態を確認するには、**ロック状態** パラメータ (→  117)を使用します。

アクセスコード入力

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスコード入力





説明

書き込みを許可するためにアクセスコードを入力。




ユーザー入力



0～9999


追加情報

- 現場操作の場合は、ユーザー固有のアクセスコードを**アクセスコード設定** パラメータ (→  163)に入力する必要があります。
 - 不正なアクセスコードが入力されると、現在のアクセス権が維持されます。
 - 書き込み保護は、本書の  シンボルが付いたすべてのパラメータに適用されます。現場表示器では、パラメータの前の  シンボルは、パラメータが書き込み保護されていることを示します。
 - 10 分間キーを押さなかった場合、またはナビゲーションモードや編集モードから測定値表示モードに移動した場合、さらに 60 秒 経過後に書き込み保護パラメータは自動的にロックされます。
-  アクセスコードを紛失した場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。



「レベル」サブメニュー

 **レベル** サブメニュー (→  119) は、**動作モード** (→  103) = **レベル** の場合にのみ表示されます。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → レベル

測定物タイプ 

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → レベル → 測定物タイプ

説明

測定物のタイプを設定します。


ユーザーインターフェイス


- 液体
- 粉体

工場出荷時設定

FMP50、FMP51、FMP52、FMP53、FMP54、FMP55 : **液体**



追加情報

粉体 オプションは、**動作モード** (→  103) = **レベル** の場合にのみ使用できます。


 このパラメータは、他の複数のパラメータの値を決定し、完全な信号評価に大きく影響します。そのため、初期設定を**変更しない**ことを強く推奨します。

測定物特性 

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → レベル → 測定物特性

必須条件

- **動作モード** (→  103) = **レベル**
- **EOP レベル評価** ≠ **固定 DC**



説明

測定物の比誘電率 ϵ_r を設定します。

選択

- 不明
- DC 1.4 ... 1.6
- DC 1.6 ... 1.9
- DC 1.9 ... 2.5
- DC 2.5 ... 4
- DC 4 ... 7
- DC 7 ... 15
- DC > 15

工場出荷時設定

測定物タイプ (→  119) および **測定物グループ** (→  105) パラメータに応じて異なります。

追加情報

「測定物タイプ」と「測定物グループ」の相関関係

測定物タイプ (→ 119)	測定物グループ (→ 105)	測定物特性
粉体		不明
液体	水ベース (DC >= 4)	DC 4 ... 7
	その他	不明

i 産業で一般的に使用される多数の測定物の比誘電率値 (ϵ_r 値) については、以下を参照してください。

- カタログ「比誘電率 (ϵ_r 値) 一覧」(CP01076F)
- Endress+Hauser「DC Values (DC 値) アプリ」(Android および iOS で使用可能)

i EOP レベル評価 = 固定 DC の場合、DC 値 パラメータ (→ 111) で正確な比誘電率を設定する必要があります。したがって、この場合は測定物特性 パラメータは適用されません。

プロセス特性



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → レベル → プロセス特性

説明

レベル変化の標準速度を設定します。

選択

「測定物タイプ」 = 「液体」

- 非常に高速 > 10 m (400in) /分
- 高速 > 1 m/min
- 標準速度 < 1 m/min
- 中速 < 10 cm/min
- 低速 < 1 cm/min
- フィルタなし

「測定物タイプ」 = 「粉体」

- 非常に高速 > 100m (333ft) /分
- 高速 > 10 m/h
- 標準速度 < 10 m/h
- 中速 < 1 m/h
- 低速 < 0.1 m/h
- フィルタなし

追加情報

このパラメータで設定されたレベル変化の標準速度に、機器は信号評価フィルタおよび出力信号のダンピングを調整します。

「動作モード」 = 「レベル」 および 「測定物タイプ」 = 「液体」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 10 m (400in) /分	5
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	14
中速 < 10 cm/min	39
低速 < 1 cm/min	76
フィルタなし	< 1

「動作モード」 = 「レベル」 および 「測定物タイプ」 = 「粉体」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 100m (333ft) /分	37
高速 > 10 m/h	37
標準速度 < 10 m/h	74
中速 < 1 m/h	146
低速 < 0.1 m/h	290
フィルタなし	< 1

「動作モード」 = 「界面」 または 「静電容量による界面」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 10 m (400in) /分	5
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	23
中速 < 10 cm/min	47
低速 < 1 cm/min	81
フィルタなし	2.2

高度なプロセス条件



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → 高度なプロセス条件

必須条件

動作モード (→ ☰ 103) = レベル に設定します。

説明

(必要に応じて) 追加のプロセス条件を設定します。

選択

- なし
- 油/水 凝縮液
- プロブがタンク底面付近
- 付着
- 泡の厚み 5cm 以上

追加情報




選択項目の説明

- **油/水 凝縮液 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
二相測定物の場合、全体レベルのみを確実に検出することが可能になります (例: 油/凝縮水アプリケーション)。
- **プロブがタンク底面付近 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
特にプロブをタンク底部付近に取り付けた場合、空検出の精度が向上します。
- **付着**
付着物が原因でプロブ終端信号が変化した場合でも安全な空検出を確実に行うには、**EOP 範囲上部**を増やします。
付着物が原因でプロブ終端信号が変化した場合でも安全な空検出が可能になります。
- **泡の厚み 5cm 以上 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
発泡を使用するアプリケーションで信号評価を最適化します。

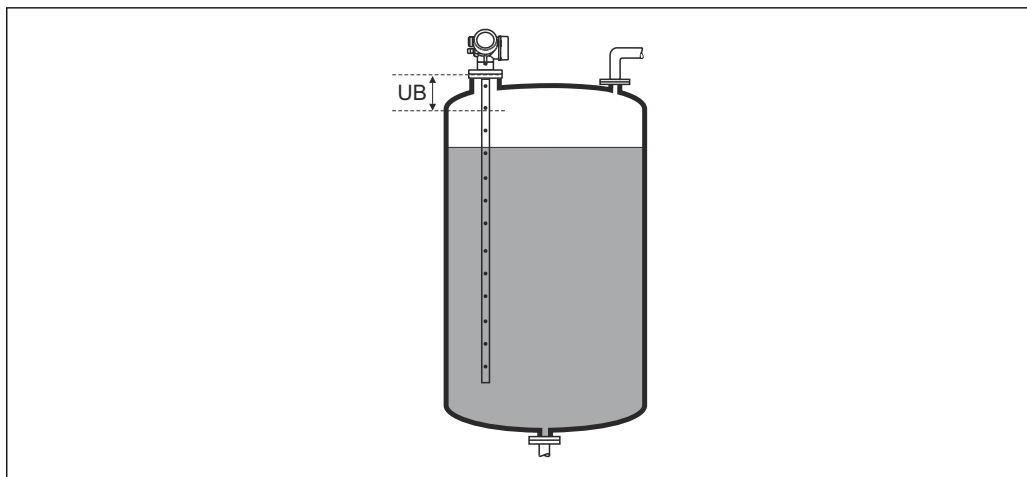
レベル単位

ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → レベル単位	
説明	レベル単位を選択します。	
選択	SI 単位 ■ % ■ m ■ mm	US 単位 ■ ft ■ in
追加情報	レベル単位は、 距離の単位 パラメータ (→ ☰ 104) で設定した距離単位とは異なる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 距離の単位 パラメータで設定した単位は、基本校正 (空校正 (→ ☰ 105) と 満量校正 (→ ☰ 106)) に使用します。 ■ レベル単位 パラメータで設定した単位は、(リニアライズされていない) レベルの表示に使用します。 	

不感知距離

ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → 不感知距離	
説明	上部不感知距離 (UB) を設定します。	
ユーザー入力	0~200 m	
工場出荷時設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ コアキシャルプローブ : 0 mm (0 in) ■ 8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローブプローブ : 200 mm (8 in) ■ 8 m (26 ft) を超えるロッドプローブ/ローブプローブ : 0.025 * プローブ長 界面測定 アプリケーションパッケージ付きの FMP51/FMP52/FMP54 ⁶⁾ および FMP55 用 : 100 mm (3.9 in) すべてのアンテナタイプ用	
追加情報	上部不感知距離の信号は、機器がオンになったときに不感知距離の範囲外にあり、操作中のレベル変更によって不感知距離内に移動した場合にのみ評価されます。機器がオンになったとき、すでに不感知距離内にあった信号は無視されます。 <p> 以下の 2 つの条件を満たしている場合のみ、この挙動が示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = 短期履歴 または 長期履歴 ■ エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード = オン、補正なし または 外部訂正 条件の 1 つを満たしていない場合、不感知距離内の信号は常に無視されます。 <p> 不感知距離内の信号に関して、別の挙動を 不感知距離評価モード パラメータ で設定することが可能です。</p> <p> 必要に応じて、不感知距離内の信号に関する別の挙動を弊社サービスが設定します。</p>	

6) 注文コード 540 「アプリケーションパッケージ」、オプション EB 「界面測定」をを注文



A0013219

図 38 液体計測の不感知距離 (UB)

レベル補正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → レベル補正

説明

(必要に応じて) レベル補正を設定します。

ユーザー入力


-200 000.0 ~ 200 000.0 %

追加情報


このパラメータで設定した値は、測定レベル (リニアライゼーションの前) に追加されます。

「界面」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 界面

プロセス特性 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 界面 → プロセス特性

説明

界面位置の変化の標準速度を設定します。


選択

- 高速 > 1 m/min
- 標準速度 < 1 m/min
- 中速 < 10 cm/min
- 低速 < 1 cm/min
- フィルタなし


追加情報

このパラメータで設定されたレベル変化の標準速度に、機器は信号評価フィルタおよび出力信号のダンピングを調整します。


プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	15
中速 < 10 cm/min	40
低速 < 1 cm/min	74
フィルタなし	2.2

下層測定物の DC 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 界面 → 下層測定物の DC

必須条件

動作モード (→  103) = 界面 または 静電容量による界面



説明

下部測定物の比誘電率 ϵ_r を設定します。

ユーザー入力

1~100

追加情報

-  産業で一般的に使用される多数の測定物の比誘電率値 (ϵ_r 値) については、以下を参照してください。
 - カタログ「比誘電率 (ϵ_r 値) 一覧」(CP01076F)
 - Endress+Hauser「DC Values (DC 値) アプリ」(Android および iOS で使用可能)
-  工場設定 $\epsilon_r = 80$ は、20 °C (68 °F) の水に対して適用されます。

レベル単位



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 界面 → レベル単位

説明

レベル単位を選択します。

選択

SI 単位	US 単位
■ %	■ ft
■ m	■ in
■ mm	

追加情報

レベル単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 104) で設定した距離単位とは異なる場合があります。

- **距離の単位** パラメータで設定した単位は、基本校正 (**空校正** (→ 105)) と **満量校正** (→ 106)) に使用します。
- **レベル単位** パラメータで設定した単位は、(リニアライズされていない) レベルおよび界面位置の表示に使用します。

不感知距離



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 界面 → 不感知距離

説明

上部不感知距離 (UB) を設定します。

ユーザー入力

0~200 m

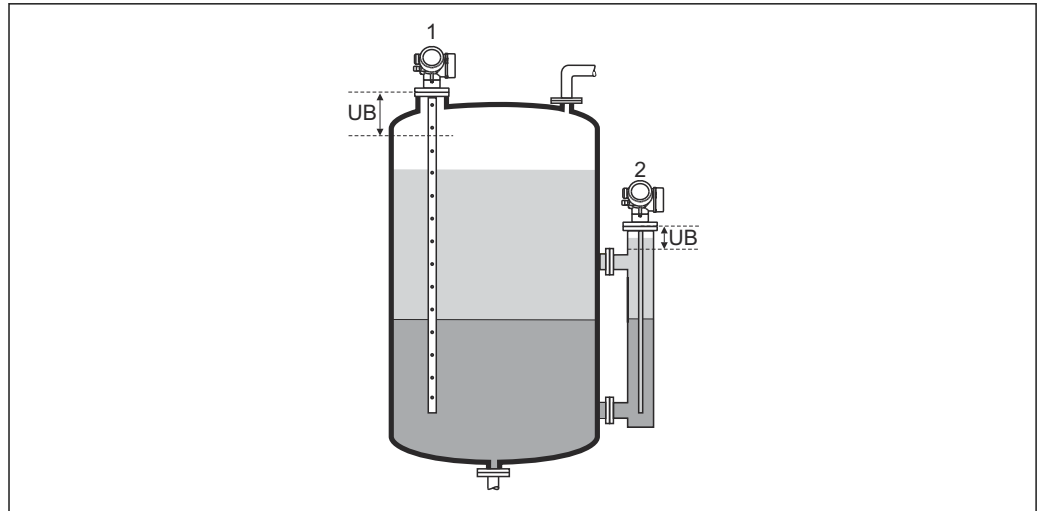
工場出荷時設定

- コアキシャルプローブ : 100 mm (3.9 in)
- 8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローブプローブ : 200 mm (8 in)
- 8 m (26 ft) を超えるロッドプローブ/ローブプローブ : 0.025 * プローブ長

追加情報

不感知距離の範囲内からのエコーは、信号評価の対象となりません。以下のために、上部不感知距離が使用されます。

- プローブ上端の不要反射を抑制するため
- 外筒管があふれた場合に全体レベルのエコーを抑制するため



A0013220

- 1 プローブ上端の不要反射の抑制
- 2 外筒管があふれた場合のレベル信号の抑制
- UB 上部不感知距離

レベル補正



ナビゲーション

☰☒ 設定 → 高度な設定 → 界面 → レベル補正

説明

(必要に応じて) レベル補正を設定します。

ユーザー入力

-200 000.0 ~ 200 000.0 %

追加情報

このパラメータで設定した値は、測定した全体レベルと界面レベル（リニアライゼーションの前）に追加されます。

上層部の厚さ手動入力



ナビゲーション

☒ 設定 → 高度な設定 → 界面 → 上層部の厚さ手動入力

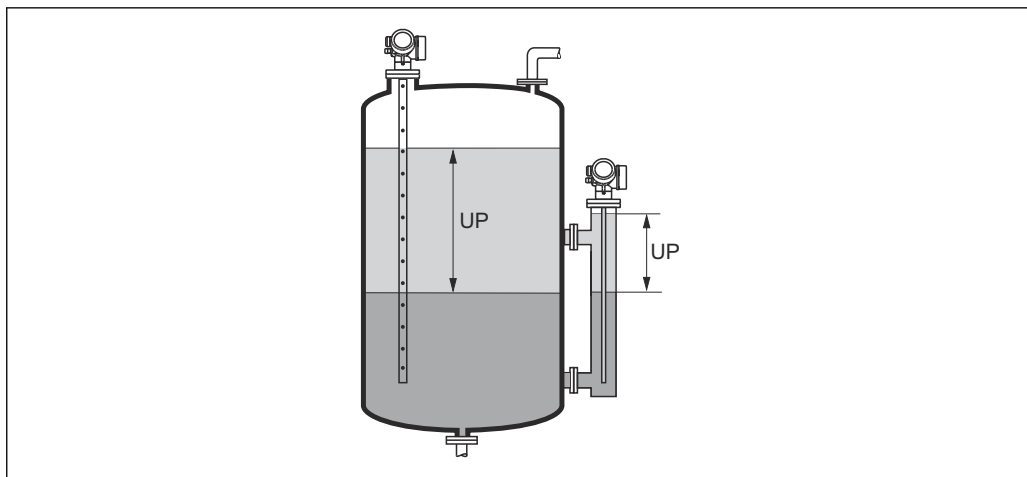
説明

手動で測定した界面の厚み UP（つまり、上部測定物の厚み）を設定します。

ユーザー入力

0 ~ 200 m

追加情報



A0013313

UP 界面の厚み（上部測定物の厚み）

i 測定した界面の厚みは、界面の厚みの手動入力と一緒に現場表示器に表示されません。この2つの値を比較することにより、機器は上部測定物の比誘電率を自動調整できます。

測定された上層部厚さ

ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 界面 → 測定された上層部厚さ

説明

測定した界面の厚みを表示します（上部測定物の厚み UP）。

DC 値

ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 界面 → DC 値

説明

補正前の上部測定物の比誘電率 (ϵ_r) を表示します (DC₁)。

DC の計算値

ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 界面 → DC の計算値

説明

上部測定物の比誘電率 ϵ_r (DC1) の計算値（補正值）を表示します。

DC の計算値を使用



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 界面 → DC の計算値を使用

説明

比誘電率の計算値を使用するかどうかを設定します。

選択

- 保存して終了
- キャンセルして終了

追加情報

選択項目の説明


- 保存して終了
計算値が正しい値と見なされます。
- キャンセルして終了
比誘電率の計算値は却下され、前の比誘電率がそのまま有効になります。

現場表示器には、**DC の計算値** パラメータ (→ 127)がこのパラメータと一緒に表示されます。

「DCの自動計算」ウィザード

i **DCの自動計算** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、DCの自動計算に関連するパラメータは、**界面** サブメニュー (→ 124) に直接表示されます。

i **DCの自動計算** ウィザードでは、表示モジュールに常に1つまたは2つのパラメータが同時に表示されます。上側のパラメータは編集できますが、下側のパラメータは参照用に表示されているだけであり、編集できません。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 界面 → DCの自動計算

上層部の厚さ手動入力

ナビゲーション


 設定 → 高度な設定 → 界面 → DCの自動計算 → 上層部の厚さ手動入力

説明

手動で測定した界面の厚み UP (つまり、上部測定物の厚み) を設定します。

DC 値

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 界面 → DCの自動計算 → DC 値

説明

補正前の上部測定物の比誘電率 (ϵ_r) を表示します (DC₁)。

DCの計算値を使用

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 界面 → DCの自動計算 → DCの計算値を使用

説明

比誘電率の計算値を使用するかどうかを設定します。

選択

- 保存して終了
- キャンセルして終了

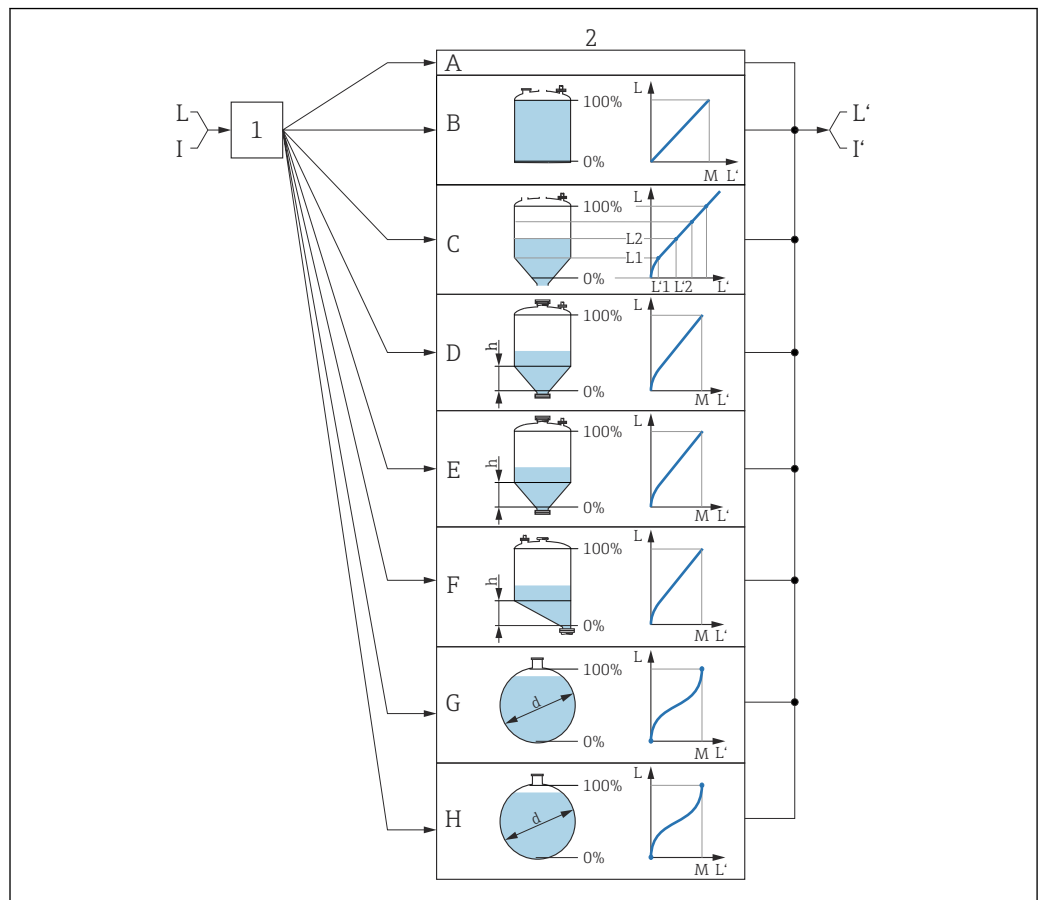
追加情報

選択項目の説明

- 保存して終了
比誘電率の計算値が使用されます。
- キャンセルして終了
比誘電率の計算値は却下され、前の比誘電率がそのまま有効になります。

i 現場表示器には、**DCの計算値** パラメータ (→ 127)がこのパラメータと一緒に表示されます。

「リニアライゼーション」サブメニュー




A0016084

図 39 リニアライゼーション：レベルから、および（該当する場合は）界面から体積または質量に変換。変換は容器の形状に依存

- 1 リニアライゼーションの方式と単位の選択
- 2 リニアライゼーションの設定
- A リニアライゼーションの方式 (→ 133) = なし
- B リニアライゼーションの方式 (→ 133) = リニア
- C リニアライゼーションの方式 (→ 133) = テーブル
- D リニアライゼーションの方式 (→ 133) = 角錐底
- E リニアライゼーションの方式 (→ 133) = 円錐底
- F リニアライゼーションの方式 (→ 133) = 傾斜底
- G リニアライゼーションの方式 (→ 133) = 水平円筒
- H リニアライゼーションの方式 (→ 133) = 球形
- I 「動作モード (→ 103)」 = 「界面」または「静電容量による界面」の場合：リニアライゼーション前の界面（レベル単位での測定）
- I' 「動作モード (→ 103)」 = 「界面」または「静電容量による界面」の場合：リニアライゼーション後の界面（容量または質量に対応）
- L リニアライゼーション前のレベル（レベル単位で測定）
- L' リニアライゼーションされたレベル (→ 136)（容量または質量に対応）
- M 最大値 (→ 136)
- d 直径 (→ 137)
- h 中間高さ (→ 137)

現場表示器のサブメニューの構成

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

▶ リニアライゼーション

リニアライゼーションの方式

リニアライゼーション後の単位

フリーテキスト

最大値

直径

中間高さ

テーブルモード


▶ テーブルの編集

レベル

ユーザー様の値


テーブルを有効にする

操作ツール（例：FieldCare）のサブメニューの構成

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

▶ リニアライゼーション
リニアライゼーションの方式
リニアライゼーション後の単位
フリーテキスト
リニアライゼーションされたレベル
リニアライゼーションされた界面
最大値
直径
中間高さ
テーブルモード
テーブル番号
レベル
レベル
ユーザー様の値
テーブルを有効にする


パラメータの説明

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

リニアライゼーションの方式



ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライゼーション方式

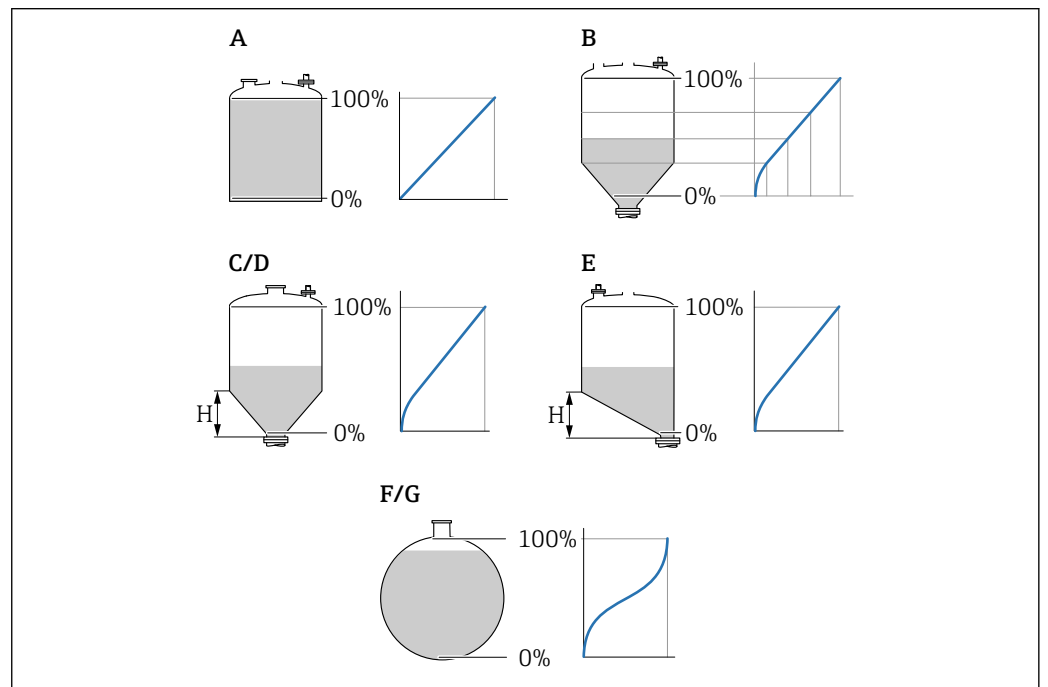
説明

リニアライゼーション方式を選択します。


選択

- なし
- リニア
- テーブル
- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底
- 水平円筒
- 球形

追加情報



A0021476

 40 リニアライゼーション方式

- A なし
- B テーブル
- C 角錐底
- D 円錐底
- E 傾斜底
- F 球形
- G 水平円筒

選択項目の説明

- なし

レベルは、事前に変換（リニアライズ）されることなくレベル単位で出力されます。

- リニア

出力値（体積/質量）はレベルLに比例します。これは、縦型円筒形タンクやサイロなどに適用されます。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **最大値 (→ ④ 136)**：最大容量または質量

- テーブル

測定レベルLと出力値（体積/質量）の関係はリニアライゼーションテーブルによって設定されます。この表は「レベル-体積」または「レベル-質量」の最大32点の値で構成されます。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **テーブルモード (→ ④ 137)**

- テーブルの各ポイント：レベル (→ ④ 139)

- テーブルの各ポイント：ユーザー様の値 (→ ④ 139)

- **テーブルを有効にする (→ ④ 139)**

- 角錐底

出力値は角錐底型サイロ内の体積または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **最大値 (→ ④ 136)**：最大容量または質量

- **中間高さ (→ ④ 137)**：角錐部の高さ

- 円錐底

出力値は円錐底型タンク内の体積または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **最大値 (→ ④ 136)**：最大容量または質量

- **中間高さ (→ ④ 137)**：円錐部の高さ

- 傾斜底

出力値は傾斜底のサイロの容量または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **最大値 (→ ④ 136)**：最大容量または質量

- **中間高さ (→ ④ 137)**：傾斜底の高さ

- 水平円筒

出力値は枕タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **最大値 (→ ④ 136)**：最大容量または質量

- **直径 (→ ④ 137)**

- 球形

出力値は球形タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータも設定する必要があります。

- **リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 134)**

- **最大値 (→ ④ 136)**：最大容量または質量

- **直径 (→ ④ 137)**

リニアライゼーション後の単位



ナビゲーション

④④ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 線形化後の単位

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ ④ 133) ≠ なし

説明

リニアライズされた値の単位を選択します。



選択

選択/入力 (uint16)

- 1095 = [short Ton]
- 1094 = [lb]
- 1088 = [kg]
- 1092 = [Ton]
- 1048 = [US Gal.]
- 1049 = [Imp. Gal.]
- 1043 = [ft³]
- 1571 = [cm³]
- 1035 = [dm³]
- 1034 = [m³]
- 1038 = [l]
- 1041 = [hl]
- 1342 = [%]
- 1010 = [m]
- 1012 = [mm]
- 1018 = [ft]
- 1019 = [inch]
- 1351 = [l/s]
- 1352 = [l/min]
- 1353 = [l/h]
- 1347 = [m³/s]
- 1348 = [m³/min]
- 1349 = [m³/h]
- 1356 = [ft³/s]
- 1357 = [ft³/min]
- 1358 = [ft³/h]
- 1362 = [US Gal./s]
- 1363 = [US Gal./min]
- 1364 = [US Gal./h]
- 1367 = [Imp. Gal./s]
- 1358 = [Imp. Gal./min]
- 1359 = [Imp. Gal./h]
- 32815 = [ML/s]
- 32816 = [ML/min]
- 32817 = [ML/h]
- 1355 = [ML/d]

追加情報



選択した単位は表示のためだけに使用されます。選択した単位に基づく測定値の変換は行われません。

 距離/距離のリニアライゼーション、つまり、レベル単位から別の長さ単位へのリニアライゼーションも可能です。このためには、**リニア** リニアライゼーションモードを選択してください。新しいレベル単位を設定するには、**リニアライゼーション後の単位** パラメータで **Free text** オプションを選択し、**フリーテキスト** パラメータ (→  135) に単位を入力します。


フリーテキスト



ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → フリーテキスト

必須条件


リニアライゼーション後の単位 (→  134) = **Free text** に設定します。

説明


単位シンボルを入力します。

ユーザー入力 最大 32 文字 (英字、数字、特殊文字)

リニアライゼーションされたレベル


ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライズされたレベル


説明 リニアライズされたレベルを表示します。

追加情報 


- この単位はリニアライゼーション後の単位パラメータで設定します。
- 界面測定の場合、このパラメータは常に全体レベルに関連付けられます。

リニアライゼーションされた界面



ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライズされた界面


必須条件 動作モード (→  103) = 界面 または 静電容量による界面

説明 リニアライズされた界面高さを表示します。

追加情報  この単位はリニアライゼーション後の単位パラメータで設定します。

最大値

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 最大値

必須条件 リニアライゼーションの方式 (→  133) は、以下のいずれかの値を取ります。

- リニア
- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底
- 水平円筒
- 球形

説明 100%レベルに相当するリニアライゼーションされた値。

ユーザー入力 -50 000.0 ~ 50 000.0 %

直径



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 直径

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 133) は、以下のいずれかの値を取ります。

- 水平円筒
- 球形

説明

円筒タンクもしくは球形タンクの直径。

ユーザー入力

0~9999.999 m

追加情報

単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 104) で設定します。

中間高さ



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 中間高さ

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 133) は、以下のいずれかの値を取ります。

- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底

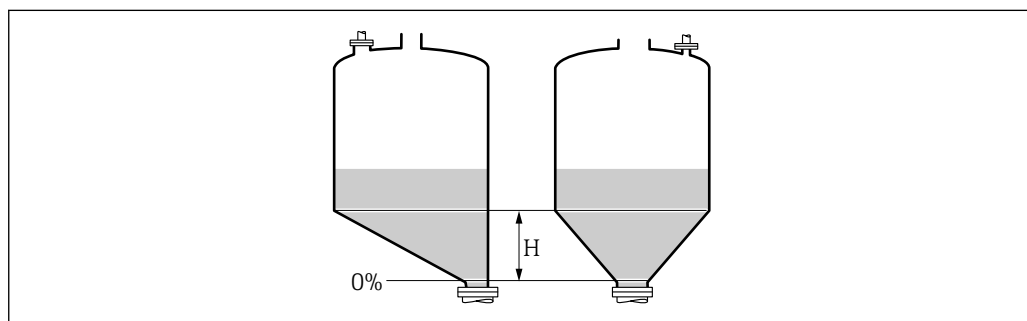
説明

角錐部、コニカル部、角度の付いた底部の高さ。

ユーザー入力

0~200 m

追加情報



A0013264

H 中間高さ

単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 104) で設定します。

テーブルモード



ナビゲーション


☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブルモード

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 133) = **テーブル** に設定します。

説明

リニアライゼーションテーブルの編集モードを選択します。

選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ 手動 ■ 半自動式 ■ テーブルをクリア ■ テーブルの並べ替え
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 手動 レベルおよび関連するリニアライズされた値が、各リニアライゼーション点に対して手動入力されます。 ■ 半自動式 各リニアライゼーション点に対して、機器がレベルを測定します。関連するリニアライズされた値は手動入力します。 ■ テーブルをクリア 既存のリニアライゼーションテーブルを削除します。 ■ テーブルの並べ替え リニアライゼーション点を昇順に並べ替えます。 <p>リニアライゼーションテーブルは以下の条件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テーブルを構成できるのは最大 32 点の値「レベル-リニアライズされた値」 ■ テーブルが単調であること（単調増加または単調減少） ■ 最初のリニアライゼーション点が最低レベルに対応すること ■ 最後のリニアライゼーション点が最高レベルに対応すること <p>i リニアライゼーションテーブルを入力する前に、空校正 (→ 105)および満量校正 (→ 106)の値を正しく設定する必要があります。</p> <p>満量校正または空校正の後でテーブルの値を変更する必要がある場合、既存テーブルを消去し、再度すべてのテーブルを入力しない限り適切な評価は保証されません。それには、まず既存テーブルを消去します (テーブルモード (→ 137) = テーブルをクリア)。その後、新しいテーブルを入力します。</p> <p>テーブルの入力方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ FieldCare 経由 テーブル番号 (→ 138)、レベル (→ 139)、およびユーザー様の値 (→ 139)パラメータを使用して、テーブルポイントを入力します。あるいは、グラフィカルテーブルエディタを使用できます (機器の操作 → 機器の機能 → 追加機能 → リニアライゼーション (オンライン/オフライン))。 ■ 現場表示器を介して テーブルの編集 サブメニューを選択して、グラフィカルテーブルエディタを呼び出します。テーブルが表示され、行単位の編集が可能になります。 <p>i レベル単位の出荷時設定は「%」です。リニアライゼーションテーブルを物理単位で入力するには、事前にレベル単位パラメータ (→ 122)で適切な単位を選択しておく必要があります。</p>
テーブル番号	
ナビゲーション	☐ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブル番号
必須条件	リニアライゼーションの方式 (→ 133) = テーブル に設定します。
説明	入力または変更するテーブルポイントを選択します。
ユーザー入力	1~32

レベル（手動）



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → レベル

必須条件

- リニアライゼーションの方式 (→ 133) = テーブル
- テーブルモード (→ 137) = 手動

説明

テーブルポイントのレベル値（リニアライゼーション前の値）を入力します。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

レベル（半自動式）

ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → レベル

必須条件

- リニアライゼーションの方式 (→ 133) = **テーブル** に設定します。
- テーブルモード (→ 137) = **半自動式** に設定します。

説明

測定レベル（リニアライゼーション前の値）を表示します。この値はテーブルに伝送されます。

ユーザー様の値



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → ユーザー様の値

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 133) = **テーブル** に設定します。

説明

テーブルポイントのリニアライズされた値を入力します。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

テーブルを有効にする



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブルを有効にする

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 133) = **テーブル** に設定します。

説明

リニアライゼーションテーブルを有効または無効にします。

選択

- 無効
- 有効

追加情報

選択項目の説明


■ 無効

測定レベルはリニアライズされません。


同時に、**リニアライゼーションの方式 (→ 133) = テーブル**の場合、機器はエラーメッセージ F435 を出力します。

■ 有効

テーブルに基づいて測定レベルはリニアライズされます。


 テーブルを編集すると、**テーブルを有効にする**パラメータが自動的に**無効**にリセットされるため、テーブルの入力後に**有効**にリセットする必要があります。

「安全設定」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 安全な設定

出力エコー信号消失

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → 出力エコー信号消失

説明



反射がない場合の出力信号。

選択

- 最後の有効値
- エコー信号消失時急上昇
- エコー信号消失時の値
- アラーム


追加情報

選択項目の説明


- **最後の有効値**
反射がない場合、最後の有効値が保持されます。
- **エコー信号消失時急上昇⁷⁾**
反射がない場合、出力値は連続して0%または100%に変わります。ランプのスロープは**エコー信号消失時急上昇**パラメータ(→  142)で指定されます。
- **エコー信号消失時の値⁷⁾**
エコーロストの場合、**エコー信号消失時の値**パラメータ(→  141)に定義された値が出力されます。
- **アラーム**
エコーロストの場合、アラームが発報されます。**フェールセーフモード**パラメータを参照してください。

エコー信号消失時の値

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → エコー信号消失時の値

必須条件

出力エコー信号消失(→  141) = **エコー信号消失時の値** に設定します。



説明


反射がない場合の出力値。

ユーザー入力

0~200000.0%

追加情報

- 測定値出力用に設定した単位を使用します。
- リニアライゼーションなし：**レベル単位**(→  122)
 - リニアライゼーションあり：**リニアライゼーション後の単位**(→  134)

7) "リニアライゼーションの方式(→  133)"="なし"の場合にのみ視認できます。

エコー信号消失時急上昇



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → エコー消失時急上昇

必須条件

出力エコー信号消失 (→ 141) = エコー信号消失時急上昇 に設定します。

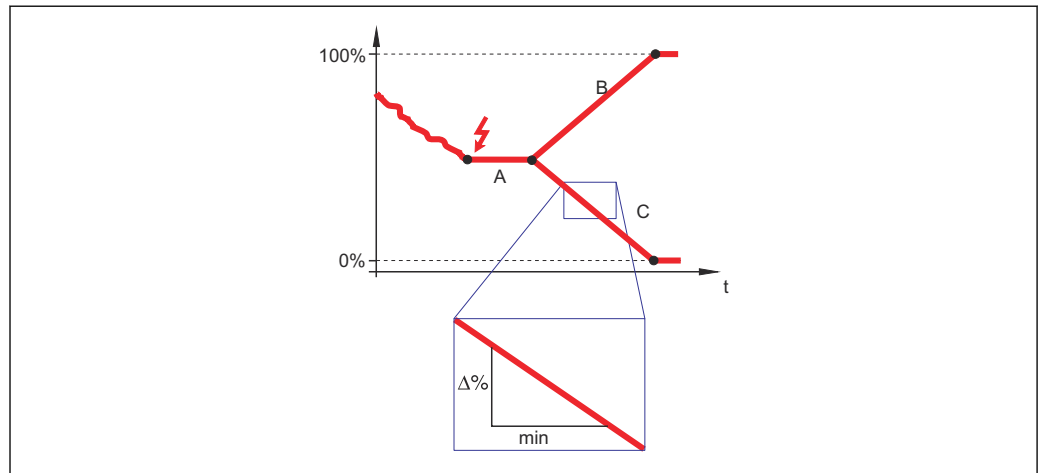
説明

反射がない場合の傾斜の勾配。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

追加情報



A0013269

- A エコーロスト時遅延時間
 B エコー信号消失時急上昇 (→ 142) (正の値)
 C エコー信号消失時急上昇 (→ 142) (負の値)

- 傾斜の勾配の単位は、「1分あたりの測定範囲のパーセント」(%/min) です。
- 負の傾斜の勾配の場合：測定値は 0% に達するまで継続的に減少します。
- 正の傾斜の勾配の場合：測定値は 100% に達するまで継続的に増加します。

不感知距離



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 安全な設定 → 不感知距離

説明

上部不感知距離 (UB) を設定します。

ユーザー入力

0~200 m

工場出荷時設定

- コアキシャルプローブ : 0 mm (0 in)
- 8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローブプローブ : 200 mm (8 in)
- 8 m (26 ft) を超えるロッドプローブ/ローブプローブ : 0.025 * プローブ長

界面測定アプリケーションパッケージ付きの FMP51/FMP52/FMP54⁸⁾ および FMP55
 用 :

100 mm (3.9 in) すべてのアンテナタイプ用

8) 注文コード 540 「アプリケーションパッケージ」、オプション EB 「界面測定」 をを注文

追加情報

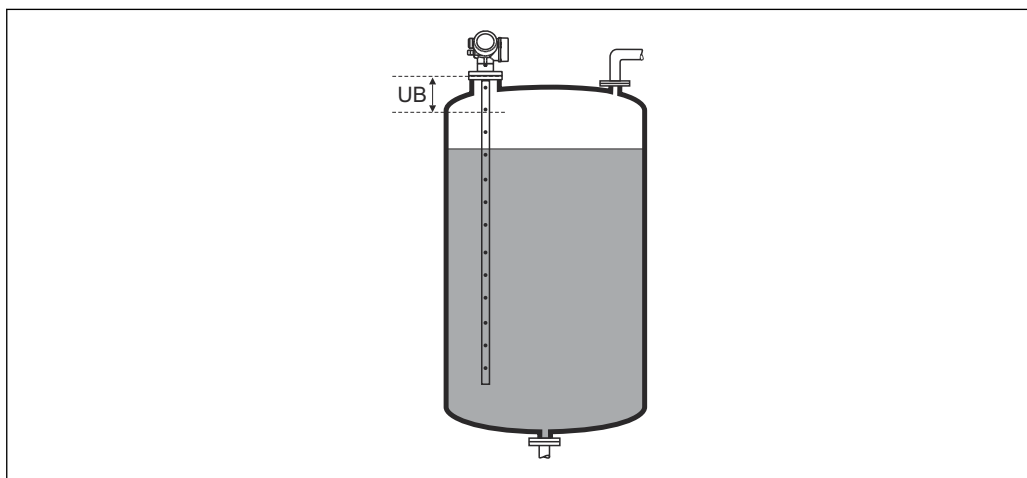
上部不感知距離の信号は、機器がオンになったときに不感知距離の範囲外にあり、操作中のレベル変更によって不感知距離内に移動した場合にのみ評価されます。機器がオンになったとき、すでに不感知距離内にあった信号は無視されます。

- i** 以下の2つの条件を満たしている場合のみ、この挙動が示されます。
- エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = **短期履歴** または **長期履歴**
 - エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード = **オン**、**補正なし** または **外部訂正**

条件の1つを満たしていない場合、不感知距離内の信号は常に無視されます。

- i** 不感知距離内の信号に関して、別の挙動を **不感知距離評価モード** パラメータ で設定することが可能です。

- i** 必要に応じて、不感知距離内の信号に関する別の挙動を弊社サービスが設定します。



A0013219

41 液体計測の不感知距離 (UB)


「プローブ設定」サブメニュー

プローブ設定 サブメニューは、機器が反射波形内のプローブ終端信号を正確に割り当てるのに役立ちます。機器に表示されるプローブ長が実際のプローブ長と一致する場合に、割り当ては正しくなります。自動プローブ長補正は、プローブが容器内に取り付けられ、プローブ全体が完全に露出している（測定物なし）場合にのみ実施できます。容器の一部が充填されている場合、およびプローブ長が既知の場合に値を手動で入力するには、**プローブ長の確認 (→ 145) = 手動入力**を選択します。

i プローブの切断後にマッピングが記録された場合、自動プローブ長補正を実行できなくなります。その場合は、以下の2つの方法があります。

- **マップ記録** パラメータ (→ 115)を使用してマッピングカーブを削除すると、プローブ長補正を実行できるようになります。プローブ長補正が完了したら、**マップ記録** パラメータ (→ 115)を使用して新しいマッピングカーブを記録できます。
- **プローブ長の確認 (→ 145) = 手動入力**を選択し、**実際のプローブ長** パラメータにプローブ長を手動で入力します。

i **プローブ接地** パラメータ (→ 144)で正しい項目が選択されていないと、自動プローブ長補正を実行することはできません。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → プローブ設定

プローブ接地

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ接地

必須条件

動作モード (→ 103) = レベル

説明


プローブが接地されているかどうかを設定します。

選択

- いいえ
- はい

実際のプローブ長

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → 実際のプローブ長

説明

- ほとんどの場合：
現在測定されているプローブ終端信号に応じてプローブ長を表示します。
- **プローブ長の確認 (→ 145) = 手動入力**：
実際のプローブ長を入力します。

ユーザー入力

0~200 m

プローブ長の確認



ナビゲーション

☰ 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の確認

説明

実際のプローブ長 パラメータに表示される値が実際のプローブ長と一致しているかどうかを指定します。この入力に基づいて、プローブ長補正が実施されます。

選択

- プローブ長 OK
- プローブ長が短すぎる
- プローブ長が長すぎる
- 埋まっているプローブ
- 手動入力
- プローブ長不明

追加情報

選択項目の説明

■ プローブ長 OK

正しいプローブ長が表示された場合は、これを選択します。補正は必要ありません。機器はシーケンスを終了します。

■ プローブ長が短すぎる

表示された長さが実際のプローブ長より短い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。

■ プローブ長が長すぎる

表示された長さが実際のプローブ長より長い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。

■ 埋まっているプローブ

プローブが覆われている（一部または完全に）場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。

■ 手動入力

自動プローブ長補正を実施しない場合は、これを選択します。代わりに、実際のプローブ長を**実際のプローブ長**パラメータに手動で入力する必要があります。⁹⁾


■ プローブ長不明


実際のプローブ長が不明な場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。

9) FieldCare から操作している場合は、**手動入力** オプションを選択する必要はなく、いつでもプローブ長を手動で編集できます。


「プローブ長の補正」ウィザード

i **プローブ長の補正** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、プローブ長の補正に関連するパラメータは、**プローブ設定** サブメニュー (→ 144) に直接表示されます。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正

プローブ長の確認 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → プローブ長の確認

説明

実際のプローブ長 パラメータに表示される値が実際のプローブ長と一致しているかどうかを指定します。この入力に基づいて、プローブ長補正が実施されます。

選択

- プローブ長 OK
- プローブ長が短すぎる
- プローブ長が長すぎる
- 埋まっているプローブ
- 手動入力
- プローブ長不明

追加情報

選択項目の説明

- **プローブ長 OK**
正しいプローブ長が表示された場合は、これを選択します。補正は必要ありません。機器はシーケンスを終了します。
- **プローブ長が短すぎる**
表示された長さが実際のプローブ長より短い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。
- **プローブ長が長すぎる**
表示された長さが実際のプローブ長より長い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが**実際のプローブ長**パラメータに表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。
- **埋まっているプローブ**
プローブが覆われている (一部または完全に) 場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。
- **手動入力**
自動プローブ長補正を実施しない場合は、これを選択します。代わりに、実際のプローブ長を**実際のプローブ長**パラメータに手動で入力する必要があります。¹⁰⁾
- **プローブ長不明**
実際のプローブ長が不明な場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行うことができません。

10) FieldCare から操作している場合は、**手動入力** オプションを選択する必要はなく、いつでもプローブ長を手動で編集できます。

実際のプローブ長

**ナビゲーション**

設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → 実際のプローブ長



説明



- ほとんどの場合：
現在測定されているプローブ終端信号に応じてプローブ長を表示します。
- **プローブ長の確認 (→ 145) = 手動入力：**
実際のプローブ長を入力します。

ユーザー入力

0～200 m



「スイッチ出力」サブメニュー

 The **スイッチ出力** サブメニュー (→  148)は、スイッチ出力付き機器でのみ使用できます。¹¹⁾

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → スイッチ出力

スイッチ出力機能

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチ出力機能

説明

スイッチ出力の機能を定義します。

「オフ」

スイッチ出力は常にオープン（非導通）となります。

「オン」

スイッチ出力は常にクローズ（導通）となります。

「診断動作」

スイッチ出力は通常クローズとなり診断イベントが発生した場合にオープンとなります。

「リミット」

スイッチ出力は通常クローズとなり、測定値が定義した値を超えた場合のみオープンとなります。

「デジタル出力」






スイッチ出力は機器のデジタル出力ブロックの一つによってコントロールされます。


選択

- オフ
- オン
- 診断動作
- リミット
- デジタル出力

追加情報

選択項目の説明

- **オフ**
出力は常にオープンです（非導通）。
- **オン**
出力は常にクローズです（導通）。
- **診断動作**
出力は通常はクローズで、診断イベントが発生したときのみオープンになります。**診断動作の割り当て** パラメータ (→  149)は、出力がオープンになるイベントタイプを設定します。
- **リミット**
出力は通常はクローズで、測定変数が設定したリミット値を超過または下回ったときのみオープンになります。リミット値は以下のパラメータで設定します。
 - **リミットの割り当て (→  149)**
 - **スイッチオンの値 (→  150)**
 - **スイッチオフの値 (→  151)**
- **デジタル出力**
出力のスイッチング状況は、DI 機能ブロックの出力値を追跡します。機能ブロックは、**ステータスの割り当て** パラメータ (→  149)で選択します。

 **オフ**および**オン**オプションを使用すると、スイッチ出力をシミュレートできます。

11) オーダーコード 020 「電源 ; 出力」、オプション B、E または G

ステータスの割り当て



ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → ステータスの割り当て
必須条件	スイッチ出力機能 (→ ☰ 148) = デジタル出力
説明	ディスクリット出力ブロックもしくは高度な診断ブロックをスイッチ出力に割り当てます。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ デジタル出力の高度な診断 1 ■ デジタル出力の高度な診断 2
追加情報	デジタル出力の高度な診断 1 および デジタル出力の高度な診断 2 は、高度な診断ブロックに関係します。このブロックで生成されたスイッチ信号はスイッチ出力を介して出力できます。

リミットの割り当て



ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → リミットの割り当て
必須条件	スイッチ出力機能 (→ ☰ 148) = リミット に設定します。
説明	どのプロセス変数をリミット設定として確認するか定義します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ リニアライゼーションされたレベル ■ 距離 ■ リニアライゼーションされた界面* ■ 界面距離* ■ 上層部の厚さ* ■ 端子電圧 ■ 電気部内温度 ■ 測定された静電容量* ■ エコーの相対振幅 ■ 界面の相対振幅* ■ エコーの絶対振幅 ■ 界面の絶対振幅*

診断動作の割り当て



ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → 診断動作の割り当て
必須条件	スイッチ出力機能 (→ ☰ 148) = 診断動作 に設定します。
説明	どの動作の診断イベントをスイッチ出力に反映させるか定義します。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

- 選択
- アラーム
 - アラーム + 警告
 - 警告

スイッチオンの値



ナビゲーション 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオンの値

必須条件 **スイッチ出力機能 (→ 148) = リミット** に設定します。

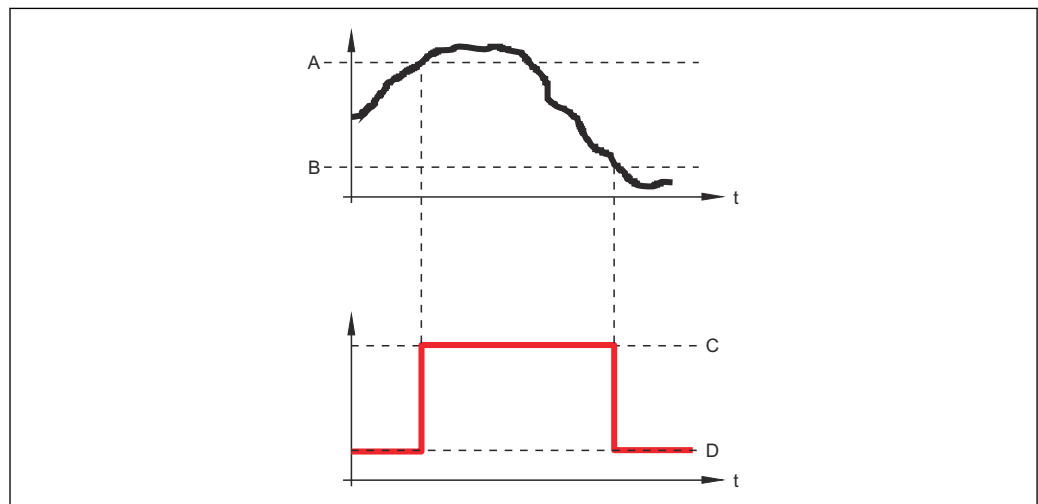
説明 スイッチがオンとなるポイントを定義します。
出力は割り当てられたプロセス変数がこのポイントよりも大きくなった場合にクローズとなります。

ユーザー入力 符号付き浮動小数点数

追加情報 スイッチ動作は、**スイッチオンの値**および**スイッチオフの値**パラメータの相対位置に応じて異なります。

スイッチオンの値 > スイッチオフの値

- 測定値が**スイッチオンの値**より大きい場合、出力はクローズになります。
- 測定値が**スイッチオフの値**より小さい場合、出力はオープンになります。

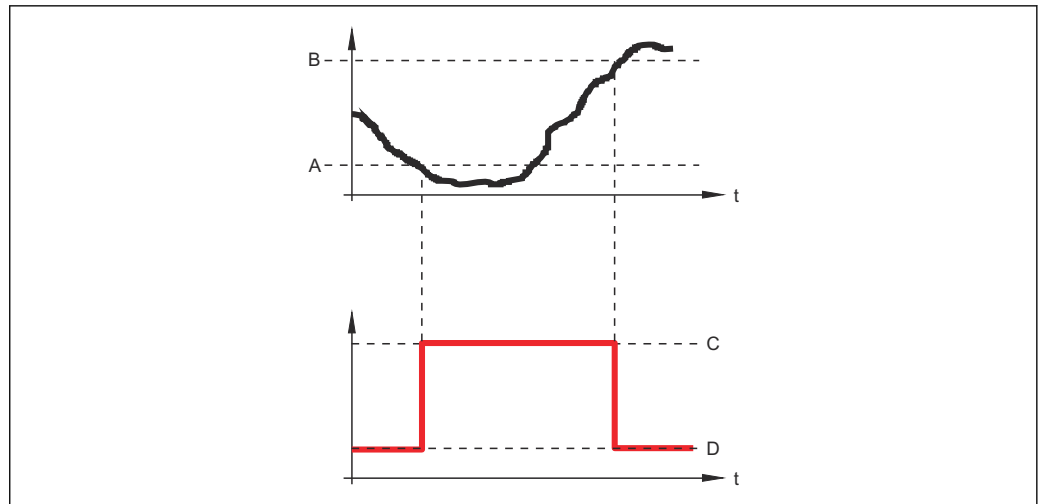


A0015585

- A スイッチオンの値
- B スイッチオフの値
- C 出力クローズ (導通)
- D 出力オープン (非導通)

スイッチオンの値 < スイッチオフの値

- 測定値が**スイッチオンの値**より小さい場合、出力はクローズになります。
- 測定値が**スイッチオフの値**より大きい場合、出力はオープンになります。



A0015586

- A スイッチオンの値
- B スイッチオフの値
- C 出力クローズ (導通)
- D 出力オープン (非導通)

スイッチオンの遅延



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオンの遅延

必須条件

- スイッチ出力機能 (→ ☰ 148) = リミット に設定します。
- リミットの割り当て (→ ☰ 149) ≠ オフ

説明

出力がスイッチオンされる前に適用される遅延時間を定義して下さい。

ユーザー入力

0.0~100.0 秒

スイッチオフの値



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオフの値

必須条件

スイッチ出力機能 (→ ☰ 148) = リミット に設定します。

説明

スイッチがオフとなるポイントを定義して下さい。
出力は割り当てられたプロセス変数がこの値よりも下に下がった場合に、オープンとなります。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数



追加情報

スイッチ動作は、**スイッチオンの値**および**スイッチオフの値**パラメータの相対位置に応じて異なります。詳細については、**スイッチオンの値**パラメータ (→ ☰ 150)を参照してください。



スイッチオフの遅延



ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオフの遅延

必須条件

- スイッチ出力機能 (→  148) = リミット に設定します。
- リミットの割り当て (→  149) ≠ オフ

説明

出力がスイッチオフされる前に適用される遅延時間を定義して下さい。



ユーザー入力

0.0～100.0 秒


フェールセーフモード



ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → フェールセーフモード

必須条件

スイッチ出力機能 (→  148) = リミット または デジタル出力

説明

エラーの場合のスイッチ出力の状態を定義して下さい。



選択

- 実際のステータス
- オープン
- クローズ

追加情報

スイッチの状態

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチの状態

説明

スイッチ出力の現在の状態。

出力信号の反転



ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → 出力信号の反転

説明

「いいえ」
スイッチ出力は前述のパラメータ設定に応じて動作します。
「はい」
スイッチ出力は前述のパラメータ設定に対して反対に動作します。


選択

- いいえ
- はい

追加情報**選択項目の説明**



- **いいえ**
スイッチ出力の挙動は上記説明の通りです。
- **はい**
オープンおよび**クローズ**のステータスは、上記説明の逆になります。

「表示」サブメニュー

 **表示** サブメニューは、表示モジュールを機器に接続している場合にのみ表示されます。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示

Language

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → Language

説明 表示言語を設定。



選択

- English *
- Deutsch *
- Français *
- Español *
- Italiano *
- Nederlands *
- Portuguesa *
- Polski *
- русский язык (Russian) *
- Svenska *
- Türkçe *
- 中文 (Chinese) *
- 日本語 (Japanese) *
- 한국어 (Korean) *
- Bahasa Indonesia *
- tiếng Việt (Vietnamese) *
- čeština (Czech) *

工場出荷時設定 製品構成の仕様コード 500 で選択した言語。
言語を選択しなかった場合：**English**

追加情報

表示形式

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示形式

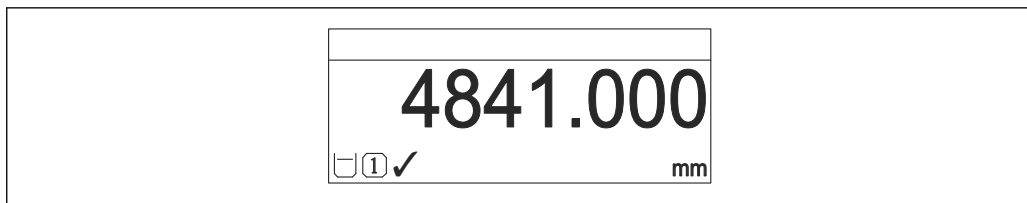
説明 測定値のディスプレイへの表示方法を選択。

選択

- 1つの値、最大サイズ
- 1つの値 + バーグラフ
- 2つの値
- 1つの値はサイズ大 + 2つの値
- 4つの値

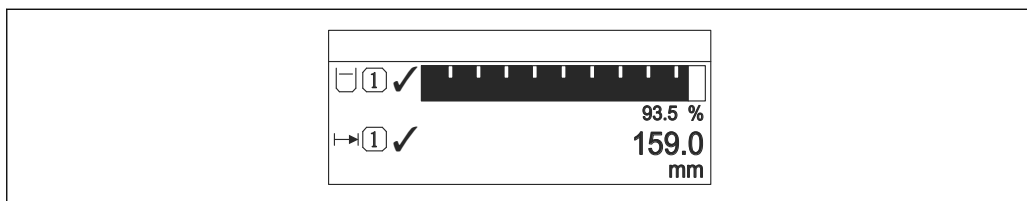
* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

追加情報



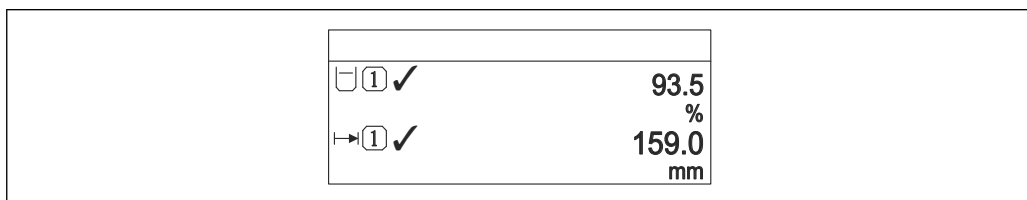
A0019963

42 「表示形式」 = 「1つの値、最大サイズ」



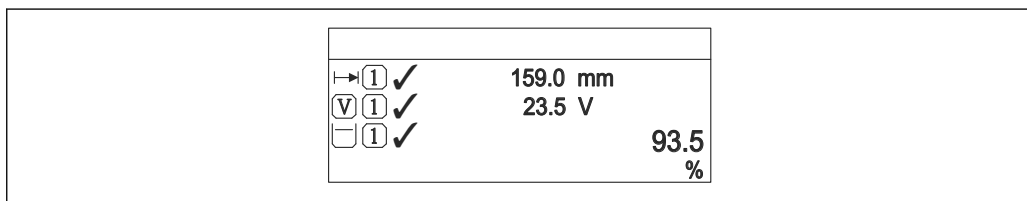
A0019964

43 「表示形式」 = 「1つの値 + バーグラフ」



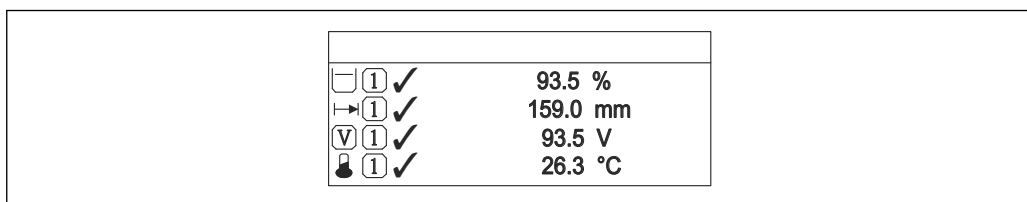
A0019965

44 「表示形式」 = 「2つの値」



A0019966

45 「表示形式」 = 「1つの値はサイズ大 + 2つの値」



A0019968


46 「表示形式」 = 「4つの値」

- i
■ 1~4 の値表示パラメータを使用して、現場表示器に表示する測定値と表示順序を設定します。
 - 選択した表示モードで許容される数より多くの測定値を指定した場合は、機器表示部上で値が交互に表示されます。次の値に変わるまでの表示時間は**表示間隔**パラメータ (→ 157)で設定します。

1~4 の値表示



ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 表示 → 1 の値表示

説明

ローカルディスプレイに表示する測定値を選択。

選択

- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- リニアライゼーションされた界面*
- 界面距離*
- 上層部の厚さ*
- 電流出力 1
- 測定した電流
- 電流出力 2*
- 端子電圧
- 電気部内温度
- 測定された静電容量*
- アナログ出力の高度な診断 1
- アナログ出力の高度な診断 2

工場出荷時設定

レベル測定の場合

- 1 の値表示: リニアライゼーションされたレベル
- 2 の値表示: 距離
- 3 の値表示: 電流出力 1
- 4 の値表示: なし

界面測定、電流出力が 1 つの場合

- 1 の値表示: リニアライゼーションされた界面
- 2 の値表示: リニアライゼーションされたレベル
- 3 の値表示: 上層部の厚さ
- 4 の値表示: 電流出力 1


界面測定、電流出力が 2 つの場合

- 1 の値表示: リニアライゼーションされた界面
- 2 の値表示: リニアライゼーションされたレベル
- 3 の値表示: 電流出力 1
- 4 の値表示: 電流出力 2

小数点桁数 1~4



ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 表示 → 小数点桁数 1

説明

この選択は、機器の計測や計算精度に影響を与えません

選択

- X
- X.X
- X.XX
- X.XXX
- X.XXXX

追加情報

この設定は、機器の測定や計算の精度には影響しません。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

表示間隔

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示間隔

説明

測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。

ユーザー入力

1～10 秒

追加情報

このパラメータは、選択された表示形式で同時に表示可能な数を、選択された測定値の数が超えた場合にのみ適用されます。

表示のダンピング



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示のダンピング

説明

測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。

ユーザー入力

0.0～999.9 秒

ヘッダー



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 表示 → ヘッダー

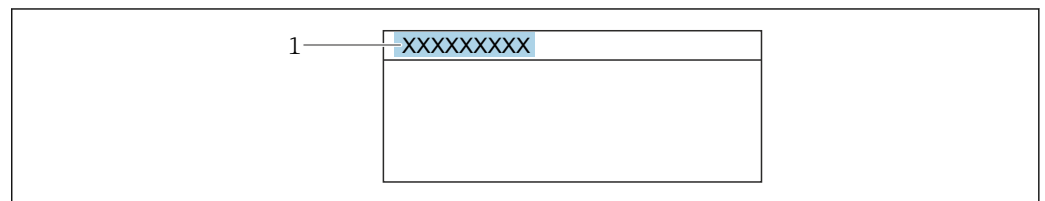
説明

ローカルディスプレイのヘッダーの内容を選択。

選択

- デバイスのタグ
- フリーテキスト

追加情報



A0029422

1 表示部のヘッダーテキストの位置

選択項目の説明

- **デバイスのタグ**
デバイスのタグ パラメータ (→ ☰ 103)で設定します。
- **フリーテキスト**
ヘッダーテキスト パラメータ (→ ☰ 158)で設定します。

ヘッダーテキスト



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 表示 → ヘッダーテキスト

必須条件

ヘッダー (→ 157) = **フリーテキスト** に設定します。

説明

ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。

ユーザー入力

数字、英字、特殊文字からなる文字列 (12)

追加情報

表示できる文字数は使用される文字に応じて異なります。

区切り記号



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 表示 → 区切り記号

説明

数値表示の桁区切り記号を選択。

選択

- .
- ,

数値形式



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 表示 → 数値形式

説明

ディスプレイの選択番号の形式。

選択

- 十進法
- ft-in-1/16"

追加情報

ft-in-1/16" オプション は、距離単位でのみ有効です。

小数点桁数メニュー



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 表示 → 小数点桁数メニュー

説明

操作メニュー内の数値の小数点桁数を選択します。


選択

- X
- X.X
- X.XX
- X.XXX
- X.XXXX

追加情報

- 操作メニュー内の数値（**空校正**や**満量校正**など）に対してのみ有効で、測定値表示部には無効です。測定値表示部の小数点以下の桁数は、**小数点桁数 1~4**パラメータで設定します。
- この設定は、機器の測定や値計算の精度には影響しません。

バックライト**ナビゲーション**

 設定 → 高度な設定 → 表示 → バックライト

必須条件

SD03 現場表示器（光学式キー付き）を使用する場合にのみ実行できます。

説明


ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。

選択


- 無効
- 有効

追加情報**選択項目の説明**

- **無効**
バックライトをオフにします。
- **有効**
バックライトをオンにします。

 このパラメータの設定に関係なく、機器の供給電圧が低すぎる場合は自動的にバックライトがオフになります。

表示のコントラスト**ナビゲーション**

 設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示のコントラスト

説明

周囲条件（照明、読み取り角度など）に合わせてローカル ディスプレイのコントラスト設定を調整。






ユーザー入力

20~80 %


工場出荷時設定

ディスプレイに応じて異なります。



追加情報



-  押しボタンでコントラストを設定します。
- より暗く：  ボタンを同時に押します。
 - より明るく：  ボタンを同時に押します。

「設定バックアップの表示」サブメニュー

 このサブメニューは、表示モジュールを機器に接続している場合にのみ表示されます。



機器の設定は、特定の時点表示モジュールに保存することが可能です (バックアップ)。保存された設定は、必要に応じて機器に復元できます (例: 機器を特定の状態に戻すため)。表示モジュールを使用して、その設定を同タイプの別の機器に伝送することも可能です。

 設定の交換は、動作モードが同じである機器間でのみ可能です (**動作モード** パラメータ (→  103)を参照)。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示

稼働時間

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 稼働時間

説明


装置の稼働時間を示す。

追加情報

最大時間
9999 d (≈ 27 年)

最後のバックアップ

ナビゲーション



  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 最後のバックアップ

説明

最後のデータのバックアップがディスプレイ モジュールに保存された時を示す。

設定管理

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 設定管理

説明

ディスプレイ モジュール内の機器データを管理する操作を選択。

選択

- キャンセル
- バックアップの実行
- 復元
- 複製
- 比較
- バックアップデータの削除

追加情報

選択項目の説明

■ キャンセル

何も実行せずにこのパラメータを終了します。

■ バックアップの実行

HistoROM（機器に内蔵）にある現在の機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールに保存します。

■ 復元

機器設定のバックアップコピーを、表示モジュールから機器の HistoROM にコピーします。

■ 複製

変換器の表示モジュールを使用して、変換器設定を別の機器に複製します。以下は個々の測定点の特性を設定するパラメータであり、伝送される設定には**含まれません**。

- HART データコード
- HART ショートタグ
- HART メッセージ
- HART 記述子
- HART アドレス
- デバイスのタグ
- 測定物タイプ

■ 比較

表示モジュールに保存された機器設定と HistoROM の現在の機器設定とを比較します。この比較結果は、**比較の結果** パラメータ (→ 161)パラメータに表示されます。

■ バックアップデータの削除

機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールから削除します。



この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。



復元 オプションを使用して既存のバックアップを別の機器に復元した場合、同じ機器機能が使用できなくなる場合があります。場合によっては、機器をリセットしても元の状態に復元できないことがあります。

設定を別の機器に伝送する場合は、必ず**複製** オプションを使用してください。

バックアップのステータス

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → バックアップのステータス

説明

バックアップ動作の現在の進捗状況を表示します。

比較の結果

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 比較の結果

説明

現在の機器データと表示したバックアップデータの比較。

追加情報

表示選択の説明

■ 設定データは一致する

HistoROM の現在の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーは一致します。

■ 設定データは一致しない

HistoROM の現在の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーは一致しません。

■ バックアップデータはありません

HistoROM の機器設定のバックアップコピーが表示モジュールにはありません。

■ 保存データの破損


HistoROM の現在の機器設定が破損しているか、または表示モジュールのバックアップコピーとの互換性はありません。


■ チェック未完了

HistoROM の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーとの比較がまだ完了していません。


■ データセット非互換

データセットに互換性がないため比較できません。

 比較を開始するには、**設定管理 (→ 160) = 比較**を設定します。


 **設定管理 (→ 160) = 複製**によって変換器の設定を別の機器から複製した場合、HistoROM の新しい機器設定は、表示モジュールに保存されている設定の一部として一致しません。センサ固有の特性（マッピングカーブなど）は複製されません。したがって、比較結果は、**設定データは一致しない**になります。

「管理」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理

アクセスコード設定

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定










説明

パラメータへの書き込み権のためのアクセスコードを定義。

ユーザー入力



0～9999

追加情報

-  工場設定を変更していない場合、または「0」を入力している場合、パラメータは書き込み保護されないため、機器設定データはいつでも変更可能な状態となります。ログインするユーザーの役割は「メンテナンス」になります。
-  書き込み保護は、本書の  シンボルが付いたすべてのパラメータに適用されます。現場表示器でパラメータの前に  シンボルが表示される場合、そのパラメータが書き込み保護されていることを示します。
-  アクセスコードを設定すると、書き込み保護されたパラメータは、**アクセスコード入力** パラメータ (→  118) でアクセスコードを入力しない限り変更できません。
-  アクセスコードを紛失した場合は、当社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。
-  現場表示器による操作の場合：新しいアクセスコードは、**アクセスコードの確認** パラメータ (→  165) で確認した後、有効になります。

機器リセット

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 管理 → 機器リセット

説明

機器の設定をリセットします-全部または一部を-決められた状態に。

選択

- キャンセル
- フィールドバスの初期値に**
- 工場出荷設定に
- 納入時の状態に
- ユーザ設定の
- 変換器初期状態へ
- 機器の再起動

** 表示は通信方式により異なります

追加情報

選択項目の説明

■ キャンセル

動作なし

■ 工場出荷設定に

すべてのパラメータをオーダーコードで指定された初期設定にリセットします。

■ 納入時の状態に

すべてのパラメータを納入時の設定にリセットします。ユーザー固有の設定が注文された場合は、出荷時の設定が工場の初期設定と異なる場合があります。

ユーザー固有の設定を注文している場合のみ、この選択項目が表示されます。

■ ユーザ設定の

すべてのユーザーパラメータをその初期設定にリセットします。ただし、サービスパラメータは変更されません。

■ 変換器初期状態へ


すべての測定関連パラメータを工場出荷時の設定にリセットします。ただし、サービスパラメータおよび通信関連パラメータは変更されません。




■ 機器の再起動



再起動により、揮発性メモリ（RAM）に保存されているすべてのパラメータを初期設定にリセットします（例：測定値データ）。機器設定に変更はありません。

「アクセスコード設定」ウィザード

i **アクセスコード設定** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、**アクセスコード設定** パラメータは**管理**サブメニューに直接表示されます。**アクセスコードの確認** パラメータは、操作ツールからは使用できません。



ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

アクセスコード設定 	
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
説明	→  163


アクセスコードの確認 	
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコードの確認
説明	入力されたアクセスコードを確認してください。
ユーザー入力	0～9999

15.4 「診断」メニュー

ナビゲーション   診断



現在の診断結果	
ナビゲーション	  診断 → 現在の診断結果
説明	現在の診断メッセージを表示します。
追加情報	<p>表示の構成：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ イベント動作のシンボル ■ 診断動作のコード ■ イベントの発生時間 ■ イベントテキスト <p>i 同時に複数のメッセージがオンの場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。</p> <p>i メッセージの原因および対策の情報については、表示器の i シンボルで表示されます。</p>

タイムスタンプ

ナビゲーション
 診断 → タイムスタンプ
説明

現在の診断メッセージのタイムスタンプ表示。

前回の診断結果



ナビゲーション
  診断 → 前回の診断結果
説明

現在の診断メッセージが出力されるまで有効であった前回の診断メッセージを表示します。


追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

 表示される状態がまだ継続している可能性があります。メッセージの原因および対策の情報については、表示器の  シンボルで表示されます。

タイムスタンプ

ナビゲーション
 診断 → タイムスタンプ
説明



前回の診断メッセージのタイムスタンプを表示。

再起動からの稼働時間

ナビゲーション
  診断 → 再起動からの稼働時間
説明

前回の機器の再起動からの稼働時間を表示します。

稼働時間

ナビゲーション
  診断 → 稼働時間
説明

装置の稼働時間を示す。

追加情報

最大時間


9999 d (≈ 27 年)

15.4.1 「診断リスト」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → 診断リスト

診断 1~5

ナビゲーション

 診断 → 診断リスト → 診断 1

説明

現在の診断メッセージの中で最も優先度の高い5つのメッセージを表示します。


追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

タイムスタンプ 1~5

ナビゲーション

 診断 → 診断リスト → タイムスタンプ 1~5

説明

診断メッセージのタイムスタンプ。

15.4.2 「イベントログブック」サブメニュー

i イベントログブックサブメニューは、現場表示器による操作でのみ使用できます。FieldCare の操作時には、FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能でイベントリストを表示できます。

ナビゲーション  診断 → イベントログブック

フィルタオプション

ナビゲーション

 診断 → イベントログブック → フィルタオプション

説明

どのカテゴリのイベントメッセージがイベントリストサブメニューに表示されるかを定義します。


選択

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報 (I)


追加情報


- i**
- このパラメータは、現場表示器による操作でのみ使用できます。
 - ステータス信号は NAMUR NE 107 に従って分類されます。

「イベントリスト」サブメニュー

イベントリスト サブメニューには、**フィルタオプション** パラメータ (→  169) で選択したカテゴリの過去のイベントの履歴が表示されます。最大 100 件のイベントを時系列に表示できます。


以下のシンボルは、イベントの発生または終了を示すものです。

-  : イベント発生
-  : イベント終了

i メッセージの原因および対策の情報については、 ボタンで確認できます。

表示形式

- カテゴリ I のイベントメッセージの場合：情報イベント、イベントテキスト、「記録イベント」シンボル、イベント発生時刻
- カテゴリ F、M、C、S (ステータス信号) のイベントメッセージの場合：診断イベント、イベントテキスト、「記録イベント」シンボル、イベント発生時刻

ナビゲーション  診断 → イベントログブック → イベントリスト

15.4.3 「機器情報」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → 機器情報

デバイスのタグ

ナビゲーション  診断 → 機器情報 → デバイスのタグ

説明 機器のタグを入力。



ユーザーインターフェイス 数字、英字、特殊文字からなる文字列

シリアル番号

ナビゲーション  診断 → 機器情報 → シリアル番号

説明 機器のシリアル番号の表示。

追加情報

-  **シリアル番号の用途**
 - 機器を迅速に識別するため（例：Endress+Hauser への問い合わせの際）
 - 機器ビューアー www.endress.com/deviceviewer を使用して詳細な機器情報を得るため
-  シリアル番号は型式銘板にも記載されています。


ファームウェアのバージョン

ナビゲーション  診断 → 機器情報 → ファームのバージョン

説明 ファームウェアバージョンの表示。

ユーザーインターフェイス xx.yy.zz

追加情報

-  ファームウェアのバージョンが最後の 2 桁（「zz」）のみ異なる場合、機能と操作に関する違いはありません。

機器名

ナビゲーション  診断 → 機器情報 → 機器名

説明 変換器の名称の表示。

オーダーコード
**ナビゲーション**

診断 → 機器情報 → オーダーコード

説明

機器のオーダーコードの表示。

ユーザーインターフェイス

数字、英字、特殊文字からなる文字列

追加情報

オーダーコードは、機器の製品構成に関するすべての仕様項目を明示する拡張オーダーコードから生成されたものです。一方で、オーダーコードから直接機器仕様項目を読み取ることはできません。

拡張オーダーコード 1~3
**ナビゲーション**

診断 → 機器情報 → 拡張オーダーコード 1

説明

拡張オーダーコードの3つのパートが表示されます。

ユーザーインターフェイス

数字、英字、特殊文字からなる文字列

追加情報

拡張オーダーコードは、機器の製品構成に関するすべての仕様項目を示すものであり、それにより機器を一意的に識別することが可能です。

機器リビジョン
ナビゲーション

診断 → 機器情報 → 機器リビジョン

説明

HART 協会へ登録してあるデバイスリビジョンの表示。

追加情報

機器リビジョンは、機器に適切な DD ファイルを割り当てるために使用します。

機器 ID
ナビゲーション

診断 → 機器情報 → 機器 ID

説明

HART ネットワーク内で機器を認識するために機器 ID を表示します。

追加情報

機器タイプと製造者 ID に加えて、機器 ID は機器の固有 ID の一部であり、各 HART 機器を明確に特定します。

機器タイプ

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 機器情報 → 機器タイプ

説明

HART 協会へ登録しているデバイスタイプの表示。

追加情報

製造者 ID

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 機器情報 → 製造者 ID

説明

この機能を使用して、HART Communication Foundation に登録されている、機器の製造者 ID を表示します。

ユーザーインターフェイス

2桁の16進数

工場出荷時設定



0x11 (Endress+Hauser の場合)

15.4.4 「測定値」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 測定値

距離

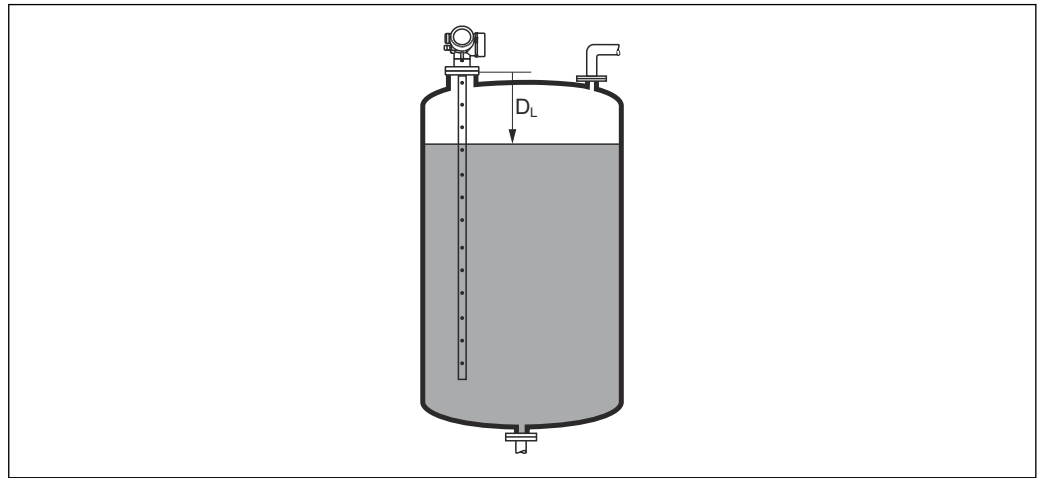
ナビゲーション

  診断 → 測定値 → 距離


説明

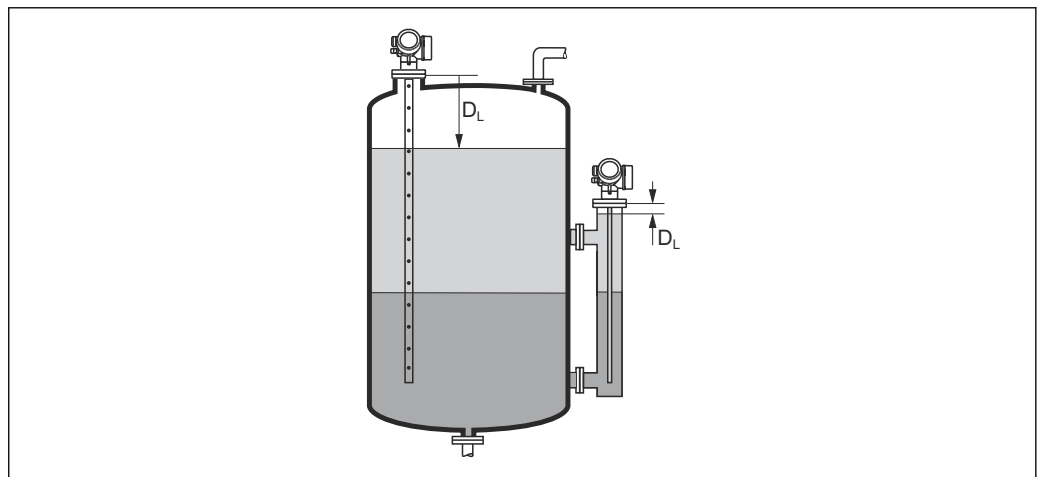
測定基準点（フランジまたはネジ込み接続の下端）からレベルまでの測定距離 D_L を表示します。

追加情報






A0013198

 47 液体計測の距離



A0013199

 48 界面測定 of 距離

 単位は、**距離の単位** パラメータ (→  104) で設定します。

リニアライゼーションされたレベル

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → リニアライズされたレベル

説明

リニアライズされたレベルを表示します。

追加情報

- i** この単位はリニアライゼーション後の単位 パラメータで設定します。
- 界面測定の場合、このパラメータは常に全体レベルに関連付けられます。

界面距離

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 界面距離

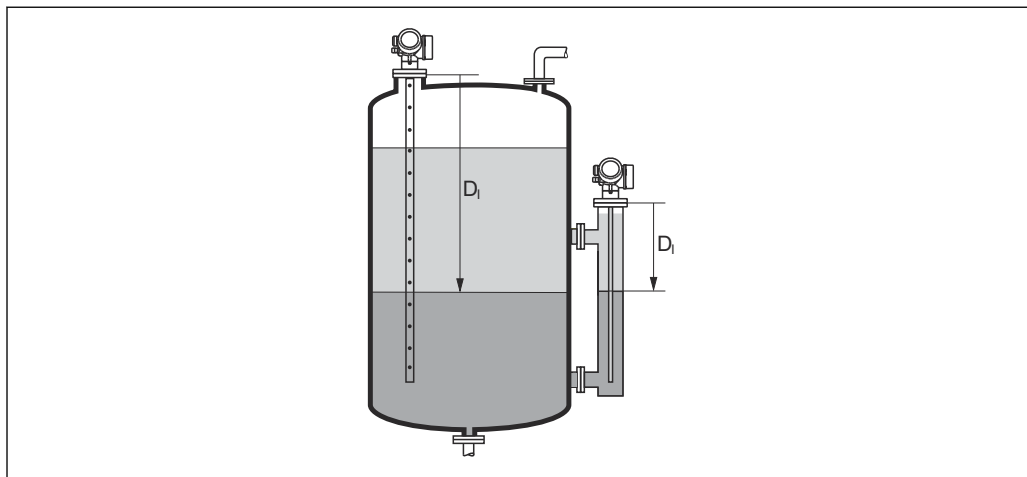
必須条件

動作モード (→ ☰ 103) = 界面または静電容量による界面

説明

測定基準点（フランジまたはネジ込み接続の下端）から界面層までの測定距離 D_1 を表示します。

追加情報



A0013202

- i** 単位は、距離の単位 パラメータ (→ ☰ 104) で設定します。

リニアライゼーションされた界面

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → リニアライズされた界面

必須条件

動作モード (→ ☰ 103) = 界面 または 静電容量による界面

説明

リニアライズされた界面高さを表示します。

追加情報

- i** この単位はリニアライゼーション後の単位 パラメータで設定します。

上層部の厚さ

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 上層部の厚さ

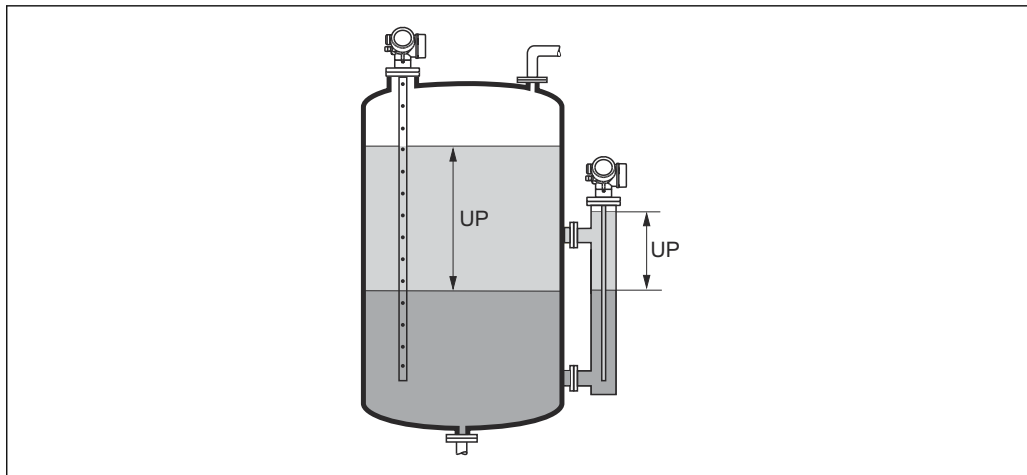
必須条件

動作モード (→ ☰ 103) = 界面 または 静電容量による界面

説明

上部界面の厚み (UP) を表示します。

追加情報



A0013313

UP 上層部の厚さ

i 単位は、リニアライゼーション後の単位 パラメータ → ☰ 134 で設定します。

端子電圧 1

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 端子電圧 1

説明


電流出力端子にかかっている現在の電圧を示します。

15.4.5 「データのログ」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → データのログ

チャンネル 1~4 の割り当て

ナビゲーション

 診断 → データのログ → チャンネル 1~4 の割り当て

説明

ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。

選択


- オフ
- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- フィルタ処理なしの距離
- リニアライゼーションされた界面*
- 界面距離*
- フィルタ処理なしの界面距離
- 上層部の厚さ*
- 電流出力 1
- 測定した電流
- 電流出力 2*
- 端子電圧
- 電気部内温度
- 測定された静電容量*
- エコーの絶対振幅
- エコーの相対振幅
- 界面の絶対振幅*
- 界面の相対振幅*
- 絶対 EOP 振幅
- EOP シフト
- 信号ノイズ
- DC の計算値*
- アナログ出力の高度な診断 1
- アナログ出力の高度な診断 2

追加情報

合計 1000 個の測定値をロギングできます。つまり、

- ロギングチャンネルを 1 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 1000 個
- ロギングチャンネルを 2 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 500 個
- ロギングチャンネルを 3 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 333 個
- ロギングチャンネルを 4 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 250 個

データポイントが最大数に達すると、データログの最も古いデータポイントが周期的に上書きされ、必ず最新の測定値 1000、500、333、または 250 個がログに保存されます（リングメモリ形式）。

 このパラメータで新しいオプションを選択すると、ログデータは削除されます。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

ロギングの時間間隔



ナビゲーション

- 診断 → データのログ → ロギングの時間間隔
- 診断 → データのログ → ロギングの時間間隔

説明

データロギングの間隔を定義します。この値はメモリ内の個々のデータ間隔の時間を定義します。

ユーザー入力

1.0~3600.0 秒

追加情報

このパラメータは、データログの各データポイント間の時間間隔を設定するもので、それにより、ロギング可能な最大の時間 T_{log} が決まります。

- ロギングチャンネルを1つ使用する場合： $T_{log} = 1000 \cdot t_{log}$
- ロギングチャンネルを2つ使用する場合： $T_{log} = 500 \cdot t_{log}$
- ロギングチャンネルを3つ使用する場合： $T_{log} = 333 \cdot t_{log}$
- ロギングチャンネルを4つ使用する場合： $T_{log} = 250 \cdot t_{log}$

設定時間が経過すると、データログの最も古いデータポイントが周期的に上書きされ、必ず T_{log} の時間がメモリに保存されます（リングメモリ形式）。

このパラメータを変更すると、ログデータは削除されます。

例

ロギングチャンネルを1つ使用する場合

- $T_{log} = 1000 \cdot 1 \text{ 秒} = 1000 \text{ 秒} \approx 16.5 \text{ min}$
- $T_{log} = 1000 \cdot 10 \text{ 秒} = 1000 \text{ 秒} \approx 2.75 \text{ h}$
- $T_{log} = 1000 \cdot 80 \text{ 秒} = 80000 \text{ 秒} \approx 22 \text{ h}$
- $T_{log} = 1000 \cdot 3600 \text{ 秒} = 3600000 \text{ 秒} \approx 41 \text{ d}$

すべてのログをリセット



ナビゲーション

- 診断 → データのログ → すべてのログをリセット
- 診断 → データのログ → すべてのログをリセット

説明

全てのロギングデータをクリア。

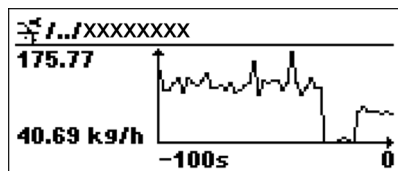
選択

- キャンセル
- データ削除

「チャンネル 1~4 表示」サブメニュー

i チャンネル 1~4 表示サブメニューは、現場表示器による操作でのみ使用できます。FieldCare の操作時には、FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能でログダイアグラムを表示できます。

チャンネル 1~4 表示サブメニューは、各チャンネルのログ履歴のダイアグラムを表示します。



- x 軸：選択されたチャンネル数に応じて 250 ~ 1000 個のプロセス変数の測定値が表示されます。
- y 軸：常に測定中の値に合わせて、おおまかな測定値スパンを示します。

i 操作メニューに戻るには、**田** と **田** を同時に押します。

ナビゲーション **田田** 診断 → データのログ → チャンネル 1~4 表示


15.4.6 「シミュレーション」サブメニュー







シミュレーションサブメニューは、特定の測定値または別の条件のシミュレーションに使用されます。これにより、機器や接続した制御ユニットが正しく設定されているか確認できます。

シミュレーション可能な条件


シミュレートする条件	関連するパラメータ
プロセス変数の特定値	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 測定値の割り当て (→ 181) ▪ 測定値 (→ 181)
スイッチ出力の特定状態	<ul style="list-style-type: none"> ▪ シミュレーションスイッチ出力 (→ 181) ▪ スwitchの状態 (→ 182)
アラームの有無	機器アラームのシミュレーション (→ 182)
特定の診断メッセージの有無	診断イベントのシミュレーション (→ 182)

サブメニューの構成



ナビゲーション  エキスパート → 診断 → シミュレーション

▶ シミュレーション	
測定値の割り当て	→  181
測定値	→  181
シミュレーションスイッチ出力	→  181
スイッチの状態	→  182
機器アラームのシミュレーション	→  182
診断イベントのシミュレーション	→  182



パラメータの説明

ナビゲーション  エキスパート → 診断 → シミュレーション


測定値の割り当て

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 測定値の割り当て
説明	シミュレーションを実行するためのプロセス変数を定義します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ レベル ■ 界面[*] ■ 上層部の厚さ[*] ■ リニアライゼーションされたレベル ■ リニアライゼーションされた界面 ■ リニアライゼーションされた厚み
追加情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ シミュレートする変数の値は、測定値 パラメータ (→  181) で設定します。 ■ 測定値の割り当て ≠ オフ の場合、シミュレーションはオンです。これは、機能チェック (C) カテゴリの診断メッセージで確認できます。

測定値

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 測定値
必須条件	測定値の割り当て (→  181) ≠ オフ
説明	<p>選択した変数の値を定義します。</p> <p>出力はこの値に従って値もしくは状態を想定します。</p>
ユーザー入力	符号付き浮動小数点数
追加情報	その後の測定値処理と信号出力には、このシミュレーション値を使用します。これにより、機器が正しく設定されているかどうかを確認できます。

シミュレーションスイッチ出力

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → シミュレーションスイッチ
説明	スイッチ出力のシミュレーションをオン、オフします。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

スイッチの状態



ナビゲーション

エキスパート → 診断 → シミュレーション → スイッチの状態

必須条件

シミュレーションスイッチ出力 (→ 181) = オン に設定します。

説明

スイッチ出力の現在の状態。

選択

- オープン
- クローズ

追加情報

スイッチ状態は、このパラメータで設定した値を取ります。これにより、接続した制御ユニットが正しく動作することを確認できます。

機器アラームのシミュレーション



ナビゲーション

エキスパート → 診断 → シミュレーション → アラームのシミュレーション

説明

デバイスアラームのシミュレーションをオン、オフします。

選択

- オフ
- オン

追加情報

オン オプションを選択すると、アラームが生成されます。これにより、アラームが発生した場合の機器の出力動作が適切であるかどうかを確認できます。

アクティブなシミュレーションは診断メッセージ C484 エラーモードのシミュレーション で表示されます。

診断イベントのシミュレーション



ナビゲーション

エキスパート → 診断 → シミュレーション → 診断シミュレーション

説明

シミュレーションする診断イベントを選択

注意:

シミュレーションを止めるには、'オフ'を選択します。



追加情報

現場表示器を介して操作する場合、選択リストはイベントカテゴリーに応じてフィルタリングできます (**診断イベントの種類** パラメータ)。



15.4.7 「機器チェック」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 機器チェック



機器チェック開始

ナビゲーション	  診断 → 機器チェック → 機器チェック開始
説明	機器チェックを開始します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ いいえ ■ はい
追加情報	反射がない場合、機器チェックは実施できません。

機器チェックの結果

ナビゲーション	  診断 → 機器チェック → 機器チェックの結果
説明	機器チェックの結果を表示します。
追加情報	<p>表示選択の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インストール OK 制限のない測定が可能です。 ■ 精度制限あり 測定は可能です。ただし、信号振幅により測定精度が低下する可能性があります。 ■ 測定機能低下 現時点で測定は可能です。ただし、エコー信号を見失う可能性があります。機器の取付位置と測定物の比誘電率を確認してください。 ■ チェック未完了 機器チェックは実施されていません。

前回のチェック時刻

ナビゲーション	  診断 → 機器チェック → 前回のチェック時刻
説明	前回の機器チェックが実施されたときの稼働時間を表示します。
ユーザーインターフェイス	数字、英字、特殊文字からなる文字列

レベル信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → レベル信号
必須条件	機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	レベル信号の機器チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ チェック未完了 ■ チェック NG ■ チェック OK
追加情報	レベル信号 = チェック NG : 機器の取付位置と測定物の比誘電率を確認してください。

開始信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → 開始信号
必須条件	機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	開始信号の表示チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ チェック未完了 ■ チェック NG ■ チェック OK
追加情報	開始信号 = チェック NG : 機器の取付位置を確認してください。非金属タンクの場合は、金属板または金属フランジを使用します。

界面信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → 界面信号
必須条件	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動作モード (→ ☰ 103) = 界面 または 静電容量による界面 ■ 機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	界面信号の機器チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ チェック未完了 ■ チェック NG ■ チェック OK

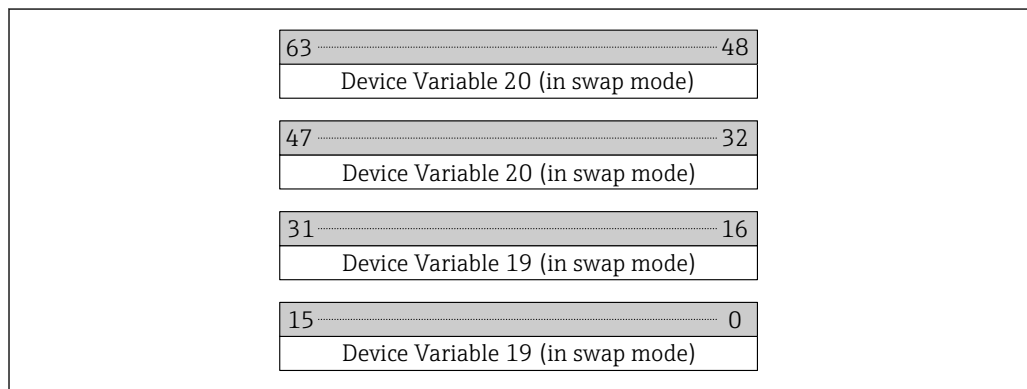
15.5 Modbus レジスタの割り当て

15.5.1 レジスタテーブル


レジスタ	パラメータ	データ型	スワップモード	説明
10	メインバージョン	UINT16	-	メインファームウェアのバージョンコード
11	メジャーバージョン	UINT16	-	メジャーファームウェアのバージョンコード
12	マイナーバージョン	UINT16	-	マイナーファームウェアのバージョンコード
13	ソフトウェアのビルド番号	UINT16	-	ファームウェアのビルド番号
100	旧ステータス	UINT32	-	ゼロのみ
102	PV 値	UINT32	CDAB	HART 第 1 変数
104	SV 値	UINT32	CDAB	HART 第 2 変数
106	TV 値	UINT32	CDAB	HART 第 3 変数
108	QV 値	UINT32	CDAB	HART 第 4 変数
110	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
114	診断	UINT64	CDAB	「診断バイトの形式」を参照→ 186
118	PV 単位	UINT16	-	HART 第 1 変数の単位
119	SV 単位	UINT16	-	HART 第 2 変数の単位
120	TV 単位	UINT16	-	HART 第 3 変数の単位
121	QV 単位	UINT16	-	HART 第 4 変数の単位
122	変数 19 単位	UINT16	-	変数 19 の単位
123	変数 20 単位	UINT16	-	変数 20 の単位
199	追加ステータス	UINT16	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1: 機器ロック ■ 2: 機器ロック解除
1300	旧ステータス	UINT32	-	すべてゼロ
1302	PV 値	UINT32	CDAB	HART 第 1 変数
1304	SV 値	UINT32	CDAB	HART 第 2 変数
1306	TV 値	UINT32	CDAB	HART 第 3 変数
1308	QV 値	UINT32	CDAB	HART 第 4 変数
1310	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
1314	診断	UINT64	CDAB	「診断バイトの形式」を参照→ 186
1400	旧ステータス	UINT32	-	すべてゼロ
1402	PV 値	UINT32	CDAB	HART 第 1 変数
1404	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
1414	SV 値	UINT32	CDAB	HART 第 2 変数
1416	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
1426	TV 値	UINT32	CDAB	HART 第 3 変数
1428	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
1438	QV 値	UINT32	CDAB	HART 第 4 変数
1440	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
2000	旧ステータス	UINT32	-	すべてゼロ
2002	PV 値	UINT32	ABCD	HART 第 1 変数
2004	SV 値	UINT32	ABCD	HART 第 2 変数

レジスタ	パラメータ	データ型	スワップモード	説明
2006	TV 値	UINT32	ABCD	HART 第 3 変数
2008	QV 値	UINT32	ABCD	HART 第 4 変数
2010	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
2014	診断	UINT64	ABCD	「診断バイトの形式」を参照→ 186
2100	旧ステータス	UINT32	-	すべてゼロ
2102	PV 値	UINT32	DCBA	HART 第 1 変数
2104	SV 値	UINT32	DCBA	HART 第 2 変数
2106	TV 値	UINT32	DCBA	HART 第 3 変数
2108	QV 値	UINT32	DCBA	HART 第 4 変数
2110	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
2114	診断	UINT64	DCBA	「診断バイトの形式」を参照→ 186
2200	旧ステータス	UINT32	-	すべてゼロ
2202	PV 値	UINT32	BADC	HART 第 1 変数
2204	SV 値	UINT32	BADC	HART 第 2 変数
2206	TV 値	UINT32	BADC	HART 第 3 変数
2208	QV 値	UINT32	BADC	HART 第 4 変数
2210	ステータス	UINT64	-	「ステータスバイトの形式」を参照→ 187
2214	診断	UINT64	BADC	「診断バイトの形式」を参照→ 186

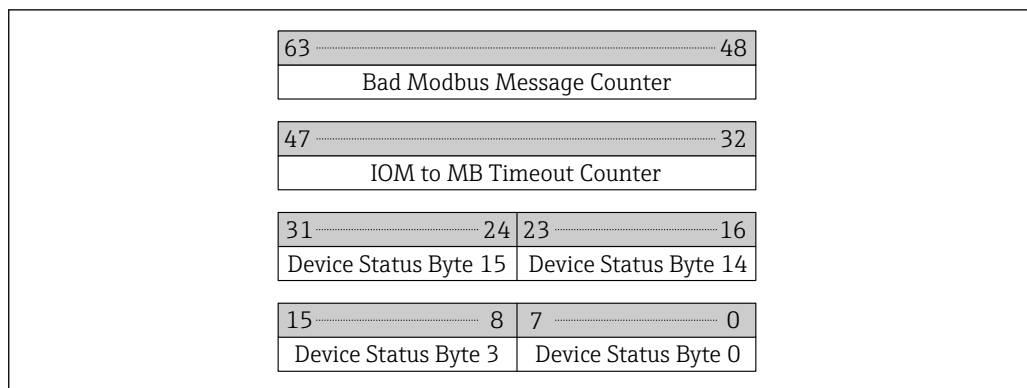
15.5.2 診断バイトの形式




A0043330

 「機器変数 19」および「機器変数 20」は HART コマンド 9 から得られます。

15.5.3 ステータスバイトの形式



A0043329

 ステータスバイトは HART コマンド 48 から得られます。

以下のステータスビットのいずれかが機器で設定されている場合、測定値は 9999.99 に変わります。これにより機器に問題があることをユーザーに警告します。

バイト	ビット	意味
3	5	⊗F273 メイン電子モジュール故障
3	6	⊗F275 I/O モジュール故障
14	1	⊗F104 HF ケーブル
14	2	⊗F105 HF ケーブル
14	3	⊗F106 センサ
15	4	⊗F270 メイン電子モジュール故障
15	5	⊗F271 メイン電子モジュール故障
15	6	⊗F272 メイン電子モジュール故障

索引

記号

安全設定 (サブメニュー)	141
下層測定物の DC (パラメータ)	124
稼動時間 (パラメータ)	160, 166
界面 (サブメニュー)	124
界面 (パラメータ)	112
界面距離 (パラメータ)	113, 174
界面信号 (パラメータ)	184
開始信号 (パラメータ)	184
拡張オーダーコード 1 (パラメータ)	171
管理 (サブメニュー)	163
機器 ID (パラメータ)	171
機器アラームのシミュレーション (パラメータ)	182
機器タイプ (パラメータ)	172
機器チェック (サブメニュー)	183
機器チェックの結果 (パラメータ)	183
機器チェック開始 (パラメータ)	183
機器リセット (パラメータ)	163
機器リビジョン (パラメータ)	171
機器情報 (サブメニュー)	170
機器名 (パラメータ)	170
距離 (パラメータ)	108, 116, 173
距離の確定 (パラメータ)	113, 116
距離の単位 (パラメータ)	104
区切り記号 (パラメータ)	158
空校正 (パラメータ)	105
現在のマッピング (パラメータ)	114
現在の診断結果 (パラメータ)	165
高度なプロセス条件 (パラメータ)	121
高度な設定 (サブメニュー)	117
再起動からの稼動時間 (パラメータ)	166
最後のバックアップ (パラメータ)	160
最大値 (パラメータ)	136
実際のプローブ長 (パラメータ)	144, 147
出力エコー信号消失 (パラメータ)	141
出力信号の反転 (パラメータ)	152
小数点桁数 1 (パラメータ)	156
小数点桁数メニュー (パラメータ)	158
上層部の厚さ (パラメータ)	175
上層部の厚さ手動入力 (パラメータ)	126, 129
上部接続までの距離 (パラメータ)	111
信号品質 (パラメータ)	109
診断 (メニュー)	165
診断 1 (パラメータ)	168
診断イベントのシミュレーション (パラメータ)	182
診断リスト (サブメニュー)	168
診断動作の割り当て (パラメータ)	149
数値形式 (パラメータ)	158
製造者 ID (パラメータ)	172
設定 (メニュー)	103
設定バックアップの表示 (サブメニュー)	160
設定管理 (パラメータ)	160
前回のチェック時刻 (パラメータ)	183
前回の診断結果 (パラメータ)	166
測定された上層部厚さ (パラメータ)	127
測定値 (サブメニュー)	173

測定値 (パラメータ)	181
測定値の割り当て (パラメータ)	181
測定物グループ (パラメータ)	105
測定物タイプ (パラメータ)	119
測定物特性 (パラメータ)	119
端子電圧 1 (パラメータ)	175
中間高さ (パラメータ)	137
直径 (パラメータ)	137
動作モード (パラメータ)	103
比較の結果 (パラメータ)	161
表示 (サブメニュー)	154
表示のコントラスト (パラメータ)	159
表示のダンピング (パラメータ)	157
表示間隔 (パラメータ)	157
表示形式 (パラメータ)	154
不感知距離 (パラメータ)	122, 125, 142
返却	78
満量校正 (パラメータ)	106

0~9

1 の値表示 (パラメータ)	156
----------------------	-----

B

Bluetooth® ワイヤレス技術	43
--------------------------	----

D

DC の計算値 (パラメータ)	127
DC の計算値を使用 (パラメータ)	128, 129
DC の自動計算 (ウィザード)	129
DC 値 (パラメータ)	111, 127, 129
DIP スイッチ	
書き込み保護スイッチを参照	

F

FHX50	43
-------------	----

L

Language (パラメータ)	154
------------------------	-----

ア

アクセサリ	
機器固有の	79
サービス関連	89
システムコンポーネント	89
通信関連	89
アクセスコード	45
不正な入力	45
アクセスコードの設定	45, 46
アクセスコードの確認 (パラメータ)	165
アクセスコード設定 (ウィザード)	165
アクセスコード設定 (パラメータ)	163, 165
アクセスコード入力 (パラメータ)	118
アクセスステータス ツール (パラメータ)	117
アクセスステータス表示 (パラメータ)	118
アプリケーション	9
安全上の注意事項	
基本	9

イ

- イベントテキスト 70
- イベントリスト 73
- イベントリスト (サブメニュー) 169
- イベント履歴 73
- イベントレベル
 - シンボル 69
 - 説明 69
- イベントログブック (サブメニュー) 169
- イベントログブックのフィルタ処理 74

ウ

- ウィザード
 - DCの自動計算 129
 - アクセスコード設定 165
 - プローブ長の補正 146
 - マッピング 116

エ

- エコー信号消失時の値 (パラメータ) 141
- エコー信号消失時急上昇 (パラメータ) 142

オ

- オーダーコード (パラメータ) 171

カ

- 外筒管 23
- 外部洗浄 76
- 界面測定の設定 60
- 書き込みアクセス 45
- 書き込み保護
 - アクセスコードによる 45
 - 書き込み保護スイッチを使用 46
- 書き込み保護スイッチ 46
- 過電圧保護
 - 一般情報 39

キ

- キーパッドロック
 - 無効化 47
 - 有効化 47
- 機器設定の管理 65
- 機器の交換 77

ケ

- 計測機器の用途
 - 指定用途を参照
 - 不適切な用途 9
 - 不明な場合 9
- 現場操作 42
- 現場表示器
 - アラーム状態時を参照
 - 診断メッセージを参照

コ

- コアキシャルプローブ
 - 構造 11
 - 切断 32
 - 横方向からの許容応力 19
- コアキシャルプローブの固定 23

- 工具 31
- コンテキストメニュー 54

サ

- サービスインタフェース (CDI) 43
- サブメニュー
 - イベントリスト 73, 169
 - イベントログブック 169
 - シミュレーション 180, 181
 - スイッチ出力 148
 - チャンネル1~4表示 178
 - データのログ 176
 - プローブ設定 144
 - リニアライゼーション 131, 132, 133
 - レベル 119
 - 安全設定 141
 - 界面 124
 - 管理 163
 - 機器チェック 183
 - 機器情報 170
 - 高度な設定 117
 - 診断リスト 168
 - 設定バックアップの表示 160
 - 測定値 173
 - 表示 154

シ

- システムコンポーネント 89
- 指定用途 9
- シミュレーション (サブメニュー) 180, 181
- シミュレーションスイッチ出力 (パラメータ) .. 181
- 修理コンセプト 77
- シリアル番号 (パラメータ) 170
- 診断
 - シンボル 69
 - 診断イベント 69, 70
 - 操作ツール上 71
 - 診断メッセージ 69
 - 診断リスト 73
 - シンボル
 - 修正用 52
 - テキストおよび数値エディタにおいて 52

ス

- スイッチオフの値 (パラメータ) 151
- スイッチオフの遅延 (パラメータ) 152
- スイッチオン値 (パラメータ) 150
- スイッチオンの遅延 (パラメータ) 151
- スイッチの状態 (パラメータ) 152, 182
- スイッチ出力 (サブメニュー) 148
- スイッチ出力機能 (パラメータ) 148
- ステータス信号 50, 69
- ステータスの割り当て (パラメータ) 149
- スペアパーツ 78
 - 銘板 78
- すべてのログをリセット (パラメータ) 177

セ

- 製品の安全性 10

設定			
機器設定の管理	65		
操作言語	57		
洗浄	76		
ソ			
操作言語の設定	57		
操作上の安全性	10		
操作部			
診断メッセージ	70		
操作モジュール	49		
測定値シンボル	51		
測定物	9		
タ			
対処法			
終了	71		
呼び出し	71		
タイムスタンプ (パラメータ)	166		
タイムスタンプ 1~5 (パラメータ)	168		
タンクタイプ (パラメータ)	104		
タンクの外側への取付け	27		
タンクレベル (パラメータ)	110		
断熱	29		
チ			
地下タンク	26		
チャンネル 1~4 表示 (サブメニュー)	178		
チャンネル 1~4 の割り当て (パラメータ)	176		
テ			
データのログ (サブメニュー)	176		
テーブルモード (パラメータ)	137		
テーブルを有効にする (パラメータ)	139		
テーブル番号 (パラメータ)	138		
適用分野			
残存リスク	9		
デバイスのタグ (パラメータ)	103, 170		
電子部ハウジング			
構成	12		
ト			
登録商標	8		
トラブルシューティング	67		
ナ			
内筒管	23		
ニ			
入力画面	52		
ネ			
ネジ込み接続	33		
ハ			
ハードウェア書き込み保護	46		
廃棄	78		
パイプ直径 (パラメータ)	104		
ハウジング			
回転	36		
構成	12		
バックアップのステータス (パラメータ)	161		
バックライト (パラメータ)	159		
パラメータのアクセス権			
書き込みアクセス	45		
読み取りアクセス	45		
反射波形表示	55		
ヒ			
非金属タンク	27		
表示シンボル	50		
表示部および操作モジュール FHX50	43		
表示部の回転	36		
表示モジュール	49		
表示モジュールの回転	37		
フ			
ファームウェアのバージョン (パラメータ)	170		
フィルタオプション (パラメータ)	169		
フェールセーフモード (パラメータ)	152		
フランジ	34		
フリーテキスト (パラメータ)	135		
プローブ接地 (パラメータ)	144		
プローブ設定 (サブメニュー)	144		
プローブ長の確認 (パラメータ)	145, 146		
プローブ長の補正 (ウィザード)	146		
プロセス特性 (パラメータ)	120, 124		
ヘ			
ヘッダー (パラメータ)	157		
ヘッダーテキスト (パラメータ)	158		
変換器			
表示部の回転	36		
表示モジュールの回転	37		
変換器ハウジング			
回転	36		
ホ			
本文			
目的	5		
本文の目的	5		
マ			
マッピング (ウィザード)	116		
マッピングの最終点 (パラメータ)	114, 116		
マップ記録 (パラメータ)	115, 116		
メ			
メニュー			
診断	165		
設定	103		
メンテナンス	76		
ユ			
ユーザー様の値 (パラメータ)	139		
ヨ			
要員の要件	9		
読み取りアクセス	45		

リ

- リニアライゼーション (サブメニュー) 131, 132, 133
- リニアライゼーションされたレベル (パラメータ)
..... 136, 174
- リニアライゼーションされた界面 (パラメータ)
..... 136, 174
- リニアライゼーションの方式 (パラメータ) 133
- リニアライゼーション後の単位 (パラメータ) .. 134
- リミットの割り当て (パラメータ) 149

レ

- レベル (サブメニュー) 119
- レベル (パラメータ) 107, 139
- レベル測定の設定 58
- レベル測定用の取付位置 15
- レベル信号 (パラメータ) 184
- レベル単位 (パラメータ) 122, 125
- レベル補正 (パラメータ) 123, 126

ロ

- 労働安全 9
- ローププロープ
 - 許容引張荷重 17
 - 構造 11
 - 切断 31
 - 設置 34
- ローププロープの固定 21
- ロギングの時間間隔 (パラメータ) 177
- ロック状態 50
- ロック状態 (パラメータ) 117
- ロッドプロープ
 - 構造 11
 - 切断 31
 - 横方向からの許容応力 18
- ロッドプロープの固定 22



www.addresses.endress.com
